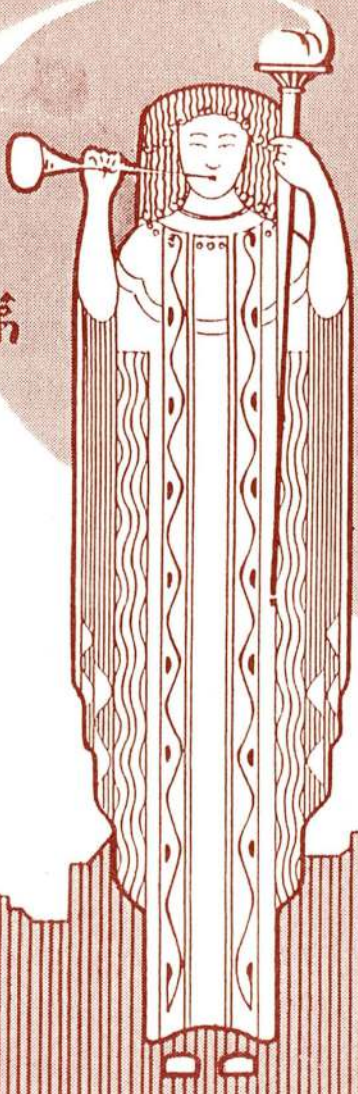
日本建築協會雜誌

第二輯　第六號



大正八年六月二十五日

大正八年六月廿五日印刷（毎月一回廿五日發行）
大正八年六月廿五日發行（毎月一回廿五日發行）

日本建築協會會則

第一條　本會ハ目的ハ我國建築界ノ堅實ナル發展ヲ期スルヲ以テ目的トス

第二條　本會ハ日本建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格、學識、經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラムト希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會ノ詮衡ヲ經テ例會ニ於テ之ヲ議決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ贊成シ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ四種トス

一　名譽賛助員―地位又ハ學識アル名望家

二　終身賛助員―金百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル篤志家

三　特別賛助員―建築ニ關聯スル特種ノ技術官又ハ事業家

四　普通賛助員―建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

終身賛助員タラムトスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

特別賛助員タラムトスル者ハ會員二名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及履歷書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラムトスル者ハ會員貳名以上ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スヘシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

會員ハ會內ニ於ケル其資格ニ付會外ニ於テ責ニ任ゼザルコトヲ得

名譽賛助員ハ本會ノ優遇及第十九條ニ基キ相當ノ利得ヲ受ク

終身賛助員、特別賛助員及普通賛助員ハ第十九條ニ基キ會誌ノ配布其他各相當ノ利得ヲ受ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラルル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若ハ之ニ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免カルルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一　會頭　一名

二　副會頭　一名

三　理事長　一名

四　理事　六名

會頭ハ會務ヲ總攬シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會務ヲ總理シ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但會頭副會頭ノ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

後任ノ任期ハ貳年トス

理事ノ改選ハ每年半數トス但引續キ重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一　主　記　一名

二　計　一名

三　編　輯　三名

四　編輯補　若干名

五　書　記　若干名

主記ハ庶務ヲ、主計ハ會計ヲ、編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記、主計、編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トスルコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應ジ例會ノ決議ニ依リ各部委員長及委員ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名シ委員長ハ當該委員ノ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ顧問委員トナスコトヲ得

第十六條　委員長ハ當該委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ當該委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ノ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ每月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、講話會、討論會又ハ講演會ヲ催ス但理事會ハ必要ト認ムルトキ臨時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事會之ヲ會員ニ報告ス但緊急事項ニ付テハ此限ニ在ラス

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行事業務左ノ如シ

一　建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究

二　調査研究報告ノ發表

三　建築ニ關スル重要事項ノ議決

四　議事專門ノ實行促進

五　會誌ノ發刊

六　建築ニ關スル圖書ノ刊行

七　建築ニ關スル講演會ノ開催

八　建築ニ關スル展覽會ノ公開

九　建築ニ關スル視察

十　建築ニ關スル有志者ノ親睦會

十一　理想的建築ノ計畫

十二　其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ノ會費年額金拾貳圓ヲ本會ニ據出ス

但例會ニ出席シ難キ地方ニ在ル會員ノ會費ハ半額トス

一時ニ金百圓以上ヲ出ストキハ爾後前項ノ會費ヲ免ス

會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金五圓ヲ本會ニ納付スベシ

特別賛助員ハ特別賛助費年額金六圓ヲ、普通賛助員ハ普通賛助費年額金參圓ヲ本會ニ前納スベシ

但六箇月以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助費其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

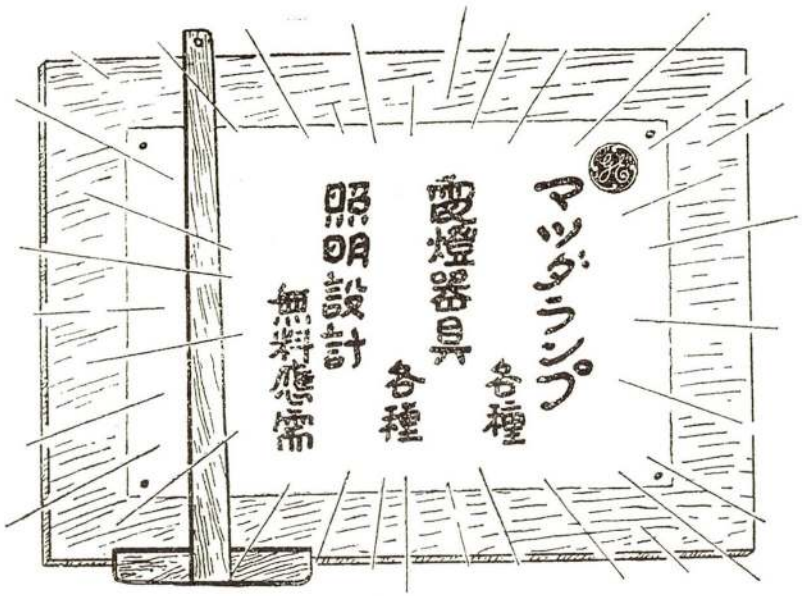
本會ノ財產ハ理事長之ヲ監理ス

第二十二條　本會ノ財產積債務及每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產積債務及每年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年二月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得



製圖と定規

建築と燈火とは製圖と定規に於けるが如し。

完全なる建築とは正確なる燈火を設計したるの謂なり。

大阪出張所

西區阿波堀通一丁目

電話新町 長六三 八八 九九 八九〇

TEC 東京電氣株式會社 TEC

神奈川縣川崎町

D-192

日本建築協會雜誌 第貳輯第六號

目次

口繪 (神戸川崎銀行背景圖(三色版)
(□大阪市營貸長屋及共同宿泊所(自一至八)

△頻々たる都市の大火……會員・片岡安・・・二
△都市大火に對する防備……會員・片岡安・・・二
△軍備と文化(上)……法學博士・渡邊鐵藏・・・一一
△樣式の上にあれ!(中)……會員・村野藤吉・・一七
△市民劇場の設立を望む……會員・葛野莊一郎・・二五
△公安より見たる都市計畫及都市計畫立法(下)商學士・岡田重次・・三〇
△渡米所感……會員・日高畔・・三七
△住宅問題解決に提供されたる珍案……會員・MT生譯・・四三
△女流の生活觀……

□旅舘としての構造……會　員……大西光代子談……四八
□体裁や趣味よりも衛生的で便利な家……大阪醫科大學々長佐多愛彦氏夫人……佐多靜子談……五〇
□果して婦人の地位が進み思想が向上したでしようか……X夫人談……五二
△大阪市營住宅の共同宿泊所……江村郊郵……五六
△我邦現代の住宅を如何にすべき乎(上)……會　員……小笠原鈔……六四
△學と術……會　員……K H生……六八
△京都古建築觀(十)……特別賛助員……伊藤清造……七二
△臺灣營林局の事業に就て(終)……會　員……谷民藏……七九
△時報……八六
△會報……八九
△編輯たより……九一

附錄

△現行伯林府建築條例(下)……一〇頁

◆ターピヤコンクリート
◆カレンダーシーヂング
◆セレシット（セメント防水劑）
◆タンタルス（同）
◆福永式リブプレート
◆福永式スチールラス
◆田中式硝子屋根裝置
◆ルーフヒング及フエルト
◆網入及縞板硝子

大阪市西區南堀江下通二丁目
內外土木建築材料合資會社
電話局西三六一〇番

出張所
名古屋市西區塩町二丁目八
電話本局五四三〇番

代理店
東京市京橋區銀座四丁目五
東京建築材料合資會社
電話局京橋一八三七番

門司市東本町五丁目
山房商店
電話局七四四番

朝鮮釜山西高砂町一番地
三谷愛次郎
電話六四七番

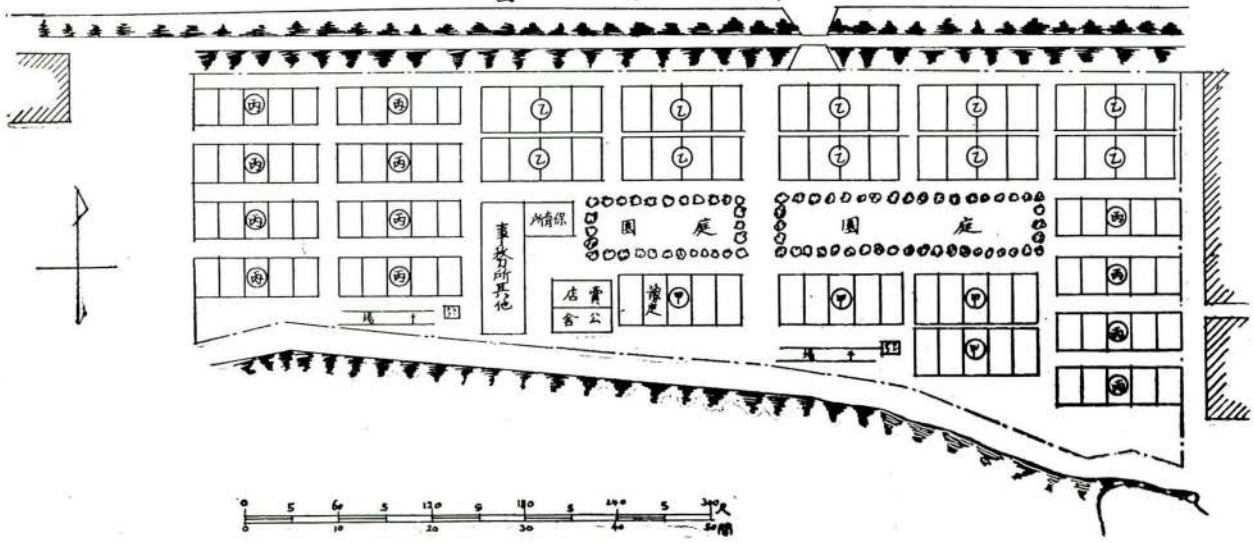


神戸川崎銀行配景圖

大阪栗田製版印刷

櫻之宮長屋配置圖

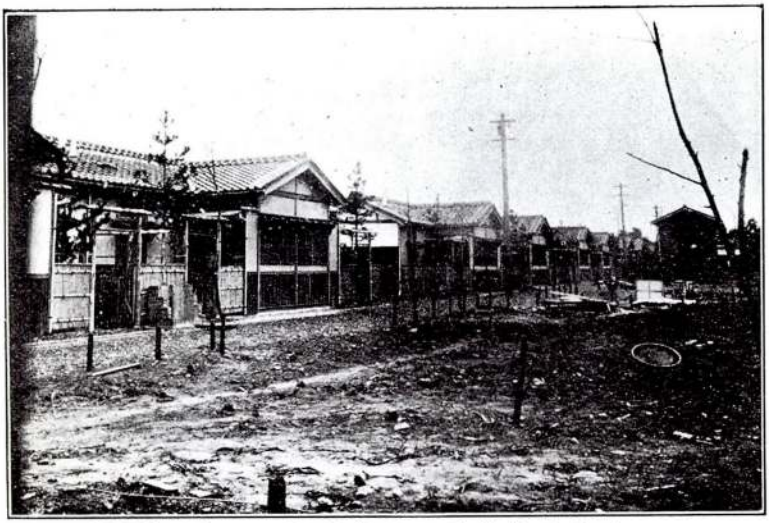
縮尺六百分之壹





築港長屋並共同宿泊所配置圖

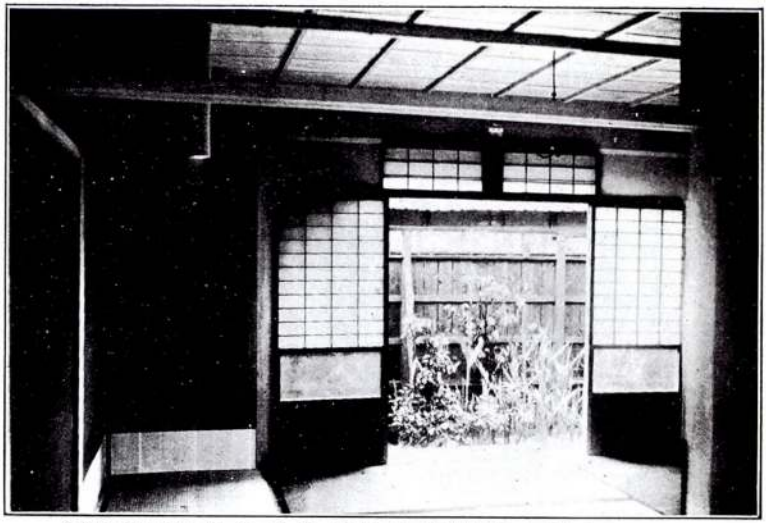
縮尺六百分之壹



大阪市營櫻宮乙種貸長屋の一廓(記事參觀)



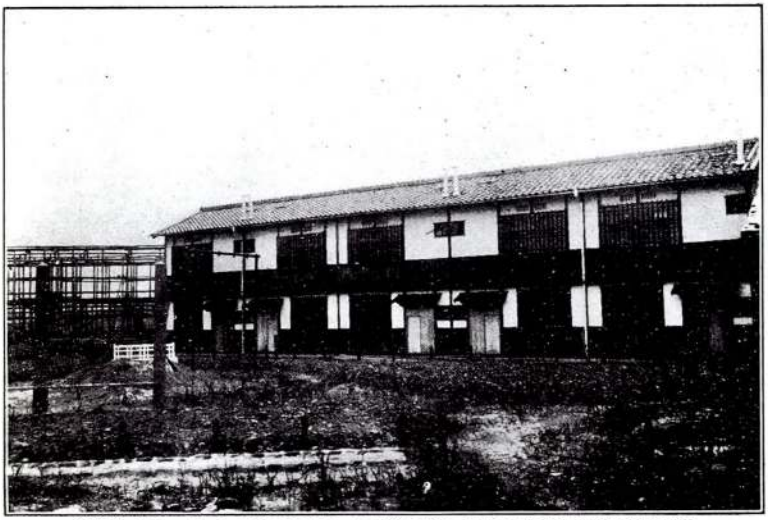
大阪市營櫻宮乙種貸長屋の正面(記事參觀)



大阪市營櫻宮乙種貸長屋の間取(記事參觀)



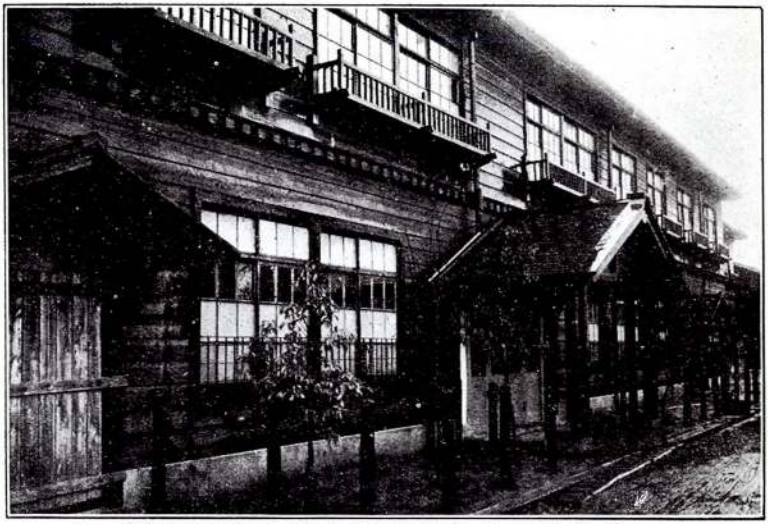
大阪市營櫻宮丙種貸長屋(築港にも同樣の設備あり記事參觀)



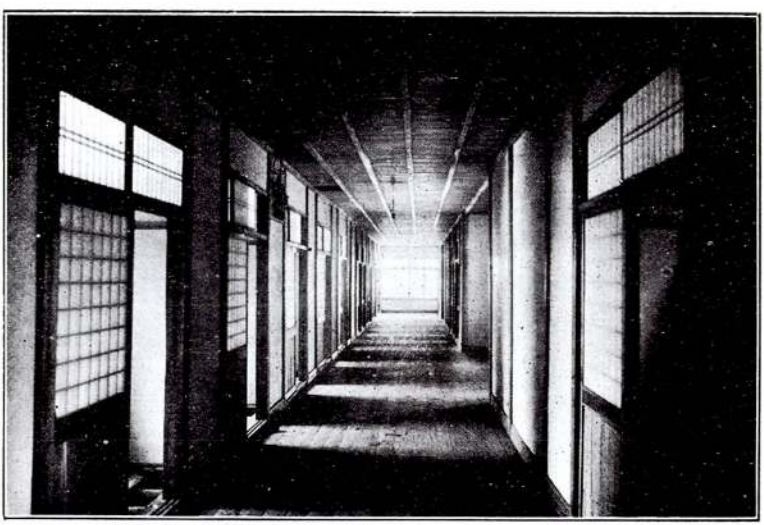
大阪市營築港甲種貸長屋表(階上階下二組を居住せしむ＝記事參觀)



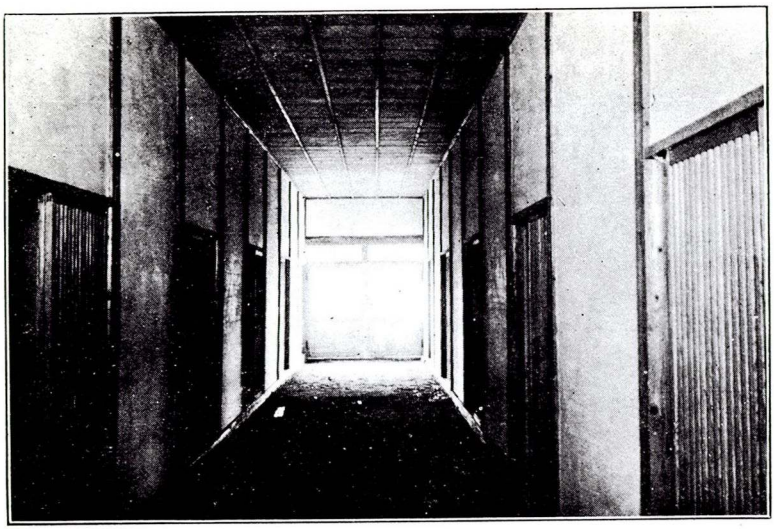
大阪市營築港甲種貸長屋裏(階上居住者と裏よりの交通し得る設計也＝記事參觀)



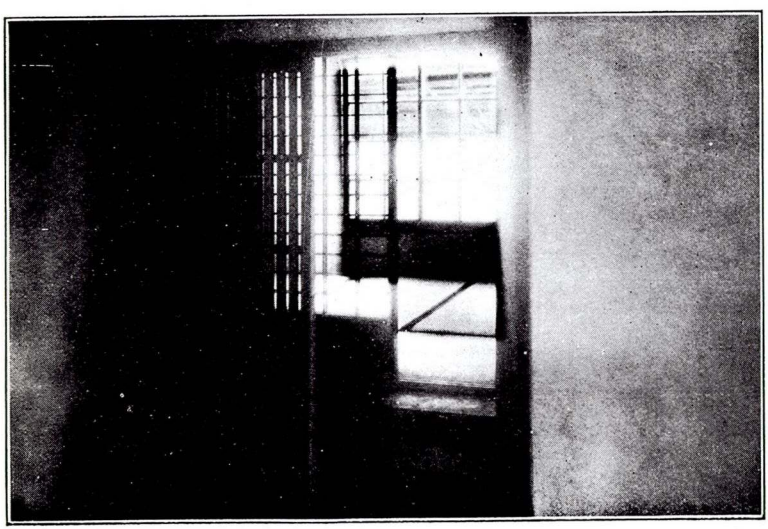
大阪市營今宮共同宿泊所外廓(記事參觀)



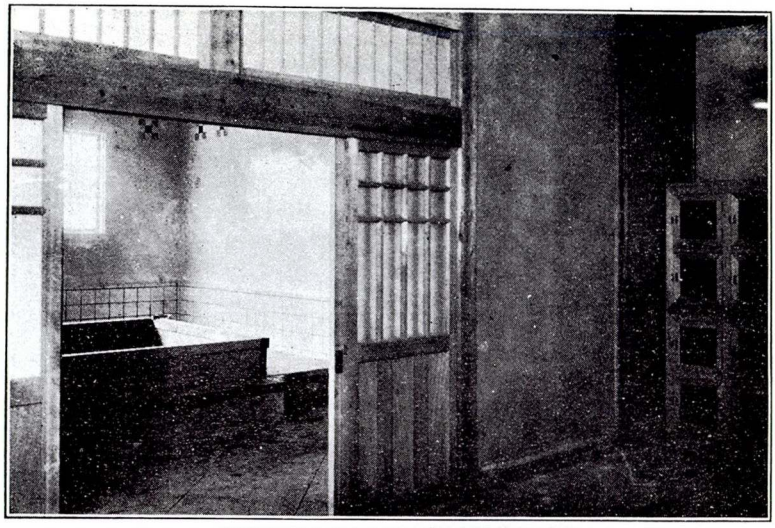
大阪市營今宮共同宿泊所內宿泊室(記事參觀)



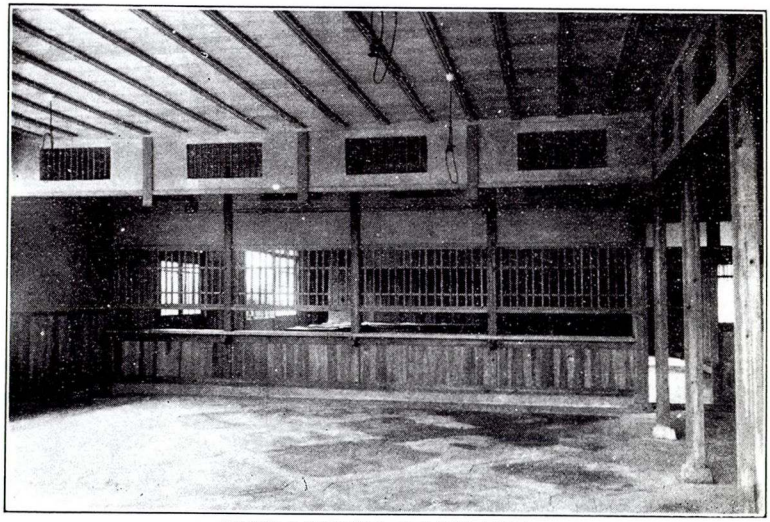
大阪市營今宮共同宿泊所內合宿所の一部
（成績佳良なる者を居住せしむ＝記事參觀）



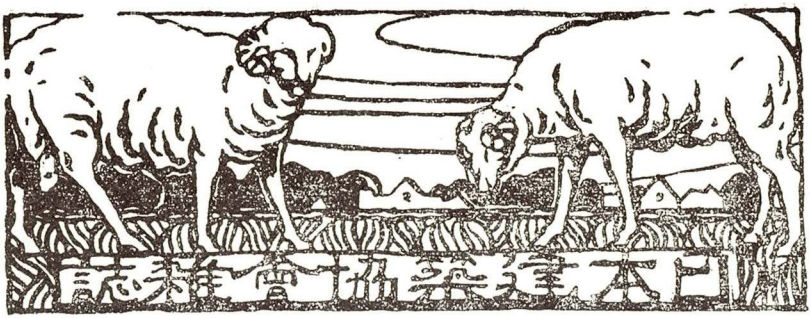
今宮共同宿泊所內「合宿所」の間取（記事參觀）



大阪市營築港共同宿泊所內の共同浴場
（觀參事記＝りあ備設の樣同もに所泊宿同共兩田野西及宮今）

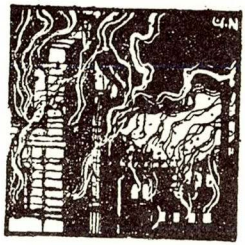


大阪市營築港共同宿泊所內炊事場
（觀參事記＝りあ備設の樣同もに所泊宿同共兩田野西及宮今）



頻々たる都市大火

都市大火は都市經濟の大破壞なり、都市の發展を阻害し、其幸福と安寧を亂るは固より、一般商工業の不振と經濟活動力の循環作用を鈍らすこと容易ならざるものあるは、現代都市の特徵なりとす。我國の都市は其內容未だ十分に整備さるゝに至らず、其建築物は主として脆弱なる木造燃燒質のものたり。故に其被むる火災の頻々たるは又當然なりと雖も、近時の如く數次大火に襲はるゝ實情を見る時は、誰か我都市の秩序ある發展を期するを得んや。殊に世態人情の敏活に赴くと共に失火度數の增加するは自然の傾向なるが故に、我國都市の被るべき大火は今後益々頻繁ならんとするを知らざるべからず。若し今に於て火災防備の急要を覺りて其畫策を樹つるにあらずんば、將來我國文明の進步を沮害するものは、都市大火の齎らすべき經濟的打擊ならずとせんや。本年市街地建築物法は發布せられたりと雖もまた其施行命令の制定なく、都市經營の衝に當るもの官民共に其誠意を欠ぐの嫌なきにあらず之れ我國內政深憂の一なりとす。



都市大火に對する防備

——頻々たる本年の大火——

會員　片岡安

一

都市大火は我國にては古來之を天災の如く見做したようである。所謂火災は水難とともに生老病苦の人生難と相並びて如何なる人も免かるゝとの出來ぬ天の災厄と考へられたのであるから其れを免かるゝには成るべく消極的に順應手段により之を輕減せんことより外に畫策を樹てなかつたのも當然である。又之に對抗して其防備を考へたとて科學應用の技能未熟なる時代にては到底完全に其目的を達し得ない筈である。即ち思想上の錯誤と實際上の技能程度と兩々相俟つて我國にては古來都市建築が其火災防備に就いて何等深き考慮を費さなかつたものと見ねばならぬ。固より數百年前より土藏造りと稱ふる火災防禦を目的とする倉庫は都鄙到る處に造られて、重要なる家財だけは火災の厄手を免かるゝことに多少成効しつゝあつたのは事實である。けれどもそは唯消極的手段中の一成効と見るべきものであつて、何等都市の大破壞を救ふことは出來なかつたのである。本誌第一輯に數次紹介せる明暦三年の江戸大火や、安政二年の江戸大破滅の

狀態や或は大阪その他大都市が被むり來れる大災厄の如きは、何れも世界的の記錄にして、其損害の莫大なりしは到底筆紙の盡し得べき處ではないのである。然るに今日我大都市の狀態は如何であるかと言ふに、其大災厄の當時と何等擇ぶなき程度の準備しか有つて居ないのであつて、今後何時大火の災厄に襲はるゝやも計り難いのである。考へて見れば我大都市民が相當に安心して、其危險を覺へず樂觀的に活動しつゝある狀態は、如何にも滑稽に思はれる。丁度櫻島の噴火に際して其島民が一時避難しても、二三年を經れば又次で來るべき其噴火の襲來を念頭に置かず、再び歸來安心して農作に從事すると少しも變らぬのである。

我國の都市民は現時の緊張せる都市の經濟生活の洗禮を受けながら、其氣分の根蒂に於て櫻島の住民と相距る遠からざる態度を把持するを見る時は、誰しもその時代錯誤に氣付くであろふと思はれる。固より明治維新以來東京その他の大都市は可なり其外觀を新たにし、內容の充實を來たしたのは事實であるけれども、そは唯一小部分に過ぎないのであつて、全體から見れば殆んど改善されたる組織的の成績を發見することは出來ないのである。然るに一般の直覺觀に捉はるゝ人達——殆んど先覺者識者階級の大部——には、何等組織的改善の成績を擧げて居ない我大都市の實際を或る程度までは過當に値踏みをなし、之を以て時代の潮流に添ふて漸次改良發展しつゝあるものと見て居るらしく觀察される。斯かる誤れる直覺觀を有すればこそ、安心して櫻島住民の氣分を發揮できるのである。若し詳しく科學的に又分解的に我都市の災害防備の程度を知り、都市大火の齎らすべきその結果を考ふるに於ては、恐らく如何なる樂觀論者も、直ちに我都市建築大改善の急要を感ず

るであろふ。

我國の都市は主として木造建築を以て滿たされ、極僅小の部分に於て耐火構造の家屋を有するのみである。煉瓦造の家屋とても耐火構造の目的を達して居ないものが多數であつて、過渡文明の亂雜な狀態を遺憾なく發揮し、建築物相互の調和的發展はもとより、それ一箇としても不徹底なものが多いのは事實である。故に一朝大火の襲來に遭へば、殆んど低抗すべき何等の強みなく、數時間の延燒に數千の家屋が一掃さるゝを例とするのである。一六六六年の倫敦大火は十七世紀の不完全なる建築を以て充たされて居た時代とは言へ、其暴風吹き荒む中に一萬三千餘の家屋（其面積約五十三萬坪）を燒き盡すのに四晝夜の時間を要した、然るに明治四十二年の大阪北區の大火にては倫敦大火に稍等しき程度の燒亡に其時間は僅かに十六時間（一晝夜の三分の二）を費したるのみである。その他我國の歷史上の大火や最近被むりたる大火の樣子を見ても、其急速燒燃の程度が如何に甚しきかを知るに於て、我國の都市建築は到底歐米のそれとは比較にならぬ程劣弱なるを覺らねばならぬのである。

二

我都市の建築が大火に對して其抵抗力の微弱なる理由は、其構造全体を通じて木材を主体とするからである。故にその抵抗力を增進するには少くとも燃燒を鈍らすべき構造物を奬勵し、進んでは絕對の耐火構造の多からんことを理想とせねばならぬ。更に詳しく之を言へば經濟上又社會上重要なる地域の構造物は防火上最も高等程度のものに之を改善せしめ、其地域以外と雖も建物の性質に

より、又其の高さ及大さ等により耐火力の大なるものに改造せしめ、更に都市を幾箇かに分割すべく防火地帯を設定するを緊急とするのである。

今回發布されたる市街地建築物法は其目的を貫徹すべき重要なる條文を含むのであつて、未だ其命令條項及細則は發布されぬけれども、其法律條項及命令は最も緊張氣分を以て運用さるゝことを希望せざるを得ない。市街地建築物法第十三條に曰く

第十三條　主務大臣ハ火災豫防上必要ト認ムル時ハ防火地域ヲ指定シ其地區內ニ於ケル防火設備又ハ建築物ノ防火構造ニ關シ必要ナル規定ヲ設クルコトヲ得

防火地域內ニ於テハ建物ノ部分ヲ爲ス防火壁ハ土地ノ境界線ニ接シ之ヲ設クルコトヲ得

即ち法の精神に於ては吾人の主張は全然之を認むるので、今日は最早此の意味を敷衍するの要はない筈であるけれども、一般の建築物の構造改善は法の運用を待つまでもなく其建設者の理解に依るを最捷徑とするのである。殊に都市の中樞區域に於ける經濟上の大責任を考ふる時は、其建築の主管者は一刻も早く其改善を企圖せねばならぬのである。一般の直覺觀察によれば、道路の幅員が擴大され、消防機關が進歩し、或は消火栓が行渡れば、大火を十分に防き得ると思はれて居るが、事實は中々そうはゆかないのである。殊に木造建築の密集地に於て一度び火を失して颶風に煽らるゝ時は、其火焔の延び行く方向には百の喞筒も千の消火栓も殆んど其効力を發揮し得ないのは從來の經驗凡て之を證據立つるのである。

今東京市內に於ける建築物の構造による種類を見るに、大正六年度調によれば其總建坪八百二十

九萬九千二百餘坪其棟數三十四萬六千二百餘の中

木　造……三十一萬四千百四十二棟……百分の九〇、五七

土藏造……二萬三千七百八十八棟……六、八九

煉瓦造……六千七百五十五棟……一、九五

石　造……千八百十一棟……〇、五二

コンクリート造…百四十六棟……〇、一〇

である。又大阪市に於ては全市の建物棟數十七萬九千二百五十七棟の內木造は九割六分強を占め其棟數は十七萬二千七百三十八棟である、（面積に於ては總計三百二十四萬五千餘坪の內木造家屋は其九割強なる二百九十九萬四千餘坪を占む）東京、大阪の兩大都市がその通りであるから其他の都市に於ても如何に木造建築が多いかは推して知るべきである。斯の如き急速燃燒力を有する都市に於て、世界的經濟戰の緊張的努力をなしつゝある吾人の實情は、殆んど不可解の呑氣さとでも言はねばならぬ。唯近年大火の襲來を被むること少かりしに油斷するが如きは、智者の學ぶべきところでないのである。

我國の火災損害高は近來までは毎年餘り高額のものではなかつた、先づ其罹災高は全國を通じて平均八十萬坪乃至百萬坪位の程度であつて、其直接の損害高は三千萬圓乃至五千萬圓と計算されて居つたのは事實である。けれども其間接損害に至つては其幾倍に上るかは計算する譯にゆかない。之を亞米利加合衆國の毎年の罹災金高四億圓內外なるに比すれば、寔に微々たるものとも見られる

然し我國の經濟狀態の漸次向上し來りつゝある傾向と及び火災度數の增進とに稽へたならば、中々以て樂觀出來ないのである。抑も都市大火は古來百年に一回とか五十年に一回のものであつたから其回復も出來たのであるが、若し人事の殷賑なるに連れて其度數を增すものとすれば、恐るべき大火が二十年に一回か三十年に一回、國家經濟上重要なる大都市を襲ふの憂なしとは限らぬのである若し現時の如き狀態で火災防備に深く備ふるなくんば我國都市の前途は實に恐るべき悲況に出會するを覺悟せねばならぬのである。

三

我國の火災度數は每年增進し來りつゝあるは事實である。明治三十八年には一萬四千九百九回であつたのが、每年少しづゝ增して、大正元年には一萬八千五十四回となり、同二年には一萬八千六百九十六回となり、同三年と四年とは少しく其度數を減じたけれども、尙一萬七千八百回と一萬六千五百回であつた。然し大局より見れば、今後我國の失火度數が漸次增進することは覺悟せねばならぬのである。若し大都市の發展と其膨脹に伴ひ又其市民活動の殷賑となるに連れ、其失火度數の增進する比例を實際的に知る時は、都市大火の恐るべき危險は時々刻々吾人を脅迫しつゝあるを感せざるを得ないのである。

之を世界一般の趨勢より見るに我國の火災度數は其人口數に比例しては歐洲各國の約半數以下であつて、北米合衆國のそれに比すれば約十分の一にしか當つて居ないのである。然らば何故に歐米に於ては火災度數多くして我國が比較的少數なるやは、一概に之を說明する譯にはゆかないけれど

も、都市密集の傾向と市民活動の殷賑を增すに隨ひ、火災の度數を增進するの事實は之を認めねばならぬのである。故に我國の都市は今後は從來に增して火災の頻々たるものあるを考へ、それに對する防備を研究するの急要なるを覺るべきである。

今後の都市大火が齎らすべき經濟的の打擊が如何に著大なるかは今此處には敷衍するを止める、然しながら我國の都市がそれ〴〵大發展をなしつゝある趨勢と、大火の可能率が漸次增大しつゝあるの推算とは、今後の我國都市大火を考ふるものゝ寸刻も忘れてはならぬ二大項目である。其研究調査は或る程度までは綴密なるを要するは勿論なれども、其對應設備としての家屋構造改善の大方針は動かすべきものにあらず、唯其調査が其緊急の度合を如何なる速度にまで高めるべきかを知らしめるに過ぎないのであつて、我國都市建築物改善の緊急なる大勢が已に切迫しつゝあることを緩和し得るものではないのである。

四

上叙の所說は本誌初號に之をものし、更に本號に於て之を敷衍せんと執筆中、各地に於ける都市大火の警報は頻々として來り、祝融氏の炯眼は吾人所說の缺陷に乘じて襲來したかの如き感を深くしたのである。左に其主なるものを列擧して此所論の結尾とする。

四月二日　仙臺市大火　二日午前二時半南町より出火し、折柄北西の暴風に火勢猛烈となり、元荒町より南町通東一番町、敎樂院町に延び、東番町に出で、東北學院の赤煉瓦の大建築物を嘗め更に又柳町通り東三番町、北田通り等に延燒し午前八時半漸く鎭火す、其時間六時間、燒失戶數六

百七十餘戸開市以來の大火にして、郵便局、電話局の焼失を始め大建築の焼亡せるもの多し。

四月七日　福井市大火　七日午後二時半新福井驛の北側なる寶永下町元劇場附近より出火し、折柄からの南強風に煽られ、寶永下町、同中町、松ケ枝中町、同下町、清川中町、同下町、氷川上町、永平寺町、鷹匠町、堀端、御手子町、御籠町、志比口、木戸口、どんど組、新庄組、地藏町等を焼拂ひ半後五時半鎮火す其焼失戸數六百四十三戸にして焼失時間は僅かに三時間餘なり

四月二十九日　横濱市大火　二十八日午後一時過横濱市千歳町十二丁目より出火し折柄の南風にて漸次北方に燃へ擴がり、山田町、長者町、松影町、扇町、壽町、不老町、翁町等三千百六十戸を焼き拂らひ、午後十一時に至り鎮火す。直接損害は數百萬圓に上りたるは勿論なるが、若し強風尚ほ衰へずして大岡川を超へて關内一圓に延焼せしならば、或は數千萬圓の大損害を與へたであろふと思はれる。

五月十日　小田原町大火　午後十時十分相州小田原町萬年町二丁目より出火し、鍋町、新宿兩町に延焼し二百餘戸を焼亡す。

五月十九日　米澤市大火　十九日午前十一時館山口町より出火西北の強風に煽られ大火となり東西二十町南北十町餘（其町名御小者町、直峯町、袋町、本五十騎町、片五十騎町、桂町、仲間町割出町、屋代町上の町、東町、黒川町、福田町等）の區域其戸數千三百餘戸は焼亡せり、其時間約四時間。米澤市は一昨年五月二十二日大火により中央より北方は大部焼失したり、然るに本年は其南部は又大部分焼失せるなり。

五月二十日　**大阪市新齋橋筋大火**　二十日午後四時三十分心齋橋筋たかしまや呉服店より出火同店の三階建大商店全部を焼失し、其附近の家屋六戸を全焼、十四戸を半焼して同六時鎮火せり、當日若し強風の天候なりしならば、其損害は容易ならざるものありしならんが、幸に大災害を與へざりしとは言へ、大阪市目貫の場所の火災が其消防や避難に如何に甚しき困難を與ふるやは十分に經驗されたり。

大火損害比額

一千八百三十五年	紐育	損失	三千萬圓
一千八百四十二年	漢堡	損失	三千六百萬圓
一千八百七十一年	市俄古	損失	一億六千五百萬圓
一千八百七十五年	ボストン	損失	七千五百萬圓



軍備と化文（上）

法學博士　渡邊鐵藏

═壹═

軍備は兎に角我等が國家的の生活を爲し在るが爲に必要なり。人類が世界的の生存を爲し、相互に協助して所謂共同生活を爲しつゝあることは、歷史在りて以來、又は我々の知らざる以前よりの事實なりしに相違なかるべし。而も、其社會的生存の形式は、國家を形成して國家的生活を爲し來りしことも、蓋し數千年來の事實なり。今此處には、何故に吾々は國家的の生活を爲し、又、奈何にして發達し來れるか、並に國家の定義奈何を述べざるも、唯、此處に述べざるべからざることは、我等が國家なるものゝ構成は地球上に於て唯一ならず、其強弱大小夫れ夫れ、相異ると雖も、國家なるものは地球上に群立し、又、其形式は、單り帝王君主なるのみならず、酋長と稱するが如き極めて小き形式のものも少からず、而も、之が互に爭ふて、世界の一部に於ては泰平を謳歌し、他の部分に於ては爭鬪相責め、或地方に於ては平和の歡樂に皷腹し、他の一部に戰亂の慘禍相次ぐの事實あるは屢々經驗し來れる處なり。茲に於て、我等は、一面國家的生活を爲すの必要あるに拘はらず、他面に於て斯くの如く國家間に爭鬪を生ずるは何故なるやを考慮するの必要あり。即ち、吾々は、永久に斯る運命の桎梏に餘議なくせられざるべからざるや、是れ、凡ての國民が須らく考慮せざるべからざる問題也。

‖貳‖

斯る問題は、勿論重大の事柄なるを以て之を根本的に考ふるとは、素より時間に於て能すべきことにあらず、されば、此處には唯簡單なる事項のみに就て述べむに、元來、我等が國家的の結合を爲す元始となる事は、極めて卑近なる處より之を始め來りしことゝ信ず。例へば、血族に對する愛情、又は其常に接するもの即ち知已間の愛情の如き感情の方面より起りし事情に加へて、相互に依賴し共存するの必要あり、之等の事情より國家なる形體を作り、國家の條件——國家の條件なるものは今此處に述べざるも要するに國家が國家的に發達を遂げたるものなり、夫れ斯くの如く國家が成立するには積極的の理由あり、而して、之に等しく、一方に於て之を作るの理由が消極的に國家間の爭ひを惹起するの作用を成す。例へば、全然未知なる人間に對する場合に、一種の慊忌の感想を懷き、又相會ふも言語通ぜず、外貌異るが如き場合には直ちに自已の味方なりと容さず、或は、時々接觸するとも充分意思の疏通を得ず、或は誤解を生じ隨つて互に反感を懷くに到る場合あるは事實の屢々示す處なり。加之、一つの限られたる地域内に生活を爲せる場合、種々なる風俗慣習を生じ、全く相接觸せず又稀に接觸するも風俗慣習を異にせる爲誤解を生じ、或は進むで反感を抱くに到る。斯くの如き事柄屢々相起り、爲に國家的の散在を生じ、相當なる年限を經るとも互に割據して常に相爭ひ、增々利害の一致を見ざるに到る。惟ふに團體を作れることは、是に賴りに其團體全員の利益を伸張さるべしとの希望と自覺を有するが故なり、斯る自覺を有し在ると否とに拘はらず斯くの如き意味に於て其團體は成立せるなり、其結果竟に數千年來の歷史を彩る種々なる戰爭を惹起し、或は、人種間の軋轢を生ずるに到りしならむと思惟す。

斯くの如く、極めて簡單なる事情、即ち、距離相隔り、少しく外貌を異にし、風俗慣習相異るが如き事情より竟に大なる結果を發生するに

到る、而も、利害相反する關係之に加はりて國家間の對抗を生ずるなり。隨つて、縱し、國家間の爭鬪に就ては奈何なる考へを有するにもせよ、斯の感情及利害なる二箇の點に着目し、之に藉りて種々なる考慮を廻すの要あり。而も、斯る感情利害の相反する點より起る爭ひなるものは、勿論、單り外貌の相異れる人種間に於てのみ行はるゝものにあらず。されど、人種相異り、殊に顏色の異れる點に到りては、即ち其第一の所謂感情的の方面より來るものは必ず强き色彩を帶び來るものにして、仝人種に於けるよりは其爭ひ凄强也。同人種間に於ても又顏色の異る人種の間に於ても、斯くの如く往古より爭ひの絕へざるは上述二箇の點に皈する。或る時期に於て親密なる國民が、他の時期に於て相爭ふことあるは屢々事實の示す處なり。而も、這は、其互に等しき顏色を有せるのみならず人種も同樣にして、言語亦同きも相爭ふ塲合少からず、這は、感情の關係に發するよりも、寧ろ、利害の點より來るものにして、要するに、奈何に人種を等ふするとも、是のみにては、到底、戰爭若くは內爭の原因と成る種々の爭鬪根底を除くことは殆むど不可能なりと謂ふを憚らざるなり。

參

斯くの如く、各國家を成し居るものは、感情若くは利害に於て根本的に融和若くは調和し能はざるが故に、其準備を爲さゞる可からず、相互に、屈辱を蒙るを欲せず又自已の利害を侵害さるゝことを欲せざるの考を有するは、蓋し當然の事なり、茲に於て乎初めて軍備の必要を生ずるなり。這は、動物に於て亦同樣の狀態あるも人類に於ては、文明一層進展し、科學益々發達するに隨ひ、愈々嚴重なる武裝を施すの必要を感ずるに到るなり。併し乍ら、其軍備は、單に自國の屈辱を防ぎ又其利益を侵害されざる消極的の竟味より之を爲すの塲合あらむも、進むで自國の利益を增加せむとするの積極的意味より盛に軍備を施す塲合あり。即ち自已防衛——自

衛的の軍備と自己の利益――其國家の利益のみを特別に增進せむがために爲す軍備、是を軍國的の軍備、若くは、侵略的の軍備と名付くることを得るなり。斯の二者を截然區別して、奈何なる程度迄を防衛的軍備と做し、侵略的軍備と做すかを區別し在る邦國なきにあらざるも、其軍備の成立せる結果は其計畫されある狀態より觀れば、斯の二者間に差別を發見し得ざるなり其孰れにするとも、大小强弱は兎も角、奈何なる國家と雖も多少の軍備を有せざるなきは吾人等の常に見る處なり。其軍備なき國民の蒙る慘害、國家の敗れたる爲人民の離散したる悲慘の狀態は、歷史を繙く者の常に觸目する處なり。而して、各國間の交通益々密接と成り、人民の往來愈々頻繁と成るとも、戰爭の慘害、國家の爭鬪なるものは決して絕へざるのみならず、却つて寧ろ深刻なる戰鬪を生ず、即ち、往昔は概して王家の戰或は政府の戰にして、國民の戰なるもの無かりしも、今は、國民全體の利害關係より戰爭を惹起し、斯くて、戰爭なるものは、益々深刻なる意味を有するに到りしなり。

四

殊に、十九世紀に於ては、諸多の機械を發明され、竟に、產業の革命と成りて、各國の產業が勃興するの時代と成り、爲に、增々國家間の利害關係相反するに及び、斯くて國家は國民の利害を基礎として互に對抗的なる態度を執るに至るなり。而も、這は、從來の如き單なる感情的の爭にあらず、主として、利害の上に立脚せる爭が增々激甚となるに到りしなり。されば、一方に於て、科學の發達は文明の進步吾人等の幸福の爲に使用すると同時に、他方に於ては、軍器の製作に就て旺々應用され、其結果として軍備は益々多くの費用を要することゝ成り、斯くて戰爭の慘害は增々甚大となりしなり。即ち、文明は、一面に於て、斯くの如く各國民に軍備の負擔を增加せしめ、又、戰爭の慘害を增々大ならしむるの傾向を有するに到らしめたるなり歐洲大戰前に於て、或經濟學者等は、軍備負擔

の重大なること、是に因りて起る經濟上の秩序破壞を慮れ、隨つて各國民相互の損失多きことを稽へ、竟に、戰爭殊に大戰は起らざるが如く思惟しゐたりき、然るに、其豫期に反して遂に這回の大戰亂を惹起せり。斯の戰爭は到底避け得ざるものなりしや否开は兎も角として、其結果を見るに、之に因りて多數の人命を損じ、道德を破壞し、財產上の損害を與へ、又軍備負擔に依る財政上の負擔が國民の頭上に掛り・加之世界萬般の秩序が一部に於て破壞されむとし、斯くの如くして、種々なる有形無形の損害を生せり。茲に於て、各方面に人道主義なるものが既に唱へらるゝに到れり。而して、一方に於ては之を實現せしむる爲に、若くは、其理想に到達する階梯として、政治的國際聯盟なる考が起り來りたるなり。

五

國際聯盟は、理想とし萬國が之を承認すべきことは疑なきなり。併し乍ら、公平眞實なる意味の一部に於て、野心の潛まざる國際聯盟を作り上ぐるは實に困難なり。又、聯盟が成立し、聯盟の存在に藉りて國民間に於ける鬪爭の激烈なることを緩和するの方法を齎すとも、之に加入せる國民總てが感情を融和し利害相反せざる即ち調和ある狀態を作り得べきや否蓋し疑問なり斯の狀態が作り得られざる限り、若くは、國際聯盟に參加せる爲、或數箇の國民が之に參加せざる以前よりは損害を蒙り、又は壓迫を蒙ることゝ成り、又、參加せる國民が其以前よりは增々不幸な狀態に置かるゝことゝならば、國際聯盟の眞價は疑ふべきものにして、斯る事柄を防止する種々なる手段を考へられたる後に於て、國際聯盟なるものは眞の意味に於て、國家相互間に生ずる慘憺なる出來事を減少し得るなり、されど、斯る理想の實現が困難なればとて、國際聯盟に反對することは勿論不可なり。我等は人類の一員若くは國家の一員として、斯の國際聯盟の理想が世界的の力に依りて達せらるべく努力せざるべからざるなり。

═ 六 ═

併し乍ら、現在の狀態に於ては、國際聯盟が成立し、其理想は果して幾十年若くは幾百年後に於て達し得るや豫め識るべからずと雖も、現在の事實に於て、或は近き將來爭ひを惹起するやも知るべからず。或は國際聯盟なかりし以前と同樣なる狀態に於て國民間に反感起り、或は利害の衝突を爲すや知るべからざるが故に、凡ての國民が其軍備を撤廢することは決して同意せざるべし。又、全部の撤廢なることは極めて危險なり。併し乍ら、軍備を餘りに積極的大ならしむることは、所謂侵略主義となるを以て、茲に、軍備を適當なる程度に於て制限するの傾向を有するに到れり。幷は素より適當なる事にして、國際聯盟を一旦口にする以上は、之と共に必ず軍備制限を口にせざるべからず。されど一つには徵兵撤廢なる問題あり、果して之に贊同すべきや否や、蓋し疑問にして、徵兵を撤廢し、尙且つ陸海軍備を爲し得るや疑なきを得ざるなり。併し乍ら、幸にして、英國の如き、其軍艦の數を減じ、或は一萬噸以上の軍艦を作らず、今現に有せる軍艦を潰し、或は貿易高即ち其國の有せる商船の多寡に依つて適當なる海軍力を養ふべしとするの條件ならば、軍備撤廢不可なし。陸軍又は海軍の軍備を消極的なる目的に應ずるの意味に於て或妥協を爲し、徵兵撤廢も日本のみならず各國共之に贊同し是にて自國の防衛が出來得るとせば勿論何の異議なかるべし。併し乍ら、斯くの如き妥協は寔に困難事にして、殊に、徵兵制度を採れるは僅に日本其他一二箇國に過ぎず、徵兵制度なき國は勿論問題にあらずして、其處に斯の問題が持ち上りたるものなるが故に、吾人は、徵兵撤廢に就て今遽に贊同し得ざるなり。併し乍ら、軍國主義的若くは侵略的に用ゐるの內心を以て軍備を爲すが如きは、平時に於ても勿論不可なるが、世界の氣運斯くの如き傾向を有する時期に於ては更に不可なり、幷は、畢竟、爭を惹起する原因となるのみならず、國民の負擔を無意義に重からしむると信ずるを以てなり。（續く）



樣式の上にあれ（中）

會員　村野藤吾

一、序　論
二、樣式再現は愚策のみ
三、科學の進歩と美的觀察の時代錯誤
四、國風問題と批判能力
五、無目的なる現代建築樣式の煩悶と其の解釋

三、科學の進歩と美的觀念の時代錯誤

換言すれば樣式は時代思潮と地方的民族的精神の經緯である。反映である。

必要は遂に構造の進歩を促した。之れを動かしたるものは云ふ迄もなく科學の進歩と之れにともなふ社會組織の變化、社會狀態の進歩と之れにともなふ科學の發達である。而して之れは總て人類の自由的本能の發現であつたのである

サイエンスの發達と、社會狀態の進化とは共に俱に建築の內容を動かし、內容の動搖は樣式を動かし、樣式の動搖は構造と美的意義の變化を意味する樣になつたのである。

私は今斯の意味を擴充する。

或る時代の建築的要素は、其の時代の手法か構造か裝飾に依ることを以て、最も幸福にして且つ正當なることであると思ふ。例へばアカン

ザスや、グロテスクや、雲肘木や……などはギリシヤや、ゴシックや、鳥飛や……の時代に於ては最も正しいそして最も自然的のものであつた。然るに、吾等は今も尚ほ之れを美として感ずるであらうか？。否感ずることは正當であらうか？。

過去に於て美であつたものも、現在では必らずしも美でないものがありはしないか。又過去に於て必要であつたものも、現在では必らずしも必要でないものがありはしないだろうか。こは吾等に取つて大に考ふ可き問題であると思ふ

過去に於て面倒な構造も、今日では極めて簡單に出來る様になつたものがある、過去に於て超經濟的であつたものも、今日では經濟的でなくてはならぬものとなつたのである。例へば、雲肘木や墓股や原色であくどく塗つた遺物など私には有難すぎて決して美意識の動かないものである。又大黒柱に一尺角の欅を用ひ様として莫大なる金を費さうとすることよりも、鐵筋コンクリートの柱に欅ベニアでも張れば、五寸角で出來る上に經濟的ぢやないかと云はうとする態度に贊成するものである。

だが、私は雲肘木や墓股や極採色や一尺角の欅柱を必らずしも必要とは思はない。併しそれは私に取りて史的考察の上に將た美的追想の上に、已が心の琴線を奏でる天使の音樂を聽き、太しき柱の圍りに圍繞する家族制度の根義に迄も私の心を引きのばさんとする。だが、切實なる必要と、そして、私の思惟とは協力し、社會的要求として、そこに本然なる道德的觀念を構成しながら、私の既定の希望は私の先入と空想を裏切つて、雲肘木を鐵のブラケットに極採色を「ペンキ」や「ワニス」に、一尺角の大黒柱を五寸角の鐵筋コンクリートに代へ、オーダーや、アーチに表はされたヘレニズムや、ヘブライの思想を、鐵やコンクリートで表はさんとするうちにより合理的なる美を感せんとするものである。私はこうした態度のうちに、より高き道德性の香を感受し、より本質的なる美的感情を移入するものである。

若し唯れかゝ鐵のブラケットは雲肘木よりも美でなく、ペンキは極彩色よりも美でなく、五寸角の鐵筋にコンクリート柱は一尺角の欅柱に比してプロポーションが悪いと云はゝ、私は其の人に云つてやりたい。

君は千年前に生れた方が幸福だ！と。

道巾の狹い都會の眞中に、町を空中に延ばして人は年中空中生活をしなければならない様なスカイスクレーバーを建てゝ、それが狹くなれば、其の上にどん〳〵積み重ねて行く様な今日にプロポーションがどうの、ギリシヤのオーダーのプロポーションがこうの、ゴシックの何處はどうの、と云つてるのは實に莫迦氣切つたことである。數十尺許も上にある蜿腹のモールヂングがどうあらうと、バラペットのプロポーションが少々位どうあろうと、そんなものは少し離れて見りや、ろくすつぽ見わやしない。しいて見ようと思つて建物から離れてもすると、建物全体が他の建物の爲めに隱れてしまう様な今日の狀態に、クラシックや、ルチツサンスの考へで小言や批評をするなら私は其の人に云つてやりたい。

君は先づ世界經濟を自足經濟に、今の文化をイモ虫の狀態に返へすがいゝ！と。

私達の樣式はこうした遺物の先入主に在りて時代を誤判し、時代樣式を建設せんとしてバラドックスとヂレムマに陷らしめる。

事實、サイエンスの進歩と、時代の轉化とは私達の過去の研究に依つて獲る一切の美意識を根底から改革しなければならないことを要求する。

若し吾等が、時代の眞相に忠實であることが建築行爲の上に最も道德的であるなれば、私達は型や色などの技藝の問題よりも、もつと科學や、材料や、之れに關聯する構造や、意匠上の理論等の根本問題の研究に依つて得たる形か色彩等の美的觀念を構成する方が、より本質的で且つよりフレキシブルなものであると思ふのである。建築品は一面に於て科學者でなければならないと云ふ私の主張は此れが爲めである。兎

に角こう云ふ風に本質的に考てくれば今日吾々が有して居る色彩や彫刻やプロポーション感念を餘程改革しなければならないことは勿論である。

私に取りて眞實なる美は道德である。或る不注意なる建築家は一種のとらわれたる慨念より出發して線と影との交錯を得んが爲め石の上に巧妙なる意匠をする、かくて得たる建築家の賞讃は一方に於て石工の平均生存年限を著しく短縮するのである。何と云ふ冷酷な建築家の道樂であろう。

鞭と定規とを以て鐵鎖の奴隷を叱咤し、そして完成された石の溝を吾等は最も憧仰すべき、モールチングと呼で、之れをクラシック建築のうちに眺めて典雅と優麗との讃辭を呈する。何と云ふ慘酷なる賞讃であろう。何と云ふみじめなアイロニーであろう。

吾等は何を苦しんで三千年後の今日尊い人間の生命を縮めて迄でも石の凹凸をかくも要求するとが必要であろうか?、併し或る人々の群は謂ふ、そうしなければ貧弱だ! と。

だが貧弱とは一体何を意味するかを其の人達は知るまい。同時に彼等はリッチな裝飾を何と心得可きかをも知らないであろう。

吾等はこうした「バラバキシカルビュウティー」を現代建築の至る處に認めなければならないことは眞に私達に取りて大なる不滿ではないか。

吾等が書く唯一本の線のうちにも深い人性の要求と、神への捧仕と、感謝と、そして人類愛のおさへ難き涙の一滴を含んで居ることを彼等は知るまい。

私には深く刻まれたる石の彫刻よりも一度に「キャスト」なれた「プレーン」なコンクリート壁の方がどんなに有難いことであろう。

敢へて云ふ、私は道德に一致しない一切の美を排斥する。吾等は一個人として平等なる資格を相互に尊重しなければならないことが正當である以上、一切の思索と行爲とに先ちて道德的に覺醒しなければならない。

如期にして改革されたる觀念が、やがて時代の眞定なる要求として、吾等が完全なる今日の一部分だけでも全人類の上に光被して其の幸福增進の運動に參加する尊い使命を推行する所以だと信ずるものである。

私は是迄便宜上構造と裝飾とを別にして論じたが、併し、もと兩者は、そが眞なる意味に於て共に內容を異にする美に外ならないことは今日美好上の定說である。即ち構造に眞なること所謂コンストラクチーブツルースと、裝飾に眞なること、所謂オーナメンタルツルースとはそが道德的に一致すると云ふ意味に於て共通相照す吾等が實用を主とするも亦美的憧仰全力を注がむも、共に其の絕對價値は同一でなければならない。吾等がしいて之れを分離し樣とする處に建築問題の破綻があり、爭闘がある。吾等が何れの範圍に自己の性格を見出さんとするも、要するに、建築をして其の目的を滿足させんが爲めの意味に於て、眞實に時代の眞相に忠實であり、時代の文化に飛躍の要諦を殘さんとする、尊むべき建築家の努力に依つて、相照の境地を見出すであろう。

私達は、時折、裝飾のベタクサ附いた構造物よりも鐵筋コンクリート其まゝの倉庫や、黑く塗られた鐵骨工場に、美術建築の眞の意味を感することがあるのはよく斯の間の消息を暗示するものである。

原始人が二本の石の上に一本の石を置いたスターンヘッヂは、將に人類が始て知れる構造上の一大奇跡であつた。そして、彼等は此のあまりにシンプルな、而し、あまりに合理な壯嚴の上に、神美の桂冠を捧げて跪座した。かくも嚴肅なる美的原始的自然生活より人類は次第に都會に蝟集する樣になつて以來、遂に現代に於ては、縱に通ずる暗いトンネルを昇降して、空中生活の奇觀を呈しなければならなくなつた。かくてスカイスレーバーは奇しくも現代建築樣式の本流を代表する一大壯觀として Klorsabod の螺塔に比するべく、ピラミットの偉大にも劣るまじく見ねる。

げに吾等は近代不明の産んだ偉人なる遊戯として、かくも壮観なる出來事を記るすに人類歴史の幾頁を割くに躊躇しないであろう。吾等が美的先入を根こそぎにもぎ取らんとする、かくも偉大なる遊戯を何んと書くであろう。

「ストーレレヘッヂ」よりスカイスクレーバー

「マスタバ」よりスカイスクレーバー。

天地根元の造りよりスカイスクレーバー。

吾等は今斯の相連續せる兩端を對照する。

唯れか斯の偉大なる皮肉の光景を云ひ表はすことが出來ようか。唯れか斯の廣大なる人類奮闘の跡を云ひ得ることが出來ようか。私は今更の如く打ち驚く。驚きはやがて靜かな心の池に投せられ感激の波紋を産みて、はてしもなく相像の波は擴がり行く。

私は限りなき悲哀の心をもて、かくも盛んなる人類が生の進軍を見送る。そして私は耐へ難き暗い心をもて獨語する。

噫々可愛想に彼等も亦死地に向つて進んで行くのか！。

あまりに壮大なる現代建築の遊戯は又あまりに慘酷であつた。彼等が盛なる建築文明の經營は、やがて死城を築くことに氣附かなかつた。多くの人々の、血や、肉や、骨を、下積みにしながら、唯一人の資本家は微笑んで居る。冷酷なる科學者は計算に誤りなきことを誇つて居る。

併し彼等の血液のうちには唯一滴のセンチメントも交へない。最もシムブルナ併し最も憐れな彼等は「サイエンス」と「ヒユウマニチー」とに無關心であるらしい。クリチカルサイエンスが齎らす「イデアリズム」の藥の一滴だにも飲まんとしたことはないだろう。現代建築のかゝる壮觀なる墮落はかゝる無頓着なる資本家や眞理を研究すると云ふ冷酷なる科學者達の虛榮の賜である。

野に咲く一輪の花だにも如かなかつたのはソロモンの榮ばかりか、吾等が眞うに人間らしい生活をする爲めには、かく偉大なる雲際城も寒村の茅屋だにも如かないであろう。

私は時代の眞相に忠實なれ、そしてそうする

ことが最も道徳的であり嚴密なる現在主義者の立場は茲にありと主張した。加ふるに道徳と一致しない一切の美を排斥した私の心は、かゝる時代の奇型に對して其の存在と發生の理由を許さないであろう。だがこの建築的時代の寵兒を呪ふものは恐らく此の世の中で私一人かも知れない。併し私は信ずる、若しかゝる建築の主流が永久に世界の表面と空間とを占有する樣になれば其の時こそ人類は金と眞理の爲に虐げられて、歷史には、唯虛榮と、野望と、爭闘のみが殘されるであろう。私の筆はかゝる奇型の建築に對して頗る酷烈である。

そんなものは半分から折つちまへ！。

噫マスタバよりスカイスクレーバー。

ストーンヘッヂよりスカイスクレーバー。

天地根元の造りよりスカイスクレーバー。

私は斯の大きな對照のうちに沈面して、此處にも亦相容ることの出來ない、宇宙の二元的對立を感せずには居られない。更に私は疑ふ、建築は、はたして進歩したるや、建築の進歩とは一体何を意味するかを。

『一切の美は道徳と一致せざる可からず』

今日の處には一種の謎である。吾等は斯の謎を背負ひ、今や迷宮の前に佇みて永遠の扉を叩かんとす。

斯の謎！。然り斯の謎こそ、はてしなき迷路の奥に秘められたる鍵の外解くことは出來ない斯の鍵の把握こそ、斯の鍵の究盡こそ、尊むべき若き建築家達が肉を躍らし血を湧かして迷ひ歩く永久の綱であらう。

とまれ私は時代の推移と科學の發達に依る建築構造の進歩とは吾等の建築美に關する觀念を根底より改革し併而吾等が創作せんとする藝術の世界は材料や構造や或は手法の發達に依つて動搖し、此の動搖のうちにやがて純一なる或者を創造せんとする、其の觀念の根本となる處の道徳に覺醒しなければならないことを迂遠ながら書いた積りである。

敢て言ふ迄でもなく、私は公平に見て、科學の發達が齎らす建築上に於ける幾多の惠みや是

認するに躊躇しない。構造が自由になつたこと耐火耐震等の危害に對して安全になつたことなどは將に近代建築界の驚異である。而し如斯建築界の異狀なる發達は、人類がより聖なるより合理なるより本然なる生活欲求を助長し、並流し、誘導したのかと言はゞ、吾等は『必らずしも然らず』と、答へんとする者である。現代建築の基潮に對する私の大なる疑問はこゝにある

二重の役

凡そ善き性質の人は、其智識の進むに從て、自ら此の世に二重の役を扮演せざるべからざるを感ず、即ち實際の役と理想の役是れなり、其人に貫ふ可き所の者は凡て此感情の中に根底す



市民劇場の建設を望む（上）

會員　葛野壯一郎

▓一▓

私の言はんと欲する市民劇場の建設とは、都市自らが劇や音樂に對する適當なる觀覽場を建設し、全然俗惡なる營利の圈外に立つて不斷に是を公營せん事を望むので有ります。市民の品位を向上し其善良性を訓育して吾が都市の健全なる發達を期するには、現今の場合斯の事業が何よりも最も容易で、且つ最も其効果の著しきものが有る事を深く信ずるからで有ります。

全躰に是が滿足で有ると言ふ事の出來得ない謂はゞ瑕だらけの我都市の現狀に於て、道路交通衛生其他都市政策上、今や計畫し完成せざる可からざる事業は勿論非常に多いので有ります街路、水路、鐵道、港灣、上下水道、瓦斯、電燈、市場、屠場、住宅、病院、學校、公園、圖書館、博物場と其何れの方面から眺めて觀ても寔に不足勝な都市現實の苦境に在つて、更らに比較的緣の淡い樣な市民娛樂機關の市設公營を論ずるが如きは、一面頗る事理の暗く迂遠のそしりが有るかも知れないが、是を市民多數の生活の實際に觀て深く考察する時は、其緊急を要する度合に於て其他の事業に比し敢て遜色無きのみならず、層一層切實なるものの存する事が想はるるので有ります。

▓二▓

人間は生活上の必須條件として衣食住を要求

する、吾人は何よりも前に先づ衣と食と住の滿足を欲する事は當然の事實では有るが、併し決して其れのみを以て萬事休するものでは無い、更らに其れ以上各人の嗜性境遇に應じて相當の劇とか音樂とか、以て耳目を娛しましめ、其嗜好を滿足せしむ可き何ものかを求むる筈で有ります。單に是を以て一ッの道樂で有ると見のがす譯には行かない、人間生活に於ける一切の活動は寧ろ斯の娛樂を中心として働いて居るものの樣に觀ねる、殊に劇とか音樂とか主として眼と耳より入る可きものが最多數の志すところで卑俗な酒色の世界に走るとしても尙且つ其間に多少の芝居氣或は音樂趣味が加味せられて居る事が認められるので有ります。

都市は厚い石、煉瓦、コンクリートの障壁で以て田園から隔離せられ自然の風光よりする身神の慰樂とは全然沒交涉な、煤烟と塵埃に埋まるる喧騷のちまたで有ります。田園が夜の閑寂に包まれて將に靜かな眠に入らんとする時に、明るい晝を欺く電燈瓦斯の光に都市は眼覺むるので、花に小鳥に風の聲水のさゝやき、山に野に田園は自然の美くしい懷に抱擁せらるる晝間の樂天地で有るのに對して、人間のあらゆる精力と技工を盡くした都市は夜間の歡樂鄕で有るので有ります。終日の勞苦を終つて夜食の箸をおいた時、深い滿足の溜息は全市に漂い老ひたるも若きも貧者も富者も、皆一樣に追尾す可き歡樂の何物かを求めて、明るい赫く電燈のかげに新らしい自己を見出さんとするので有ります都市民が其娛樂を劇とか音樂とか舞踊に求むる動機は眞面目で痛切で、斯の一面を全然無視した都市の經營施設が片手落の、頗る皮想淺薄のものに終らざる可からざるは明白な現在の事實で有ります。

三

私は人間殊に都市居住者としての娛樂的慾求なるものは、必然的のもので是を最も眞面目に考究し其健全なる向上發達を促進する事が、市民の生活力を增大し是を淨化發展せしむる上に

於て是非とも必須の事で、道路や上下水道其他の如きは物質的改良と常に相並んで、識者により不斷に考慮せられなければならぬ事を切言する者で有ります。

内務大臣が自ら中心となつて劇に對する各方面の關係者を招き、演藝上の意見を交換し是れによる民心の指導を畫策せられたり、興行界の權威松竹が自ら進んで特に勞働者のために、其道頓堀に於ける大劇場の開放を企てたり、乃至は當市中央公會堂が建築落成以來最も多く音樂とか舞踊の類の開催に利用せられ、毎回相當の成功を收めつゝ有る各方面の事實に觀て、市民劇場建設を望む斯の私の提唱が、全然無用の閑論議で無いのみならず、見れば實現の機運も亦日々相迫らんとするもの有る事を深く感ずるので有ります。

都市が膨脹し廓大し其人口が密聚すればする程音樂や劇や舞踊に對する市民の娯樂慾は更に增大さるゝもので有ります。歐米に於ける近代的大都市が私設公設を合して、多數斯種興行場の設備を有する事は實に驚く可きもので、其一例を示せば、北米紐育市が有する大少劇場の數は實に百五十餘、其少なるものリツトル座の定員二百九十九人から、其大なるものヒツポドロームの定員四千五百八十八人に至る坐席總數無慮廿萬席で有ります。今かりに紐育市の人口を六百萬人と註するとしても、なほ人口三十人に對し一つの坐席を有する割合の計算で、近代的都市民の娯樂慾の如何に旺盛なるものが有るかは容易に認めらるゝので有ります。

我が日本の都市には、不幸にして劇場が無いと云つても差支へない位貧弱な現狀で有ります成る程芝居と名の付くものは東京にも大阪にも其他の都市にも、大小幾十かは立派に存在し、日夜其れが盛大に開演して多數のお客を呼んで居る事は事實で有るが、更めて云ふまでも無く木製の貧弱な不秩序極まる舊式の建築で、劇或は音樂舞踊に對する近代的要求に對して、全く不便不調和きわまるもので有る事は勿論、現代都市に於ける公衆娯樂の機關としても亦殆んど

一顧の價値すら無きもの而已で有るので有ります。

殊に觀覽者の不節制不潔の慣習に至つては沙汰の限りで、恁んなバラック建に等しい不完備不愉快な建物の內に、すしヅメの樣に押し込まれて、不潔な坐布團の上に坐し、帽子も多くは被つたまゝ煙草も喫めば飮食も其場で爲し、冬季には少いさい火鉢をかゝへて見物する其不作法不行義亂雜の程度は、百年以前の日本と何等の相異のない現狀で、是れが即ち大きくすれば我が現在都市現實の一縮圖で有ることに想到すると、私は我が市民生活の現在並に將來に對し甚だ悲觀せざるを得ないので有ります。

役者だの舞臺上の施設が大小ともに進歩したからと云つて其は元より問題では無い、何よりも前に先づ建築を改善し觀覽席の設備及び其慣習から改められない限りは、音樂劇舞踊に對する市民の娛樂慾の向上發展は愚ろか、寧ろ精神的にも肉体的にも多大の障害を市民に與へて、健全なる都市發展上の一大障害を釀す樣な事が有る樣に陷るので有ります。

すべて劇だの音樂は單獨に其れ自体が如何に立派でも、是を觀賞し聽取すべき場所環境の感じとか氣分が是れに相應しない樣なところでは何等完全なる藝術的感動を起さずして、到底偉大なる感化を人心に及ぼす事は不可能で有ります。殊に近代的な非常にデリケートな脚色音譜を遺憾なく歡賞するには一層斯の此必要が感せられるので、特筆す可き一つの劇場も音樂堂も所有せざる我が市民の生活が、如何に空疎貧弱に流れつゝ有るかは更めて論ずる迄も無い事實で有ります。

四

全体營利本位を以て經營せらるゝ娛樂機關、殊に利益といふ事以外何等求むるところの無い卑俗な興行者の事業にのみ大切な市民の娛樂と同時に一面には其品位向上に多大の影響を及ぼす可き音樂演藝の類を全然放任して少しも顧み無いといふ事が、如何に危險な結果を及ぼす可

きかは何人にも容易に認識せらる可き筈で有ります。斯の意味に於て私は街路問題上下水道問題或は昨年來大分注意せられ來た都市住宅問題と同樣の必要急務を我が娯樂機關の改善に認むるので有ります。市民劇場の建設は即ち是れが改善促進運動の第一歩たらんとするもので有ります。眞に吾か子の健全なる發育を望む親は、其學校に在つて學ぶ時よりも寧ろ家庭に在つて遊ぶ時、更らにより多くの注意を拂ふ事を惜しまないが如く、都市の健全なる發達向上は其市民の働く時よりは、寧ろ娯む時に於て更らに周到の施設に俟つ事大なるものが有らねばならぬ理で有ります。殊に吾が大阪市の如き商工都市として市が膨脹し廓大されゝばさるゝ程、市民の品格素質に於て層一層俗惡退化の傾向著しき都市に在つては、其薫音淨化の機關として最も通俗且つ効果多き娯樂機關の市設公營を計畫し是れが改善を畫策するのは至極意義あり且つは市民に對して、最も親切なるもので有ると信ずるので有ります。（未完）

◆藝術の作品と不朽の告白◆

萬物は何れも皆美醜の何れかを示すものである。この美醜何れにか屬し且つ説明するものである。かく之等の法則は普通なものであり、又時間と空間とに於ける表現の各種の上に不離不即に隨伴する。それが唯僅の範圍内にも彼等數々の説明を見出すことが出來るのである。而して斯樣な説明の相當と完全とは美を形成するものである。是美は高尚なる技巧妙案の一種の美しい花であるからである。藝術の作品が若し藝術的に巧なものであつたならば、それは何等の價値もない譯である。アクロスチックの如きものならば、上から下に左から右に右から左に交叉して多數の仕方に讀むことが出來やう。それがよい事である、他の事情が等いかそれでよからう。勿論此の如き説明は逆理からするが爲に此の如き方法に解釋することが出來るのである。藝術の作品は多くは意義以上の意義を以て含蓄に富んだものを要するは勿論、更に一層それ以上に安穩不朽で一層有力なる告白を要するといふ意味で甚だ簡單なものである。其觀賞に就ては總て之等の意味が悟入されなければならむといふ必要はない。それは、之等の意味が唯惑ぜられなければならぬといふのが眞の必要とするの處である。



公安より見たる都市計畫及都市計畫立法（下）

商學士　岡田重次

建築家の建築觀既に上戸酒趣を論じ、下戸菓子觀を云ふに似たり、若し夫れ法學者に非ず又建築家にあらずして公安と都市計畫を論じ共立法を議す既に嘱目に足る、維れ、既發の斯編を乞ふて此處に再錄する所以也―一記者―（商業及經濟研究）

六、聖路易の實例

聖路易が都市計畫として爲しつゝある數箇の實例は奈何なることが公安を增進するやを說明する資料となる、同市に於ては凡て建物の高き面積並に利用に關して規定する一の地帶計畫が實施せられた。同規定は在來建築物の利用變更の場合を除き、主として新規構造物に對して適用せられてゐるに拘らず、數年ならずして住宅地區、商業地區及工業地區の間に一目瞭然たる分界線が出來ると確信せられてゐる。其結果として、工場及倉庫は、住宅地區から除かれ、而して特に雜沓する部分では工場の爲働く車馬に緣り起る事故の危險から遙に自由に子供等は遊ぶことが出來るであらう。更に住宅地區が工業地區、商業地區から分離する時は、商工業機關の騷音、煤煙、塵埃、臭氣等から遠ざかりて、より好ましき家庭を作ることが出來得て、公衆衛生上の危險を非常に減少するであらう。今日工業は雜然として全市を通じて擴布してゐる。地帶計畫の下にては、工業は或自然の地區に集

中して、工業運輸の方法を簡單にすることが出來るし、又現在の商業交通と快適交通との錯綜を防止する、是れ、兩交通の安全を著く增進するの効がある。

聖路易は、都市を横斷する全交通の大部に備ふるにように市街高級道路の配置と幅員との一系統を徐々に發達せしめつゝある、斯の系統は驚くべきばかり交通運動を簡捷にし、爲に著く公安を增進した。一箇所或は一地區若くは一街路に交通の雜沓することは皆無と成り、事故頻出の一主因を除くに足る高級街路は、鋭き曲角や不規則な交叉点及惡い坂道を避けて設計せらるゝであらう、其處には種々なる交通の種類別が實行せらるに相違ない。高級街路の斯る發展に依り下級の住宅地道路は交通減少することゝ成り、又道路幅員を減じ費用の掛らぬペーブメントを布けば足りるし、地方的交通以外のものは緩和せられ、之等が因と成りて公共の安全を增加する。

公衆の休養を旨として實行し得らるゝ限り新しき運動場を下級道路即ち住宅道路の上に設くる、而して其所を利用する子供の分配に從つて運動場を按配する、然るときは、子供等が運動場に出懸る道中の距離を短縮し、從つて事故發生の危險を減ずる。

公共の安全の問題は、聖路易の警察部、道路及下水課、並に、商業會議所で非常な注意を拂つてゐる。警察部は四十二人より成る交通班を有し、交通最も輻輳する處は、雜沓地帶として法令に依り指定せられ、其法令に依り貨車の整列を規則し、交通燈を掲揚し、總て街路交叉点には交通巡査が立ちて車馬や歩行者の運動を調節する。

七、有益なる街路事故地圖

一年を通じ都市の各部に亘りて起る事故の數に比例せる大さで黑い圖を描いて示す方法で、興味ある研究が警察部並に市街鐵道會社により報告せられてゐる。斯の地圖は、特に危險の多い地点を決定するに必要であつて、自働車運轉

士が奈何なる處に交通燈があり又交通巡査、交通標等があるかを知るに便利である。其他、數多の實例に就て事故の原因を研究せられてゐる例へば、灣曲路の圓周を變へること、種々なペーブメントを爲し、街路の中央部を變更し、或は、街燈の改良を行ふこと等は、危險を減ずるに與りて力がある。

都市計畫の見地より、斯の地圖は一つの敎科を畫に描きて出來得るだけ敎へて呉る。例へば多くの事故は、都市の他の街路よりはグランドアベニューの近距離の處で起つてゐる。斯の譯は、他の街路が多くの交通を運送せぬ爲でなく五六の街路が比較的短距離内に於て不規則にグランド・アベニューに交叉してゐること、又グランド・アベニューは僅々八十呎幅の非常に急しき道路で、實に絡繹として織るが如き車馬の行列は二六時中絶へざる有樣である。斯の地區に於けるグランド・アベニュー及ワシントン・アベニューには、同市の他の場所に比して事故が多い。是れ疑ひもなくソシントン・アベニューが斯の地点二百呎の短距離内にてグランド・アベニューを横斷し、交通の殆ど全部をして斯の二百呎間を徐行せしむるの餘議なきに至り、茲に發生する處の衝突点により事故の頻出を見るといふ結果に成る。

日本に於ては、從來公安といふことが頗る狹義に解釋せられ、公安とは公共の安寧秩序で、是は唯政治的の意味に重く取られ、市街交通市街建築の不充不備に依る各種の事故災害を防止することが最も卑近な公安增進たることを閑却し過ぎてゐた。斯る公安の增進は、現代の科學的技術的知識を缺いだ都市行政者の能くする處ではない、即ち專門的に研究調査する都市計畫機關の設置が必要となつて來る。以上は公安から見て都市計畫がドレダケの意義があるか專ら技術的見地から觀察したものであるが、以下に於て都市行政の上から又都市生活改善の施設としての都市計畫の制度的に考察して見たいのである。

八、都市計畫の永久的機關の必要

街路の計畫並に建築條例に附隨して公安に關聯する他の問題がある。其一例を上ぐれば、都市計畫と近郊鐵道の計畫との間の關係は、一つの重要なる問題である。近郊運輸の適當なる發展は都市の中心に於ける雜沓を緩和するの効はあるが、線路や踏切の不用意なる配置の爲新なる人命の危險を增加する。都市計畫者は奈何にせば危險なる交叉を避け得らるゝか、奈何にして高速度を得んとする交通私權に對し道路を計畫すべきか、既存公道の上に之等の線路により使用せらるゝ場所を隔離することの望ましきや等を考へねばならぬ。中央區に於ける高速と遲緩といふような速度の異りし交通が混合することは、軈て面倒を起す原因と成るのである。斯の遲速交通の混合は、高速運輸の自由運動を碍ぐるので、從つて又雜沓及危險の主因の一と成る。夫れは、全然取除くことが出來ぬに相違ない、併し、都市街路系統の適當なる計畫に依り非常に之を減少するを得るかも知れない。

市街鐵道並に近郊電車に對する通行權の保留の問題、遲く運動する交通と高速で運動する交通との區分は注意深く研究し調査せねばならぬ以上述べ來つた問題は、孰れも都市發展の問題として繼續的研究を要し、各都市に於ける永續的都市計畫機關に依り科學的研究を爲すべき必要がある。現代文明の淵源たる都市文明に相應した諸都市を創設すべき計畫及案を以て現代文明を助成するを要す。

都市計畫立法の事は、我國に於ても大正七年末內務省に於て調査委員會を開催し、今期議會に提出する運に成つた。此處には同法案の內容に就て論評せんとするのではない。ソレに關しては深いことを聞知して居らぬ我々は、論評すべき何物をも材料として有してゐない。又、各國に於ける都市計畫立法を比較研究すれば、多少有益なる効果を擧ぐることが出來よう。併し其豊富なる材料を蒐集することが困難なるため

僅に最近實施せられた米國ウイスコンシン州の都市計畫立法に就き其概要を紹介したいと思ふ勿論十分とは云へぬが、之により都市計畫立法の何たるかは了解することが出來ると思ふ。若し斯る研究が世に稗益するものとせば、更に完全なものが都市計畫に直接關係ある人々により發表せらるゝに相違なからうと思はれる。

九、ウイスコンシン州の都市計畫立法

一九一七年の夏、ウイスコンシンは都市計畫の三大立法を可決した。即ち、三大都市計畫立法とは、第一地帶法、第二街路擴張法、第三建築線規定の三者である。斯の立法の主要なる点は商工業の所在及其他特殊の用に供する建築の所在を規定制限し、又或工業或は其他の住民をして一定の地區の中に封鎖し、或は特別法に從はしむるような地區設定に關する權限を都市に與ふることである。都市は又建築の高さ及面積を勾束する特定の地區を設定するも可なり。ウイスコンシンの新法は、現在の紐育法を模してある。若し都市が都市計畫委員會を有するならば、第一に先づ決定せられざるべからざるは恐らく地帶規則である。

一〇、都市計畫委員の權限

一九一三年頃通過した立法に據れば、都市は市長、市技師、市參事會員の一人、公園評議會長若しあれば)並に市長より推薦せられし三四人の市民より成り立つ、皆兢も無報酬で働く都市計畫委員を設置する權限を與へられた。斯の委員は立法權を有つてゐない、併し、市參事會は街路、並木、道路、公園、公共建築等に關する凡ゆる問題に就き何か行動を執らむとする前には必ず斯の委員に相談せねばならぬ。斯の義務の外に、前述の如く地區計畫の原案作製が今や斯の委員に加へられたのである。

都市計畫委員の報告が市參事會に提出せられたるときには、市參事會は夫れを變更しても宜しい。但し公衆の傍聽を許した上でなければな

らぬ。計畫は最後に市參事會によりて實行せらるゝに相違ない。一度設定せられし一地區內に變更を加へむとする提案者あるときは、但し其提案者が地先の所有者の二割を包含し、或は其問題となれる地先の反對の側或は裏側の所有者が提案するときには、市參事會の四分の三の投票を得て修正することを要すとしてある。

新建築及既存建築の擴張に適用せらるべき新地帶法は、住宅區を設立するように市に權限を賦與したる舊法を廢止する。併し乍ら、財產所有者の申出る損害の訴願に對し規定してゐる。斯の規定は、實際に於て法の實施力を無效に歸せしめてゐる。ミルウオーキー市は、舊法に從ひて住宅區を設立せんと試みたるが、併し、損害の訴願が提出せられたときに條令を更に發布したのであつた。舊法は、其他の点にも缺点があつた。新法は、積極的にミルウオーキー市の市參事會によりて支持せられPublic Land Commission（是はミルウオーキーが都市計畫委員の機關として運用してゐる）は地帶條令の具體的組織に向ひ第一歩を進むべく計畫した。

ウイスコンシン州の首都マジソン市では間もなく通過するものと豫想せられてゐる處の都市計畫委員に關して規定せる或條令が市參事會の下迄提出せられてゐる。是が通過した後第一着手として必ず地帶設定を採用するだらうと思はれる。マジソン市の地形たる兩湖水の間の狹隘なる地頭の上に在り、且つ其人口の大部分が一時的のものなれば、概ね非常な大都市に於てのみ獨り見るを得る如き雜沓問題が發達して來たのである。

一一、道路擴張の實施

第二の重要なる新法は、街路擴張に關するものである。斯の法の規定する處は、若し市參事會が或街路を擴張せんと欲するならば、一國の陪審官は夫れに關する行動を執る爲召集せらること恰も收用手續に於けると同樣である。斯る行動の後若し收用せんとする土地の全部或は一部に建築物が存在するときには、都市は已の欲

する儘直ちに斯くの如き土地を收用し、必然起る損害を支拂ふ方法もある。又或は建築が破滅して終ふまで待ち、其倒れた建物に對して支拂ふことなく土地を收用して終ひ、斯くの如くして十年十五年を待ち都市は漸次に土地の一部分を收用し、古い建物が倒れて新しき建築物之に代はるを待つことにより即ち公共財産は古い建築物に對して賠償する費用を節約し得る方法がある。

街路取擴げの必要を決定する陪審官の評決が開始するや否や何人たりとも收用を蒙むる土地の上に建築することは不法行爲と成る。或は斯る土地の上に在る現存家屋の高さを增加することも亦不法行爲と成る。若し或人が無理に強て前記のような建築を行ふときには、都市が其土地を買收する際都市に向ひて立退料を請求することを得ず、無料にて其建物を移轉させねばならぬ。

一二、市參事會は建築線を設定す

第三の立法は、建築線に關し規定する。即ち市參事會は、街路線より後退せる建築線を確定することを得る。而して、街路線と建築線との間には建築を禁止することを得る。但し、斯の法の實施に由り或人が損害を蒙むるときには、斯の規則實施後三箇月以內に改築工事に着手した場合生じた損害に限り賠償を受くることが出來る。若し財産所有者(概ね家主なる)が斯る損害に對し賠償の訴願を起さぬならば、又或は一二の所有者が實際損害を受けて其恢復を迫り、他の所有者が已等の財産の改善の爲喜びて其費用を負擔せんと欲するならば、建築線の設定の如きは極めて容易に實現を見るであらう。通常都市は斯の種の損害を賠償するを喜ばざるものと想像して可なりである。



渡米所感

會員　日高胖

私は昨年の秋、用務を帶びて渡米いたしまして今春無事歸朝いたしました。在米中の所感を諸君に御話いたす樣の御勸誘を度々受けましたが、一家の取込のために其折を得ず、今宵漸く諸君と相會することを得た樣な譯であります。

米國の建築界の樣子は諸君に於かれまして先刻御承知の事であると思ひますが兎に角一通り自分の見聞視察談を御話いたします。

私は橫濱を出帆いたしまして桑港に上陸し直ちに紐育に向ひまして約二ケ月同市に留まり、夫より「ボストン」、華盛頓、「ヒラデルヒヤ」、市俄古、「トレード」、桑港、「ロスアンゼルス」等の諸市を訪問いたしまして「シヤートル」から歸途に就きましたので在米約四ケ月に亘りましたのであります。

桑港に上陸しまして誰でも第一番に氣の付くのは道路の美しい事であります、自分も實に行屆いた其造り方を視て寔に羨しく思ひました、まだ家の建てられてない處にも立派に道路が出來て居ります、既に計畫が完成して居るのであつて夫々地割を斷行し下水を設備し、それから後で家を建てるといふ造り方でありますから寔に後の仕末がよいのであります、都市の近郊が斯くの如く整理せられて居るばかりでなく、他の都市とを連絡せる國道も立派に修築せられて居るのであつて彼等の都市計畫が如何に將來を

計算して如何に大規模であるかを視るとき唯々羨望に堪へぬ次第であります。

次に建築物に就いては普通の住宅と公共的建物とに分けて御話を申上げたい、公共的建物と申しても自分の視察致しましたのは主に銀行諸會社各商店及借事務所等でありまするが、就中自分が一番研究致しましたのは、紐育と市俄古の兩大都市のものであります、この代表的二大都市を充分に視察すれば他は觀んでもよいと思つたからであります。

建物の planning は餘程以前と變つて來た樣に思ひます、以前私の渡米致しました時分には大低 court yard を中心に設けましたのが多かつたのでありますが、高層建築の競立する樣になつて此等の中庭は丁度井戸の底の樣になりまして下層の各階には光線が充分　取り入られない結果漸く其缺點に堪へられなくなつたと見えまして近來は市内の建築物は court yard を建物の前面に設ける風が起つて來ました、建物の外觀から考へると市街が櫛の齒の樣になつてあまり面白い傾向とは考へられませんが採光の點については其効果著しい樣でありまして實際に工夫を凝らしたものであることを視ることが出來ました

從つて近來建てられた建築物は大体右の樣の planning に依つて計畫せられて居りますが、此等の型に倣ふた貸事務所商店及銀行等の中で貸事務所の如きは其主要目的から第一階は殆んどエレヴエーターと通路によつて占領せられて居ります、從つて主要なる第一階を商店等に利用する部が殆んどないのでありまして二十階三十階の建物にては全く止むを得ぬのでありませうけれども如何にも馬鹿らしく廣すぎる樣に思ひます、私は今少し斯の點を節約することが出來る樣に考へられます、其他銀行、會社等の space を廣く要求せらるゝ室は其出入口を別に設けて一般公共の玄關と區別して居るのもありますが又或場合に中二階を設けて之れに直接出入の出來る樣に設計し第一階を公共の廣場と致しました例も多い樣であります。

構造の點から觀ますると、多くは鐵骨構造で

ありまして鐵筋コンクリートは先づ十二三階止りの様であります、二十階三十階のものに在つては大低鐵骨造となつて居ります、これは鐵骨の構造の方が仕事も早くspaceも充分に利用出來る爲であると思ひます、私の行きました頃はまだ戰爭最中であつたのですが、間もなく平和となりましても工事中の建物を殆んど視ることが出來ませんでした。

乍併、ホテルや倉庫等の建築は戰時中もどん〳〵建設をやつて居りましたので視察することが出來ましたが此等のものは多く鐵筋コンクリート造でありました。

外部の仕上は多くは下方を花崗石にし上部は煉瓦を化粧とし又「テラコッタ」を用ひて居りますし軒蛇腹の如きも「テラコッタ」又は鐵骨に銅板を包んだものがありまして此等は重量の輕減を謀つたものと見ることが出來ます。

床は從來「テラコッタ」と鐵筋「コンクリート」を併用して居りましたが、近來は大程鐵筋「コンクリート」にceiling metalを張り其間のspaceに電燈電話瓦斯其他の配線工事をやつて居る樣であります。

室内の建築は市中のものはregulationによつて定められ、耐火の目的で鐵材を使用して居ります、出入口唐戸の如きは全く鐵材で張られて居る樣でありますが、又木材も許されて居ります、最も必ず耐火性を帶ばしむるために藥液を浸ざせしむることゝなつて居ります。

其他に使用せられて居る材料は大理石でありますが、米國産のものとしては「テンネッシー」地方産のものを使用して居りますが他は殆んど伊太利産のものを輸入して居ります、事務所建築にては約六尺迄大理石を使用し、床なども大理石屑を利用したる人造石を使用して居ります、總じて此等建築材料として用ひられて居る種類は寔に少ない樣で、鐵材、石材、煉瓦「コンクリート」「テラコッタ」及漆喰等でありまして聊か意外の感に打たれるのであります。

高層建築にては日中電燈を用ふることは避け得られぬ室が多いのでありますが、壁全体窓ばか

りといふ風に工夫をいたしましてもplanningを如何に巧にやつても三四階より下層の各階は日中でも電燈を用ひて居るのでありますが、此の點に就いて二三の建築家と意見を交換いたしましたが、日光の不充分のために眼を病む人が多く衛生上寔に困しむ處だと申して居りますが日光を充分に得ん爲めにはベラボーに高い建物は事實に不都合であるから建物の高さを制限する必要があるとの意見を發表して居りました。

紐育市中にては二十階以上のもの約七十あります、就中三十九階以上のものが五箇あります

ウールウオース館　五十五階　七百五十呎
メトロポリタン館　五十階　七百呎
シンガー館　四十一階　六百十二呎
バンカー館　三十九階　五百三十九呎
エクイテーブル館　三十七階　四百八十五呎

夫れから三十一階三十二階級のものは十あまして夫以外はずつと低いのであります、此等のものを平均して見ますると約六階になるさうですが、巴里市の平均高七階より少ない事になります、又都市全体の美觀から視ても衛生上より觀ても一樣に相當の高度を保つことが善いのでありまして我國の都市にしても先づ八階より十階位迄のものを拵へるのがよいと思ひます。

建築の樣式から觀ますると、總体に於て復興式を採用して居りますが、近來多く伊太利復興式のものを倣ふの風が見受けられます、住宅は主に English Georgean 風のもの又コロニアル式のものを喜んで建てゝ居ります。

趣味の上から觀ますると從來兎角佛國式の華美壯麗のものを喜び派手を競ふの風がありましたが近來大いに地味に傾き總てが落付いて來た樣に見受けます、從來彫刻の如きもクバ〳〵しいものを好んで居りましたが最近は薄肉彫のものを喜び、婦人の服裝も明かに斯の傾向を物語つて居る、則ち Taste の上から觀れば近來大いに向上して來たと視ることが出來ます。

建築全体の proportion 等も大いに研究されまして此頃では立派に米國式の型が完成されて來た樣に思はれるのは彼等が建築美に對して大い

に骨を折れる爲であると考へられます。

住宅にては東部方面の寒冷地方と西南地方の温暖地帶とによつて平面圖も變化はありますが一般に空氣の流通をよくし日光を餘計に取り入れるといふ方針に基いて居ることを視ます、從つて英國式の風なく凡てが開放的で我國住宅に類似の點が甚だ多くなつて來ました。

現今東部地方でsun room西部地方でSleeping porchと呼んで居ります大きなverandah樣のガラス障子を廻らした室を必ず設けて居るのでありまして冬は暖く夏は開放して風を入れ網障子とするのは要するに空氣と日光とを充分に採り入れる目的を達して居るのであります。

公共的建物の器械的設備の中にて最も大切なるはエレヴエーターであります、多いのになると五十箇から八十箇近くも設けてありますが不慮の出來事の豫妨については大なる注意が拂はれて居ります、其方法も寔に完全なるやり方であつて人命に害なき樣工夫を凝らして居ります其他暖房通風の設備に關しても大いに注意を加へて居りますが通風の點に關しては猶改良の餘地がある樣でありまして總してventilation holeがない樣であります、これは窓の開放によつて其缺點を補ふといふ方法を執る爲でありませう暖房も近來はHot air式を用ひ夏は冷氣を送り冬は温氣を通ずるといふのでありますが此等の點は我國の現在の遣り口の方が早くより注意を拂つて居る樣であります。

最近華盛頓市の國會議事堂　暖房設備が改良されて私は幸に視察することが出來ましたが其設備器具に面白い裝置を設けindicatorを以て室の温度を指示するといふ寔に工合のよいarrangementを採用して居ります、斯の裝置については他日諸君に發表するの機會があると思ひます其他手洗器、洗面器cook drinking pan等についても面白い參考材料がありますが他日を期して略して置きます。

建築工事の期間は大体頗る短時日でありまして仕事も早く、しかも私の想像しましたより仕上工事がよく整つて來ました、從來米國の建築

工事の finish はどちらかといへば拙い方で我國の方が上等のものがありましたが近來大いに進歩したのは驚くべきであります、これは主として機械力を利用せんが爲めに益其成績を上げつゝあるものと思ひます。

總して工事期間の短かきは羨ましい樣であり市役所だの紀念建造物圖書館等の建築工事には五六年を費やしたのか多い樣でありますが他は多くは一年を出でずして完成し長くとも一年半を要するに過ぎないのは機械力の利用に依る事であると思ひます、斯の點に就ては吾々は大いに學ぶ所あるべきと思ふのでありますが、仕事が早くて手際のよい事は亦經濟的に一進歩を遂げて居るのであります。

工事費の比較的安價なるも斯の點が大に關係ある事で、又材料の多數が內地產であるといふ事にも連關して居ると思ひます。

大低の建物は一立方呎四十五錢位であつて一番高いのでも五十八錢といふ事であります之を一坪當り高十二呎に換算すると約二百五十圓となりまして此內に建築工費並びに暖房設備費及各種配線工費を含んで居るのであります、されば我國に於ける工費よりも安價であるのでありまして甚だ意外な結果を視るのであります。

以上大体に就いての所感を申述べましたが甚だつまらぬ事を並べ立てまして諸君の御淸聽を煩はしました事を御詫いたして置きます。（了）

……

生命は活くるに在るに非す
健かなるに在り

（マルテアリス）



住宅問題解決に提供されたる珍案

會員 M T 生譯

□はしがき

去月四日の紐育タイムス紙上に二號活字で次の様な紹介が掲載してあつた。

住宅問題解決の珍案！

市委員會に提供さる

▲六室を俱備する住宅四軒が背中合せ

工費二千二百五十弗

▲設計者はハリー・アレン・ヤコブ氏

そして叮嚀に設計者ヤコブ氏の説明が掲けられてある、住宅問題の沸騰してゐる太西洋岸の狀況も斯の名案が推奨せられて居る點から觀てよく肯かれる樣である、殊に同氏が個人資本家の資金に目を付けて解決の主鎖を握らうとした勇斷には感服の外はない。

ヤコブ氏は紐育市の建築士でフエヤー倶樂部やハードマンペツグ舘やフルトン氏邸フレデリツク氏邸やジエームス氏邸其他を設計して居る經驗家であるさうな。

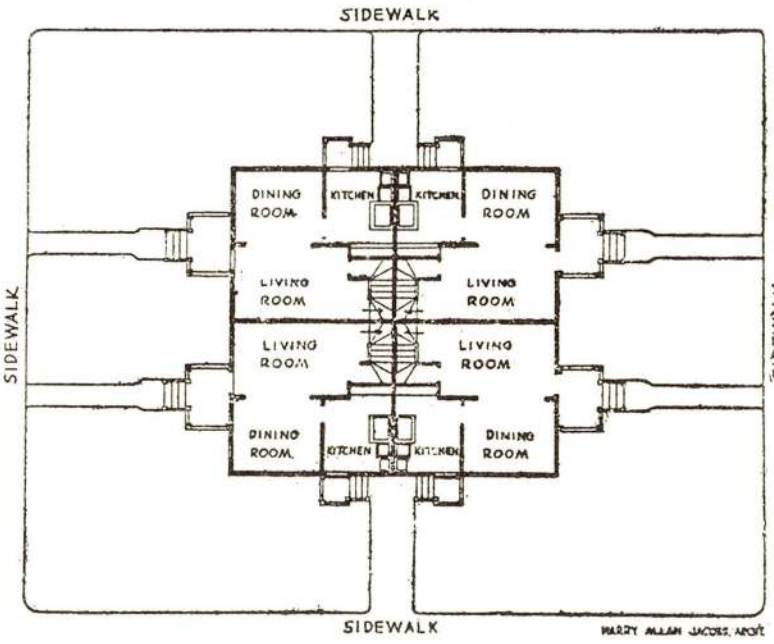
□ヤコブ氏の珍案

小住宅及貸家缺乏の現狀を救濟する目的から一つの新らしい珍らしい又經濟的な計畫案が住居問題調査中の市委員會の議長チーサン・ヒル

シュ氏の手元に届けられた、提出者は建築家ハリー・アレン・ヤコブ氏である。

從來澤山の計畫案が本問題を刺撃するために委員會に提出されてゐるが一つも滿足に完成されたのがなかつたし、又個人の資金に利益を齎らす樣でなければ實行は出來ない筈である。

各市からの報道を見ても、建築材料は一般に低下するよりは騰る一方でる、それで合衆國の勞働局は此等の事實からして各種の建物の建造は一日も早く着



手すべしと主張してゐる。

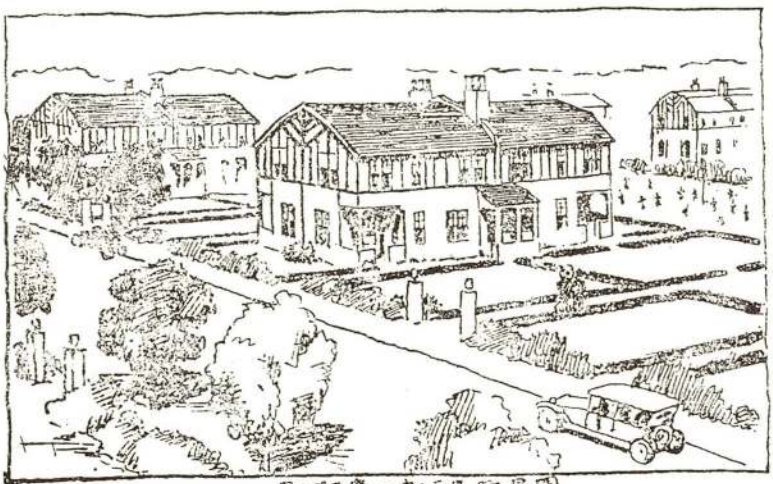
ヤコブ氏は昨日自案を議長に說明して提供した後次の樣に語つてゐる。

『個人の資金は現狀救濟の唯一の財源である大きな會社や會館ではそう易く貸金をせぬ從つて最も融通のきくのは個人の資金が住居の問題に當てられてゐる市の豫算丈である、だが個人の資金を利用する爲には其投資に對して相當の利益と可なりの報酬を齎らす樣にしてやらねばな

らぬ斯の點に關しては全く建築家の巧妙なる發案に待たねばならぬ、則ち經濟的であつて且將來建物の價格が增進する樣に建造出來なければならぬ今や正に時機來れりと思ふ　多くの請負者や又下請負人は彼等の現在の地歩を維持する爲めに實際の價格で仕事を請負つてゐる斯くの如く大勢如何ともすべからざる有樣では物價は騰る一方であると思ふ。

□構造上の經濟

構造上の經費節約に就いて氏は亦次の樣に語つてゐる。

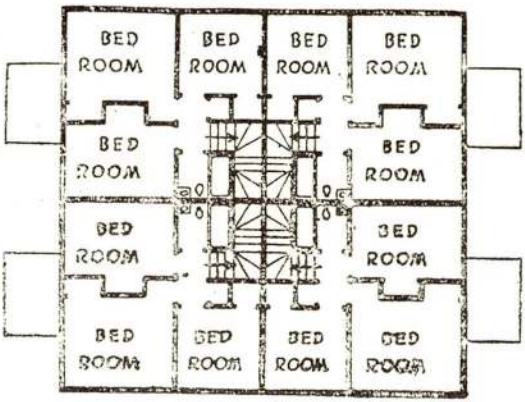


ヤコブ氏案四軒長屋鳥瞰圖

『此私案の最も大切な創意のある處は四軒の家を背中合せに一所にし各部とも自家專用の庭を設けて夫々四隅を占領して居るといふ點に在る、そこで思い切つて各個獨立家屋よりも經費の節約を斷行した事になる、四軒を一宇の下に掩ふた故に間仕切壁が二つ出來た、その爲めに壁の大部分が節約せられて居る、又各軒の家の二ッの外壁の外裝が不用となつたのだから內部の仕上面積も半減せられた事になる、從つて基礎工事と屋根工事に一大節約が斷行せられた譯である。

給水工事も眞中の部分に集中せられるし、四軒の家が

一本の土中管と一本の供水管と一本の排水管とで濟む事になるから大いに經濟である、煙突の部分に於ても、電燈瓦斯電話水道下水等の地下線の配備に於ても獨立家屋よりも短かくて濟む、從つて亦地中配線工事の無駄を省く事になる暖房設備も中心に集中する方が都合がよいし一の汽罐で充分十六軒を暖める事が出來やう



工事に際しても工費の節約は大したものである監督も一人で樂に見廻る事が出來るから都合がよく暖房、配電給水の室内線の配備も大いに節約せられる譯である』

土地の經濟

『私の計畫では四軒の家が背合せになつてゐるから、四隅の家の庭は一帶の芝生にして置く事が出來るから、芝生の眞中に家が安置されるので外觀も面白く、四周の庭は立派に四等分されるし又夫々二分して表の庭と裏庭とに分ける事が出來、庭園の方面から觀てゐる大いに經濟的である事と信ずる。

斯の建物を建設する投資家は一エーカーに十六軒分を建設する事が出來、從來一エーカーに夫々十　軒しか出來なかつたよりも得策であゐ、又配置上から考へても街路と私道との關係も都合よくなり電燈、瓦斯、電話、給水等の引込みにも都合よく眞中に運動場を設け、子供等の遊戲場とするから往來で遊ぶ爲めに自動車から危險より脫れしむる事が出來る、公道から運動場への私道も各箇の建物の間の眞中に設けられる。』

□安價住宅の要求

發案者は更らに言葉を續けて恁ふ言ふた。

『ワシントンの住宅船舶局にて經營した計畫は大いに善いし又寧ろ善過ぎる程であつた、則ち住宅の價格が高過ぎて困るといふのである　其理由は恁ふである、目下最も要求されてゐる住宅は價格約二千弗程度で六室と浴室を俱備して欲しいといふのである。

本案では第一階に居間(Living Room)と食堂(Dining Room)と臺所(kitchen)と玄關(outside porch)とがあり第二階には三つの寢室(Bed room)があり各戸棚と浴室と物置と備へて居るのである。

敷地の價格は此四軒の家を引くるめて約四百弗外部の設備則ち公道私道排水電燈瓦斯電話等の工費が一軒につき百五十弗家屋費が二千二百五十弗であるから總計約二千五百弗となる、若し此四軒を夫々分離して獨立家屋にしたら三千二百五十弗となる、則ち敷地を別々にすれば增加して五百弗であり、外庭の工費が二百五十弗家屋費が二千五百弗を要するから總計私案よりは七百弗の增額となる。

以上の如くであるから百軒の住宅を建設すれば獨立家屋の場合に比して約七千弗の節約が出來る、又此私案住宅を建設して賣却する場合には四千弗には立派に賣れる、則ち各軒一千四百五十弗の利益となつて總計百軒分十四萬五千弗の利潤となる。

又貸屋としても月最低價四十弗には貸す事が出來るから一年四百八十弗となり利廻り年一割九分と云ふ計算となる、又愈建設するとなれば三四ケ月で立派に出來上るのである。

四軒の家を背中合せにするといふ考案は猶押廣めて二十軒位迄も一宇の下に集める事が出來る、唯此場合は各軒が皆隅を占むる事がなくなるが、四室を備へて居る住宅が千二百弗五室が千五百弗で出來ればよいといふ一般の要求には合致するのである』



住宅と生活

□旅館としての構造

大西旅館　大西光代子談

女史は、女子大學の卒業生で、大阪江戸堀上通りの旅館に嫁かれ、只今は旅館の主婦として働いて居られます。（一婦人記者）

旅館といふものは、外見からは如何にも儲かりさうで氣樂のやうに見えませうが、其實、儲かる代りにそれだけ費用もいるものでございます其費用のうちでも、最も澤山いるのは家の手入れに要する費用であります。

普通のお家でしたら　疊の表代へや障子の張り代へなどは、暮れに一度すれば、さう汚れもしないものですが、旅館となりますと、どうしても二度は代へなければなりません、殊に大阪の市中のやうに煤煙の多い土地は、疊や障子などゝも汚れが早くて、一年のうちにばかりも大分損失であらうと存じます、東京風に椽側を廣くして、硝子戸でも閉めて置きましたら寒い時は暖かでもあり、埃もはいらなくて一擧兩得で宜しいと思ひますが、私共の家は、ずつと以前に建てた家ですから、そんな設備もありませんので、今度新築でもする場合には、其ういふ點も考へてと存じて居ります。

主人は、長らくアメリカに行つて居りましたので、家の事に就いては、外國風のよい點を加味して作り度いと申して居ります、從來の純日本風の建築法では、住んでからの手入れや掃除が大變でございます、殊に私共のやうな商賣で

は、いつもきちんと片付け、相應に裝飾もして掃除などもきれいにして置かなければなりませんので、一日の大半は此方にとられて仕舞ひます、これは、掃除法に、二重にも三重にも手がかゝる爲めでありませう、先づたゝきをかけて箒ではいて、雜布がけをしてから拭きをするといふ非常な手數を要します、このうち、最も時間と勞力とを要するのは、雜布がけでございませう、今の忙しい世の中に、廊下の雜布がけなどは、餘りに不適當なことゝ云はねばなりませんん、これはやはり薄緣でもしくか、箒でも敷くやうにしたいものです、重い澤山な雨戸を明け立てすることなども、なくもがなと思ふものゝ一つでございます、朝よく休んで居る頃に、枕元でがらがらやられるのは餘りよい氣持ちではありません、私共の家は、一切雨戸なしでございますが、それでも別に盜人がはいつたこともありません、尤も田舍の淋しい近所に家もない處ではさういふ譯にも參りませんでせう。

それから、私はいつも感じて居りますのは、天井を平らにし度いといふことであります、お坐敷や二階は、皆きれいにしてありますが、臺處の天井は張つてない處があります、あれは、體裁が惡いばかりでなく、掃除の時に大變しにくいものです、木と木の間に埃が一杯溜つて居ても、それをすつかりとるといふことは出來ません、臺處や土間の天井には、トタンを張ると掃除に大層都合がよいと申します、流し元の內部にも、トタンを張つて置きますと、經濟でもあり清潔で宜うございます。

□体裁や趣味よりも衛生的で便利な家

大阪醫科大學學長
佐多愛彥氏夫人
佐多靜子談

世の中が斯樣に忙しくなりますと、只もう、衣食住を簡單に〳〵にとあせつて居ります、日常の事でも、かうすれば手が省けるとか、便利がよいとかいふ事を伺ひますと、早速それを實

行して見るのでございますが、それでも、いつも忙しい日を送つて居るといふのは、兎角日本人殊に婦人は衣服や住宅に關して餘計な手數を要して居るのではないでせうか、一寸買物に外へ出るにも、いち〳〵髪を結つたりお化粧をしたり、下から上まで著物を著代へたりして、多大な時間と手數とを費やして居ります、斯様なことは、私共婦人は注意をしなければなるまいと思ひます、夕飯後に夫や子供が『一寸散歩に』とお母さんを誘つても、お母さんの支度に一時間も二時間も手間どるのですと、其待つ間に夫や子供等は、散歩に出るといふ興味がなくなり時間も遲くなつて、遂に散歩は中止といふことになります、それでは一家の平和といふ點から申しましても感心が出來ませんし子供等の敎育上にもよくはあるまいと思ひます。

一家の主婦は、いつ來客が有つても差支のないやうに、又いつ外に出るにも、手輕に其まゝ出られるだけの身だしみはして居り度いものでございます、私は芦屋と大阪に家がありまして始終往來をして居りますので、其度毎に著代などをして居られません、いつもふだん著のまゝで參ります、家で働く時には、女中かと思ふやうな汚ない風をして居て、外に出る時には、頭の頂上から足の爪先きまで磨いて出るといふ事は、よいことには違ひありませんが、井戸が水道になり、ランプが電燈になつた今日の時代には、調和のとれない事だと存します、私共は今の時代に最も苦心をして居ることは『如何にして時間を有益に費やすべきか』といふことであります、昔のやうに、お米もお味噌も著物も凡て自家で作らなければならないやうな時代でありましたら、婦人はそれ等の仕事でそれ〳〵忙しくもあり、又それだけの仕事をしてさへ居れば、婦人の役目は果されたものと、自他共に許して居りましたが、今の塲合はさうは參りません、有ゆる文明の利器を利用して、其日其日をより有意味に送らなければならないといふことを、私共は感じて居るのでございます、それには、日常の生活を簡易にしなければなりません

殊に住宅は、考へやう一つで、いくらでも簡單に出來ると思ひます、假令ば、全然洋風にすれば非常に手數は省けますが、それでは經費や何かの都合でさうばかりも出來ないといふのでしたら、或る一部だけを洋館にしますと、毎日の掃除に大變都合のよいもので厶います、私共では、私や子供等は日本坐敷を使用して居りますが、主人の書齋や應接間には、洋館をあてゝ居ります、日本坐敷ですと、まづ　たゝきをかけて箒ではいて、雜布がけをしてから拭きをしなければなりませんが、洋館ですと、一週間に一度位念をいれて掃除をして置きますと、後はざつとたゝいてはく位で充分でございます、私共の生活のうちで、最も重きを置かなければならないものは、食と住と、此二つでございますが今迄の日本の習慣として、住居といふことに餘り注意をしないのは、寔に心得ぬことだと思ひます、毎日住んで居る家が、假令茅屋にせよ、自分の氣に入つた家で、臺處の設備なども自分の思ふまゝに出來てありましたら、どんなに心好いことでせう、私は、体裁や趣味といふことよりも、衞生的で便利よくといふことは住宅として必要なことだと思ひます。

其うちでも、特に臺處は、便利のよいやうにと存じまして宅では煮炊きは一切瓦斯を使用して居ります、瓦斯は不經濟だと仰被る方もありますが、併し、火を炊いて家の内中をくすぼらせたり、お勝手を灰だらけにして火を起すことを考へますと、經費の多いこと位は我慢をしなければなりません、お勝手で一番大切な處は、流し場でありませう、たべ物や食器を清潔にするには、清潔な流し場が必要です、人造石などは見た目の感じはよくても、實用的ではありません、一寸お皿を落しても直ぐこはれますし、金物を置いたりしますと流し場が臺なしになります、木製ですと腐り易くていけないといふので、木の上にトタンを張つて見ましたら、大變に工合がよいやうです、私共の流し場は、四方から使へますし、其下を物をいれるやうにしてあります、野菜物や其他の物をいれて置きます

流し場に坐つて居て戸棚から物を出して洗うことが出來ますから便利でございます。

坐敷や茶の間は、人目に付き易いので、自然きれいにいたしますが、便處や風呂場は、兎角不潔になり易いものですから、斯ういふ場所には、人造石や瀬戸などを使ひますと、掃除も樂に出來ますし、一寸はいつた時、大變よい感じがいたします、軒から軒へと家の建て込んだ場處に住んで居りますと、風呂を炊くにも、なるべくいぶらないやうにと、不經濟とは知りながら、薪を炊くといふやうな氣兼をしなければなりません。スヰツチ一つで、凡ての用が足りるといふ便利さを羨しいと思ひます。

◆果して婦人の地位が進み思想が向上したでしょうか

X 夫人談

近頃、婦人問題が大分やかましくなりましたが、此爲めに、婦人も自覺をし、男子も婦人の待遇といふやうなことを文明的に改めた結果、婦人の地位は、社交的にも家庭的にも大變よい方に進んで來たといふことを申しますが、果して其通りでありませうか、これは未だ〳〵研究の餘地はありはしまいかと思ひます。

成程、昔の婦人に較べて、現代の婦人は、或る點に於ては、優遇もされ、自由も與へられたことは確であります、併し、これは一面ばかりを見ていふたことで、或る一面に於ては、退歩の傾向を示して居るのではないかとも思はれる傾きがあります。

婦人の地位が高められたとか、思想が向上したとかいふことは、どういふ點を示して云ふのでありませう、婦人の或る一部の人達には、昔の人の夢想だにもしなかつたやうな、自由な、放縱な生活を仕て、自分の意見も思ふまゝに發

表し、自分の行動、思想をも、自分の意志の儘に行つて居る人もあります、夫があつても、從來の夫婦の間とは、全然違つた關係の下に、家庭を作つて、或る場合には、夫が家長であるか妻の方が家長であるか判らないといふやうな家庭もあります、斯ういふ家庭に妻となつた婦人を、進歩した婦人であるとか、主婦として非常に優良なる地位に立つた人とかいふて、凡ての婦人が、斯樣に待遇をされて居るやうに云ふ人もありますが、斯ういふ家庭、斯う云ふ地位の婦人は、ほんとうの一部に丈存在してある事で云はゞ例外として取扱はなければならないと思ひます、斯ういふ例外は別として、社會全体の上から見ましたなら、未だ、婦人の方でも大した進歩もしては居らず、男子の方でも大して優遇をしないばかりか、婦人の人格、手腕を、全然無視したやり方・考へ方をして居る男子が多數のやうに思ひます、斯る傾向の實例として、私の感じたことを申して見ませう。

私共の結婚をした頃、今から十年程以前には男子は自分の妻となる婦人への缺くべからざる一條件として　意志の堅固な働きのある婦人をといふことを最も重く考へて居りました、しつかりした婦人でさへあれば、年の老若、顔の美醜は問題にはしないといふ人さへありました、云はゞ糟糠の妻であつてさへくればよいのでした、私もかういふ條件の下に望まれた一人であります、私の知つて居る多數の人々の結婚は、先づ多くは斯ういふ條件で望まれもし、嫁ぎもしたことは事實でございます、斯うして結婚をした夫婦は、特別に、婦人が男子から尊敬を拂はれ、特別に優遇をされたかと申しますと、必ずしも左樣ではありません、昔の婦人が經て來た道と何の變りもなく、妻は夫を尊敬をして、自分は粗衣粗食に甘んじても、夫には良い物を着せ、良い物を勸め、自分は毎日下男や女中を相手にして、家の中の雜務に日も足らぬ生活をして居ります、一方夫はどうかと申しますと、職業上で止むを得ないとはいふものゝ、毎日歡樂の巷に浸つて暮して居るといふ有樣でありま

す、事業が發展して富が殖へて來ますと、不品行なことをして妻に苦痛を與へるといふやうなことは、昔も今も變りはないやうです、夫の斯ういふ行動に對して、妻の方ではそれに相當した報ひをする爲めに、訴訟などを起すことは、近頃の新らしい實例のやうでありますが、これは未だ〳〵女の方に同情をされるとこまでは行かないやうです、又日本の婦人の美點として來たことは、服從といふことでありますが、斯ういふ事は無意味なことだといふ人もあります、けれ共多くの人殊に男子には、服從を強るやうな人もあり、婦人の方でもそれに服して滿足をして居るやうな人もあるといふ有樣で、夫を訴へるなぞといふことを、普通の盜難事件なぞと同樣に見ることは出來ぬ狀態なのでございます、夫の不品行を非難したり、注告をしたりするやうな婦人は　必ず男子から嫌はれるのです餘計な理窟を云ふとか、利口ぶるとか云つて、一言の下に叱り飛ばされるのが普通でございます。

さうかと思ふと、今の婦人は學問もしなければいけないとか、思想が高尙でなければいけないとかいふことをやかましく唱へます、婦人の方では、喜んでそれを實行をして、新聞の論說が判るやうになつて、時局の問題なぞを話題に上せたりするやうになりますと、今度は、生意氣だとか、お轉婆だとか云つて、批難をします一体これはどうすればよいのでせう、一生夫を手賴つて行かなければならない私共婦人は、其手賴る夫の思ふまゝになつて、馬鹿になつたり賢くなつたり、まるで浮草のやうな定まらない儘で一生を過さなければならないものでせうか或る婦人は、夫の氣にいる爲めに、自分の人格も思想をも全然捨て仕舞つて、或る種の女の眞似をして家庭の圓滿を保つて居るとも聞きました、或る婦人は、どこまでも婦人としての品位を保うとする爲めに、夫の趣味と同化をし得ないで、苦しい日を送つて居るとも聞きました、十年以前には、しつかりした婦人を望んだ人々が、今は反對に、若く無邪氣でさへあればよい

といふことを申します。

今の男子の望むのは、學問のある賢婦人でもなければ、家政の切盛に勝れた手腕のある人でもありません、若くて美しくて、只男子の思ふまゝになりさへすればよいのです、男子は斯ういふ婦人を望み、婦人は進んでかういふ男子の意を迎へやうとする傾向は、爭はれない事實となつて來ました、果してこれでも、婦人の地位が進み思想が高向をしたのでありませうか、平素私の感じて居ることを思ふ儘に申して見ました。

【一大氷河】

アルプス連山中の最高峰たるモン、ブランより流れ出る三大氷河の一がタレーフル氷河で、他のタルキュ及びレシヨーの二大氷河と相合して、長さ四哩半、幅半哩乃至一哩四分の一の氷河と稱する一大氷瀑と爲つて溪間に下つてゐる。氷河の眞中に佇立して之を仰ぎ見ると、數十丈の氷の斷崖かと疑れるドリユー峰は前面に聳へて其背面左手には四時皚々たる白雪に輝くヴエルト峰を控へ、それより稍低い所にはア、ボシヤール峰があり、右手にはデユ、モアス峰が巍然として雲表に聳立ち彼方にはクランド、ジヨウス山が白妙の衣を誇り顏に莞爾として登山の客を迎へてゐる。



市營長屋及共同宿泊所

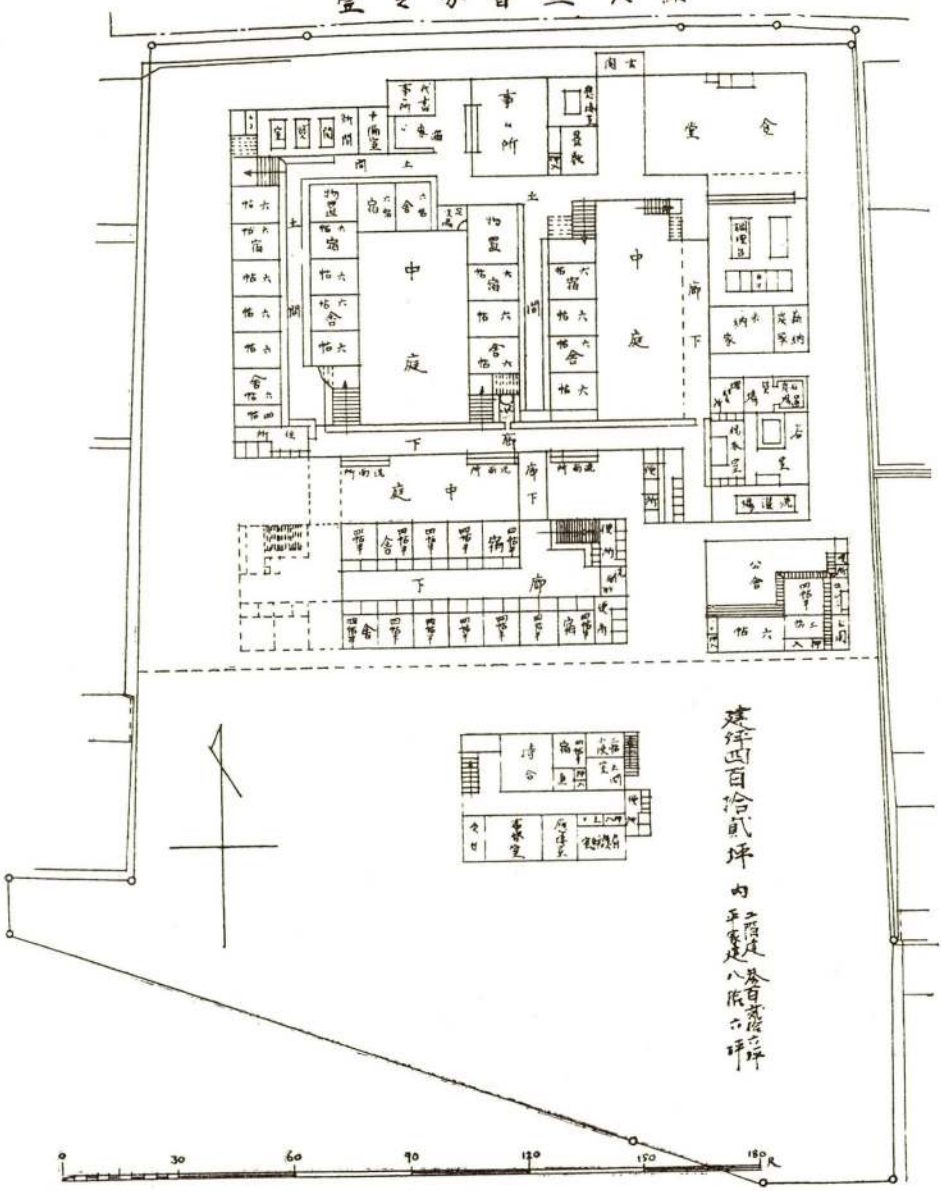
（卷頭の寫眞を參照せられたし）

江村郊邨

從來、世界思潮の暗流を受けて、潜在的に其勢を激成しつゝありし我邦の社會問題は、時局以來、經濟的の衝動を受けて近時漸く表現し來り、所謂社會政策實施の要求は漸時猖ならむとすると同時に、之が具体的施行を視ることも亦漸く相亞がむとするは、蓋し時勢の然らしむる處なりとは云へ、又、歐米に於ける斯事業幾十年の後塵を拜するとは云へ、其社會的覺醒に向つて吾人は聊か意を強ふするに足るを欣ぶ。而して、此處に政策なる文字を用ふることの當らざるや否开は兎も角として、之等の社會的政策が個人若くは個人團體に依て表現され又は表現されむとしつゝあるもの既に二三にして止まらざるも、先づ、之を公共團體に於ける夫れに觀なば、東京市の細民住宅改良施設と共に我大阪市の市設長屋及共同宿泊所の經營を以て其最たるものとする、之を凡ての規模より觀れば纔に斯る施設の摸型的な試行とも謂ふべくして、大局上より著き影響なきものと觀得べきも、是に仍ほ私人又は夫れ等團體の注意を刺撃し、斯くて之等の施設が民間に於て殷に起ることとならば、之を一種の規範とするに於て寔に有意義なるを信ずるのである、之等の事業を歐米に於ける實例に徴するも、英吉利が約七十年前、サースベレー法として識られたる處の細民住宅並に安宿の改善に向つて法制を布き、今より四年許前既に約十

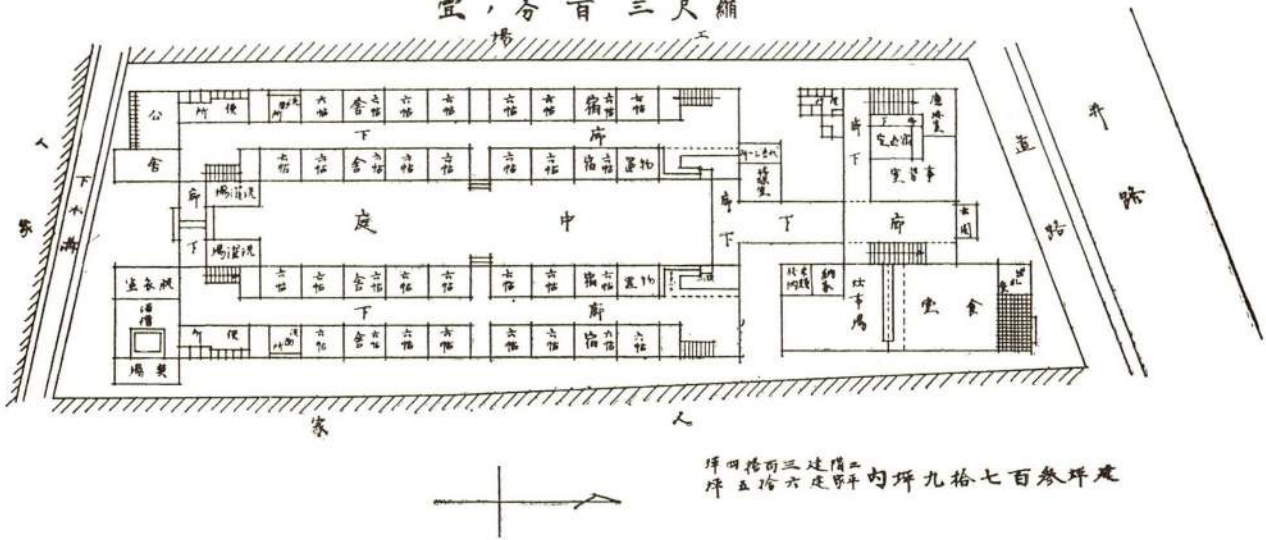
今宮共同宿泊所配置圖

縮尺三百分之壹



西野田共同宿泊所配置圖

縮尺三百分ノ壹



建坪參百七拾九坪内
建坪四拾四坪二合
坪五拾六坪三合

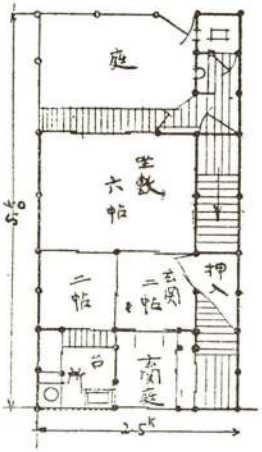
萬人の居住家屋建設を爲せるを以て市營住宅の嚆矢とし、白耳義、佛蘭西、獨逸、米國等に於て、細民住宅改良の保護的法令を施行せる外、多くは、篤志家又は慈善團體等に依りて之等の事業が殷に營まれあるの狀況である、故に、我邦に於ても、社會改良事業の一端としては、單り公營の夫れに俟つ許でなく、民間に於て、殊に多數の人を使用する會社又は製造工場に於て斯る施設の頻々相起らなければならぬ。社會原理より云ふも、勞働者—無產勞働者住居の如き其使用者に於て康安なる住宅を與ふべきが妥當である、而して、今此處には、今回竣成せる大阪市營長屋及共同宿泊所の一般を誌して、我邦に於ける社會政策の一端殊に公共團體の夫れを窺ふこととする。

大阪市が這回の施設を爲すに到りしは、其由因素より前述の如き機運の然らしむる處なるも其動機は、實に、客年の米價暴騰に由る人心の險惡なる動搖に在りとする。當時、大阪救濟事業後援なる名目の下に、大阪市に於ける各種社會事業の經營を爲すため、市內各新聞社及大阪市長其他知名拾數氏の發起を以て弘く事業資金の捐出を求め、斯くて大正八年三月十五日限り締切をなせるが、寄附金實に九拾貳萬九百四拾九圓八拾七錢を算じ、之を大阪市に委付すると共に、市は之に內務省委託寄附金拾貳萬壹千參百七拾六圓貳拾壹錢及び右金利壹萬壹千五百六拾四圓を合せて、壹百五萬四千八百九拾圓八錢が、實に、大阪市社會的施設の事業資金となつたのである。

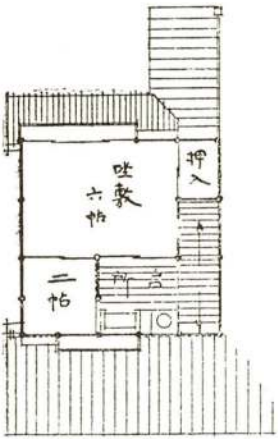
而して、市は、既に、其事業の一部として、客年九月十日以來、市內幸町、天滿、九條の三箇所に『簡易食堂』を設け、次いで、本年二月七日西區九條南通一丁目に『九條職業紹介所』を開設し、爾來孰も良好の成績を擧げ來りしが、更に、住宅及共同宿泊所の創設に着手し、昨今漸く其工を竣つたのである、今斯の兩者に就て其概要を記することとする。

═住　宅═

住宅は、築港と城東線櫻宮驛東方の二箇所にして、



甲種　貸長屋階下



甲種　貸長屋階上

港は築港住宅總坪數三千九百七拾七坪七合四勺、內建坪壹千壹百參拾坪七合五勺、平屋建四拾八戶、二階建八拾貳戶、而して竈數壹百八拾七箇を數ふる。櫻宮住宅は、總坪數三千六百九拾四坪五合二勺五才にして平屋建四拾戶、二階建八拾戶、竈數貳百箇、其總建坪九百七拾七坪八勺である。

而して、其兩所に於ける住宅のプランは殆んど同樣にして、之を左の四種類に設計されてゐる。

甲種　階上六疊及三疊の二間、階下六疊一間及二疊二間、

乙種　平家建にして六疊、三疊、二疊の三間、

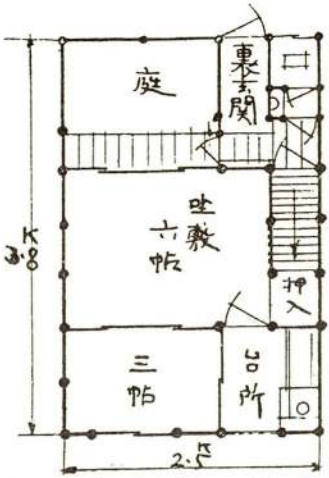


乙種　貸長屋

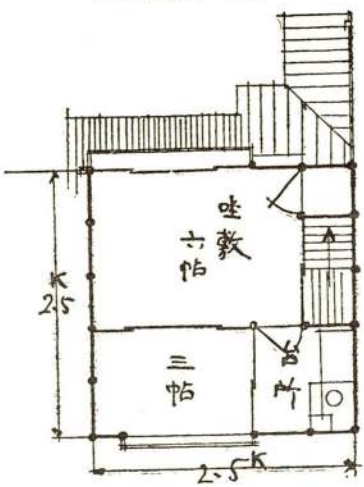
丙種　階上階下各六疊、三疊の二間特別階上及階下共六疊、三疊の二間、

而して右兩所の一廓內に托兒所、人事相談所、實費診療所、浴場、理髮所、店舖、洗濯所と、斯の一廓の差配ともいふべき公舍一棟を附しあ

り、甲種と丙種は、階上階下を各一竈と成し、

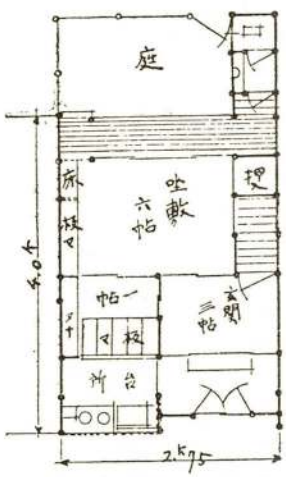


階上にも炊事場の設備あると共に、其交通は直ちに後庭椽側より階段を取り附け



階下と何等交渉なき設備と成しあるは、最も意を用ひたる處と想はるる斯くて、夫れ等の

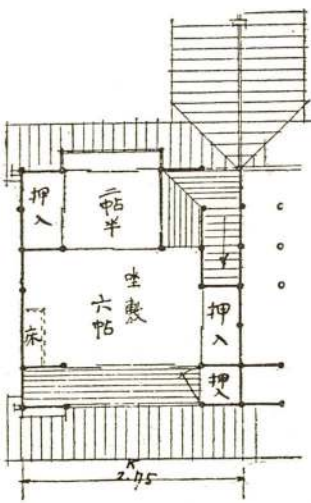
賃貸料は、甲種　階上　參圓　階下　四圓五拾錢



乙種　五圓五十錢

丙種　階上參圓　階下四圓

特別　拾壹圓　店舗　拾貳圓



之を現今の普通賃貸料に比すれば、市の接續町村に在る家屋としてゝ約貳分の一以下に相當する、聞けば、其住込

以上三分の一

者の選定　就て、市當局は餘程頭を惱せりとのことであるが、其貧與竈數三百八拾七に對し申込約一千を超ゆるとのことにて、其内、收入其他家族關係、職業、素行等隨分煩些な調査を爲し、漸く候補者を選定せる者五百人、其内より抽籤にて住居者を定めたのである、市は、之等の人々に關する職業及收入の最高標準すら餘り發表することを好まぬようであるが、調査する處に據れば　第一回抽籤のときは、主として、市雇員、市の道路掃除夫、工場職工達であつた而して、各住宅地に附屬せる賣店は、公設市場より出張せしめて、公設市場同樣に日常食品薪炭等の安價供給を圖ると共に、湯屋は市内の四錢に對して貳錢、理髮所は市内の廿五錢又は三拾錢に對して拾錢とのことである、其他、兒童の就學手續から、晝間勞働者に對し其兒童を預り、或は、居住者に係る一切の人事に就て後見役と成る抔、努めて其便益を期してゐる、殊に市は漸次適當なる内職の奬勵をも爲さん計畫とのことである。

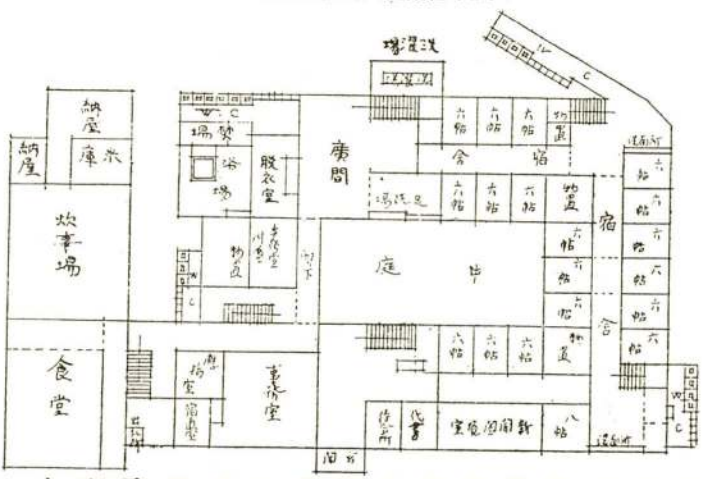
共同宿泊所（別項プラン參照）

普通民間に所謂木賃宿なるものが、或温泉場の如き特例を除く外は、孰も殆んど社會落伍者の掃溜めであるかの觀を呈し、其設備に於て多少な科學的の見地よりしても零なることは勿論の事であるが、之と同時に、斯の場所が、此處に生を寄す人達をして一層荒廢の深みに陷らしめ幾多罪惡の釀成所であり又淫靡淪亂の媒介所なることは、單に我邦許でなく、歐米の夫れに於ても同樣である。而も、都會に勞働を求めて流れ來る人達、又は收入の關係上此處に一時の居を得る處の比較的純性味のある人々に對して墮落の危險境地たることは云ふまでもない。之等の人達の境遇と要求に協ふべき矯風的な宿泊所を供することも社會政策の一發現で、殊に主として都會に斯の必要を見るのである。歐米諸國に於ては、一般社會政策的施設の餘程進歩せる當然の成り行きとして、殆んど斯の種の施設を看ざるなき有樣である。就中、宗教團體等の施

設に係るものが多い我大阪市の這般經營の如き公設のものに到りては、今より六十七年許前英國ヨーク州ハツダフヒルドに於て創められたのが嚆矢だとのことである。今大阪市の施設に係る共同宿泊所は、其規模に於て又整備に於て之と比すべくもないが、斯の種事業として、公營のものに到ては先づ之を以て嚆矢とする。之と同時に、過渡期的な設備とは云へ、多少とも斯る事業に範を與へたことは多とせねばならぬ望むらくは、英國がグラスゴーに大規模の斯種施設をなして以來、其各都市が翕然として競設の狀況に到りしが如く、他の都市に於ても斯る事業の相亞いで起るようにありたいものである

大阪市の這回漸く工を竣りて開始に到りたる『共同宿泊所』は、今宮、築港、西野田の三箇所にして、挿入せるプランの示せる如く、孰も殆むど同樣の設計なるが、今宮は、敷地總坪數一千四百九拾參坪內に、二階(本館)三百二拾六坪三合七勺五才、平家建百五坪四合八勺餘にして階上八疊敷六室、六疊敷三拾三室、四疊敷一室

大阪市營築港共同宿泊所階下



階下、六疊敷拾九室、四疊一室、而して、其裏に『合宿所』と稱する一長屋四疊半一室づゝのもの二拾一戸あり、是は、夫婦者を收容する外共同宿泊所に宿泊中成績の佳良なる者を住はせ、獨身者には相當な者を娶はし、漸次善導して終に一戸を構へしむる計畫なりと。而して、當宿泊所收容定

員は三百二人とのことである。

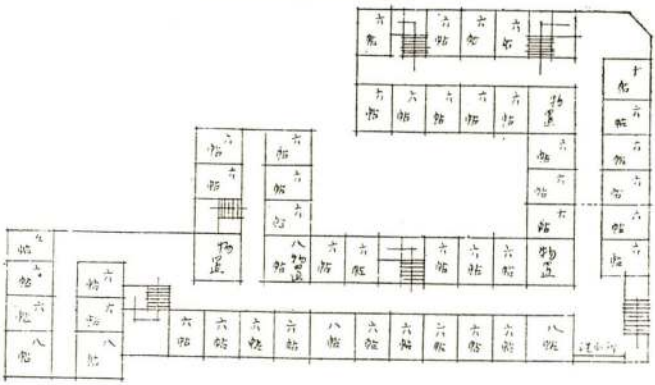
次に、築港宿泊所は、總坪數約九百坪にして内、建坪二階建二百六十三坪二合五勺、平屋建百二十七坪八合七勺五才而して、室の總數八疊敷五室、六疊敷五十九室、四疊敷一室を有する、此處にも其收容定員二百六十八人とのことである。

更に、西野田宿泊所は、總坪數七百五十四坪六合九勺にして、内、建坪二階建三百十三坪五合六勺五才、平家建六十五坪二合五勺、而して六疊敷六十九室、四疊半敷四室、四疊敷一室、其收容定員二百八十六人とのことである。

斯くて、以上の設備に於て毎夜八百五十餘人の無宿者に安靜な休養場所を與ふることゝなるのであるが、其各室の收容比率を八疊六人、六疊四人、四疊半及四疊各二人の割合としてゐる而して夫れ等の共同宿泊所には、簡易食堂、大炊事場、浴場、共同洗濯所、洗足場、新聞縱覽所、託兒所、職業紹介所等を附設し、一夜七錢を拂はゞ、入浴して清潔なる安息室と心地よき寢具とを得る上 食事を欲する者は、十錢を投じて、其附設の簡易食堂に滋食を攝り得べく、殊に、其簡易食堂は宿泊者以外の食事にも應ずるとのことである。件の外、今宮共同宿泊所には『兒童相談所』を附設し、兒童の衛生、育兒其他兒童に關する一般の相談相手となるのであ

前記『合宿所』の設備がある、斯くて、

大阪市營築港共同宿泊所階上



る、而して、收容時間は、午後六時より翌午前六時とし、夜間の勞働者に對して午後十時迄は猶豫することになつてゐる。

斯くの如く稍整へる設備を有せるが、市は、單り斯る物的施設の方面にのみ重きを措かず、進んで、其宿泊者達に對して、精神的開發の方面に種々考案を有せるとのことであるが、普通民間の宿泊所が例へば電燈のコードを僅に三尺許取り付けて、充分燈光を利用し得ざる爲、宿泊者は何んの餘裕もなく直ちに床中に入るが如き狀況に顧み、以上の宿泊所に於ては、コードを六尺許になし、宿泊者が自由に新聞其他書冊抔を覽ることを得て、之等の人達に精神的餘裕を與へんとするが如き其一例である、其他、時々簡易なる講演等をも催して、內的方面よりも斯の人達を改善することに努むとの計畫である

以上、記者は纔に其概綱を書き得たに過ぎないが、是によりて、多少とも世の識者が斯事業の實際を識り得る參考資料の一端ともならば倖である、是と同時に、餘りに物的施設の効果に偏して、竟には、之等の事業が實質上『職業化』若しくは單なる『行政化』するようでは、既に社會政策の中心は喪はることゝなる、吾人は、我市の公營として斯る事業の先鞭を付せしことを欣び、又、斯る幾多の事業が亞いで相起ることを希ふと同時に、奈何に斯の施設を活用すべきかに頗る興味を有してゐる。

本編は、前號に關博士の『都市住宅政策』なる高見中、市營住宅に就ての事項と重復する處あり。



我邦現代の住宅を奈何にすべき乎（中）

會員　小笠原鈔

（四）

前號には、近來住宅改良問題の大分喧くなりたること、現代の生活狀態と一致融合し得る住宅建築の改良方法を示す者の少いこと、我邦中流階級の住宅建築法に就て一種の改良案を提示すること、我邦の現代に於ける住宅問題は過渡期なること、先づ大体に於て洋風建築とすべきか又は在來通り日本式にすべきかの問題、和洋折衷式住宅の建築方法は奈何にすべきか等に就て卑見を掲げました。

扨て、前號に述べました處の改良方法も、大体が木造建築でありますから、絶對の防火的構造を施すことは殆むど不能事でありますけれども、總て改良の場合に於て各部分の燃燒をして成分遲緩ならしめ、萬一の失火に際しても其消火を容易ならしむる樣の方法を採るならば、其防火的構造としての理想に庶幾からしむることが出來ます。

次に、間取でありますが、是は、玄關とか客室とか書齋とかいふような主人の公的方面に關する部分は、總て椅子、机を用ひ、床敷はリノリユーム又は絨氈を用ひまして、靴履きの儘出入し得られるように成し、又、入口に窓等の內法を高くし、周圍の壁や天井抔も之に調和するように改良することにしたいと思ひます、即ち在來の住宅に於て、先づ居座式の一部を改良するのでありまして、玄關、客室、書齋、食堂、小兒室抔を凡て椅子式にすることであります、

臺所や洗面所抔は、在來の構造が多く拭板で自然に起立式になつて居りますから、是は在來の儘で宜いが、之に加ふるに、前述の各室を椅子式にしますれば、住宅の大部分は先づ洋式を加味することゝなります、併し、寢室や居間の如きは、主婦の服裝關係や其他の事情もありますから、當分は、在來の通り居座式を用ゐる方が好都合でありましよう、要するに、椅子式と居座式とを家庭の模樣に依りまして調節按排しますれば、日常の生活に愉快にして便利を與ふることゝ存じます。

（五）

其外形は、大體從來の如くに日本式の構造でありますけれども、其屋根の型を成るべく面白くする爲「アチック」を利用致し、外壁は下見板を少くして、成る可く塗壁を用ひることゝし、尙、雨戸を外部に用ひずして、硝子障子を外觀に使用することにしたら宜いと存じます、蓋し在來の日本式住宅は、殆んど其外觀に意を用ひられませずして、單に各室を寄せ集め、其自然の出來形に壁を附け、窓を穿ち、屋根を葺くといふようなものが多いのであります、隨つて、其外觀に去つ張り趣味といふようなものが少く之を西洋館に較べまするとまだ以て無格好なものであります、でありますから、今少しく外形を整へ、屋根抔にも趣味を付けるように致しまして、外より之を望み見ましたとき大層心地良い氣分になるように設計したいものであります、殊に、外部には雨戸を使用致しますより、晝間と夜間とに其外形の趣を異に致しまして、晝間留守締りの場合の如きは其外形が沒趣味といふよりは寧ろ醜惡な感を與へます、又、其實用に於ても、風雨のとき抔は之を閉して薄暗い裡に不快を忍ばねば雨水を防ぎ得ない不便があります、之等は最も改良を要すべき點でありまして、先づ硝子戸を外部に置いたならば良いと存じます。

（六）

次には、耐震耐風の構造でありますが、斯の構造に成す爲には、椽側の柱建を多く致しまし

て、壁下地に改良を施し、小屋梁組合せに注意し、大體にオープニングスパンを少くし、筋違材料並に緊結金物を十分使用することが先づ其條件であります、惟ふに、在來の日本式家屋は柱數が割合に多いのではありますが、椽側の明放場所は特に柱建を少くし、二間半は勿論のこと、三間、三間半のオープニングスパンを造りまして得意としてゐるような傾向があります、然るに、斯の隅柱は、僅か一本に非常なロードを受けまして、到底、計算上の安全耐力なきものが多いのであります、けれども、唯、慣習上其危險を左程感せずして構造され、斯くして隋性的に今日に迫むだのでありますが、風震災に對して最も脆弱なのは實に斯の點でありまして念ひますれば寔に戰慄すべき事柄であります、苟も、住宅として生命財産を安全に保持すべき建築に於きましては、徒にオープンを大にして技巧を衒ふような危險千萬なる構造を喜ぶべき筈なものでありませぬ、是は斷然改良すべき要點と存じます、無理に二間三間の持放を造らずとも、室内より庭園の眺望や或は適當な通風には十分であります、斯くせなくとも、專ら安全堅固を旨として構造し、尚且趣味の表現に富み或は技巧の妙を竭し得る方法は他に多々あります、仍て、前記の柱建を改良し、椽側にも約一間毎に柱を用ひ、更に壁下地小屋組杯の構造に改良を施さば、十分に耐震耐風の構造と成すことが出來得ます。

（七）

更に、天井を改良し、建具を改善することに藉りまして自然に暖房的な構造と成り、且つ又失火の節其燃燒を幾分遲緩ならしむる一擧兩得な改良も亦次いで考ふべき問題であります、蓋し在來の日本式天井は、殆んど其全部が竿緣の四分板張に造られ、鼠族の遁去毎に騷音を聽き且又塵埃が落下する許でなく、嚴寒に暖房せんとするも、溫氣は皆其隙間より上騰して保溫には何の功もないのであります、尚且萬一失火の場合には、忽ちに其炎上を便にし、其大事に到らぬ間に消防することは到底餘裕がないのであります、是は、大に考究改良を要する點であらうと存じます。

天井材料としては、メタルシーリングや石綿盤板を用ひるか、或は、薄き鐵鋼コンクリートやアイヨンラスにてモルタル塗とするか、乃至は、木摺天井にして漆喰塗に仕上るかの方法を採り、之に色彩を施し又は紙張を爲すことに改良したならば、一新面目を生ずるであらうと存じます、勿論、椽側、押入、便所等の如き比較的火氣に關係の無い處は從來通りで可いのでありますが、日常居住の室に於ては、彼樣な改良法を採りまして、保溫と防火に充分理想化したいのであります。

在來の室内建具は、殆んど紙張障子が襖かに限られまして、是は大層輕快ではありますが、防火や保溫に何の効力もなく、失火の場合には却つて炎上を助成するような危險があります、且つ、寢室の仕切の如きは餘りに薄弱でありまして心持が惡しく、又、必要に應じて戸締をすることは殆んど不可能であります、是も改良を要すべき點であらうと思ひます、或は硝子戸又は板戸にして、其重きものには適當な車を付け今少しく堅固な仕立を要します、外部の雨戸に到りましては、實に、生命財産を保持すべき住宅外皮の夫れとしましては、餘りに非防禦的でありまして、惟へば、輕々に過眼視すべきものでなく、寧ろ寒心すべきものではありますまいか、是も亦改良すべき要點であらうと存じます

(八)

次に、建物の周圍土臺下は、石又は煉瓦等を以て地盤より一尺以上の腰捲を爲さば可いと存じます。建物の周圍に腰捲を爲し置けば一般に土臺の腐朽を防ぐことに大なる効果がある許でなく、一時の出水等に際して在來よりも水害を被ることが少いのであります。是を條件的に申しますと、

臺所流し周圍及湯殿周圍は、モルタル塗・アスファルト塗又はタイル張等にして、清潔且防濕的に改良すること。

便所の構造に於ては其便器又は溜瓶の一部を改良すること

彼樣にして、在來の住宅建築に就き右の如き要點を研究し、以て進歩改良せしむれば大に其面目を改め便利堅固に且つ衛生的となり、現代の住宅として理想の幾分を現實し得ることゝ存じます。



學と術

會員　K　H　生

「學と術」との關係について、聊か卑見を述べたいと思ひます、一般に「學術」と稱へらるゝ名詞は頗る大づかみの樣であつて、其意義は甚だ漠然として居る樣に思はれます、術を學ぶの謂でとるか、學を究むるの術であるか、或は學と術とを綜稱するの意味を有するか、不明瞭であります、「學」の一字に含蓄せらるゝ內容は既に偉大なる廣域を有つて居ります、又「術」の範圍も宏大無邊であつて極まる處ない樣に思はれます、從つて斯の二者の意義が別々の領域を占有し居るものを綜合したものとすれば斯の二字の綜合名詞は上下左右前後に殆んど宇宙の大を抱容してゐるものであると考へられます、乍併其一を主とし他を從といたしまするど其領域は半減されますのみならず、却つて其境界を縮少するの樣に考へられます、そこで私は「學術」なる名詞は「技藝」と相應呼して人類の工夫案出したるあらゆる仕事を總括したる意義の下に「學」と「術」の別を明かにし、進んで建築に於ける「學」と「術」につき、自家の觀る處を發表いたしたいのであります。

私の觀る處では學は識によつて其進むべき道を明かにするものであると思ひます、學識の二字は斯の意味を決定して居るものと思ひます、從つて學識の領域は出來得る限り廣く且つ深いことを望まれて居ります、識は見聞によりて其

領域を開拓するものであり、其開拓し得た見聞に統一を謀り秩序を定めるのが學であると思ひます、從つて學問の二字が出來て居ります、博學とは博識のいひであり、博士といへば博識の士であるべきであります、乍併今日の學問が社會的の分業制度から博問であるべき學が專問に分割されて居りますから、專ら領域を狹めて深い澁奥を極め行くことに努力しつゝあるがために專問は益狹隘を感じて學界は全く分割されてしまつた樣になつて居ります、從つて今の博士といふ稱號は甚だ其當を得ぬものになつて居ります、むしろ專識の士であるから專士とか狹士とでもいふべきであります、我國王朝時代の博士とは甚だ其內容を異にして居ります、乍併一般社會は此等の狹學の士を博士と稱揚するが爲めに頗る滑稽な現象を到る處に現出して居ります、則ち一般社會の期待と博士の態度とは一致して居りません、それは博士の上に專問の名詞のあるのに氣の付かぬ爲であります、又同じ專問であつても更らに其狹い入口に分れて居るが爲めに工學でも法學でも文學でも夫々に其狹い門戶に自からを嵌め込むが爲めに學の意義が頗る狹められて居ることであります、從つて「學」なる意義が屢々誤解をまねきつゝありはせぬかと思ひます、其豫め狹められたる門戶の其奥殿は必ずしも其入口の樣な狹いものではあるまいと思ふ、眞理は何處を尋ねても一つであります學問の殿堂は其奥殿が一つであるべきかと思ひます、其奥殿に到達すれば其歸り途はいかなる門戶より飛び出するも差支へない、進み行く道は異なつても所謂堂に入れば學の領域は廣大無邊にあるべきであります。

分けのほる麓の道は多けれど
同じ高根の月を見る哉

社會的分業といふことは一時的分割に過ぎないのであつて、學の奥殿から眺むれば莫迦らしい事に氣が付くであろうと思ひます、富士の頂上を廻つて居る行者は屢々自分の登つて來た路を忘れます、そして限りなき天空限りなき眼界の大に驚嘆の眼を放ちます、或ものは其大に畏

れ、或者は其偉に感じ、或者は其壯に驚きますが若し分け登る狹い路其ものが學の領域でありとすればこんな間違つた事はないと思ひます、初めに假りに繩を張つて置いて進むべき道を見易からしめたにせよそれは方便であります、其方便を忘れて學の奥殿にも達せずして途中から迷い出し元歸た道を狹い門戸に立歸つてるらさうな識を振りかざした處で、足元は頗るしどろである事が見ゑます、博士の門の如何にも淺くなつた事を見逃すことが出來なくなりました。

術の領域も亦よく似て居ります「術」は「技」であり「藝」であります、技師といへば技の先生であります、從つて技の蘊奥を極めなければならぬ筈である、技の蘊奥を極むるが爲めには術の妙味を知らなければならぬ、術は學によつて其手段を識ることが出來ますが術の奥殿は學や識がいかに廣く且つ深くとも到達し得られぬものであります、術の得度は練磨の數にあります、且つ實効の上に立ち、經驗の海を越ねなければなりません、日出國の名刀が幾百回の鍛練を經る如く白熱の域に入つて初めて得らるべきものであるさうです、若し學が高く廣く上へ上へと其眼界を擴げ行くものとすれば、術は深く〳〵下へ下へと其領域を開拓して行くものである、若しかりに學が眞理の表でありとすれば術は其裏であります、從つて術の得た處は學に重大なる証據を提拱するものであります、學によつて術が便宜を得るばかりでなく、術によつて學の眞價は明かにされます、然るに實際の上に於て高い所から眺むる學が低く深く横はる術を識ること頗る淺く術を輕んずるの傾向は一般の社會に靡漫して來て居ります、學術といへば學問の事と思ひ、術の學であり學の術である事を了解されて居らないではありませんか。

若し富士を登つて其美に觸れるの人は未だし駿河の富士とのみ見て甲斐の富士を知らざるも未だし、遠く近く高く低くあらゆる富士を見なければ富嶽の大と偉とを知ることが出來ない樣に學の士は術の妙を味ふことを忘るべきでないと思ひます。

術の妙味は決して一通りや二通りの手段では解りますまい、練磨の技白熱の域に入つて初めて妙の奥殿に達するものであるといふ事である そして學の奥殿から眺め得た天は妙の奥殿の地に連なつて居ることは、天地の眞が一であることを証明して居ります、從つて學と術とは共に其宏大なる領域を以て宇宙を両分して居ることを知らねばならぬかと思ひます。

若し今日の我建築界に於て「技」と「藝」と「術」とは「學」と「識」と「問」の爲めに掩はれて居るといふ傾向が事實に存在するとせば、吾々は默視すべきでないと思ふ、若し術の世界は顧みくれずして學の世界が唯一の權威であるかの如き有樣では建築界の爲に採らざる處であろう、若し技界藝界の權威が學の爲に掩はれて居るならば術の將來の爲には決して樂觀すべき現象ではないと思ひます。

博士濫造の弊に氣が付いてから博士推選の形式を打破する爲に博士規定が改造されるといふの場合に更らに多〳〵の博士の製造せられるといふのは學界のために慶すべきでありませうか、はた亦術界のために賀すべきでせうか、術の博士の世に出でんことを學界のため又術界のため切望したいと思ひます。

國技館の倒壞は建築界の一大不幸事であります、だが其原因の如何を繹ぬる時、私は「學」の缺陷に由りたりといはんよりは「術」の不熟の更らに甚大なることを觀取せざるを得ぬ樣に思はれます、若し「學」の不備に依るものとせば學界は其因を究むるの必要がある事は勿論であるが同時に、術の未熟なるが爲に由りたりとせば、術界の先覺者は眼を大にして其因を檢しなければなるまいではありますまいか、そして斯界の將來のため學術技藝の圓滿なる發達に不斷の努力を傾けて欲しいものである、我建築界に學の興隆は固より望ましい事であるが同時に術に對する尊敬が更らに〳〵叮重に拂はれんことを希望して止まないのであります。（了）



京都古建築觀 【十】

特別賛助員 伊藤清造

十六 愛宕念佛寺

概說

京都市內松原通に在る眞言宗の古刹であつて其由緒は明でない、斯の愛宕念佛寺の東方に六道珍皇寺がある、是は小野篁が作つたので、念佛上人を中興とし、弘法大師を開基としてゐるけれども、一書には今の珍皇寺は小野篁の建立した珍皇寺とは全く別のものであるとしてゐる又、斯の珍皇寺は一つに念佛寺と稱するが、是が今いふ愛宕念佛寺と一緒であるといひ、或は別であるといつてゐるが、今は愛宕念佛寺も珍皇寺も別々に存在し、珍皇寺は建仁寺に屬して禪宗臨濟派の寺となつてゐる、愛宕念佛寺の僧侶に就いて訊いてみると、念佛寺は古の儘の念佛寺で、珍皇寺は念佛寺の塔中であるといつてゐるが、孰れにしても、深い連絡はあるらしく且つ兩方ともに少くとも平安初期に創建された事は附近の土中より出る古瓦の樣式によつても知られるのである。

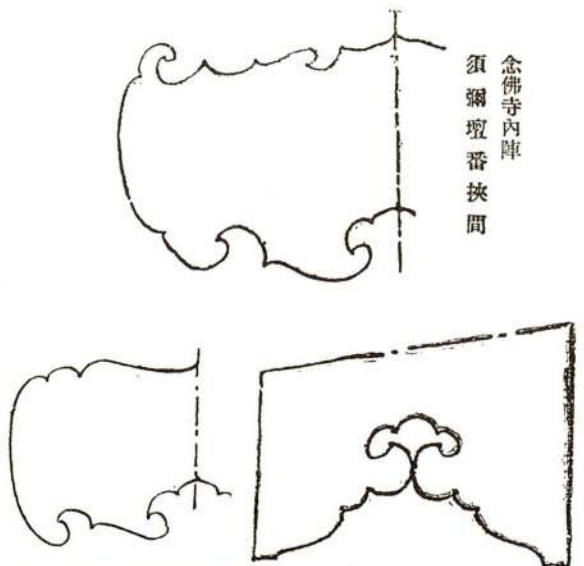
本堂

單層入母屋本瓦葺方五間に廻椽を有してゐる正面には蔀戸を用ひ左右の間には唐戸を配して居つたことは明に其根跡を胎してゐる、又柱は大面を取つた角柱で肘木によつて繁割二軒を支承してゐる、內陣は三間二面とし、折上小組々入格天井とし、外陣は小組々入格天井である、現今は荒廢を重ねて殆むど見る影もなく、側へ

寄るのも危い樣であつて、補工修繕の跡が非常に多いけれども、明治三十年に特建の指定を受けて以來未だ一度も修繕されてゐない爲に荒むにまかせてある、廻椽も正面丈けで、他は物入になつてゐる！、斯の物入に作つた處に古材が多く用ひられてゐる、此處に在る板唐戸も恐らくは當初正面に用ひられてゐたものだらうと思ふ廻椽の一部は、知恩院の所謂鶯張り的の嬌音を發してゐるが、吾人は斯の種の樂音は別種の研究に在りて、空氣の壓搾であることは確信してゐる。

斯の堂の建築年代は審でないが、鎌倉時代であることは一般に信じられてゐる、梁の銘中に文保年間重復の由を記してゐると傳へてゐるが文保元年は西曆一千三百十七年であつて、我北條高時の時代である、彼の壽永二年、平家一門が都落ちの首途に、左しもの大厦高樓一夜の煙と立ち上つて、燒野原茫々として、立木に迷ふ鳥の聲の悲しかつたとき、斯の愛宕念佛寺も六波羅密寺と共に、平家の邸と殉死したのであらう、後再建されて、文保年間には重復されたのであるらしく、一般に應仁の兵火には免れたものと認められてゐる。

六波羅密寺本堂が語る處の Mise rable な物語は、斯の堂によつて一層強く著しく傳へられてゐる、朽腐した老建築と、廢頽した環境の民屋

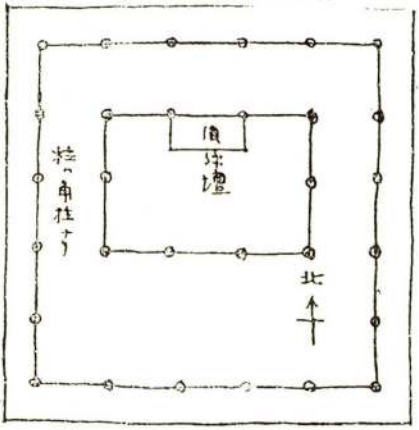


念佛寺內陣
須彌壇番挾間

金具八双金物

（地藏尊前の臺に表れたもの）

念佛寺本堂平面見取圖



と、既に充分に衰弱の分子を漲らしてゐる無格好に流れて重々しい屋蓋と、軒の亂れた線形と吾人は奈良の極樂院や十輪寺の本堂の前に佇んだ以上の淋みと哀れさとを切に感ずるのである。

内部に就いて細く見ると却々に優秀なものが澤山にある、殊に、須彌壇の書狹間は明に鎌倉式のものであつて、高尾神護寺納凉房の書狹間とよく似たものである、今東方に安置された火除地藏尊は當寺の本尊であつたから、昔は斯の堂を地藏堂といつたといふ、當時の軍記物に地藏堂とあるのは、斯の堂の事ではないかとの寺僧の話である。

十七　知恩院

概說

京都市東山に在る淨土宗の總本山であつて、華頂山大谷寺と稱してゐる、斯の邊一帶は、比叡山の別院南禪院に屬してゐたが、延曆寺十二代の座主慈鎭和尙が法然上人に斯の地を與へて一向專修の爲に叡岳を去らしめた、上人は此處に庵室を結むで研鑽し、而して、淨土宗門を樹立し、大乘の難義を去つて小乘平易の宗門を闢き、終に、斯の地で入寂したのであるが、德川家康の時になつて、淸譽和尙が、臺命で山を鑿り嶮を穿つて伽藍を造營し、秀忠、家光の代に於いて堂々たる伽藍を完備するようになつたのである。

建築

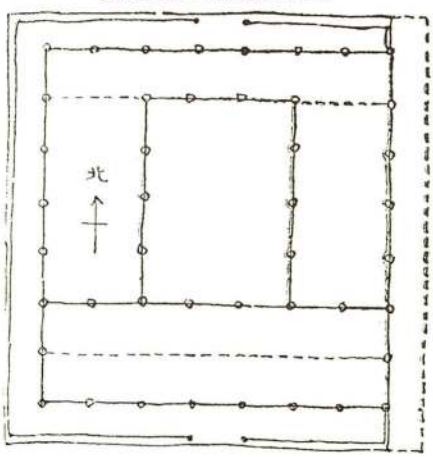
知恩院に在る伽藍配置は、淨土宗伽藍としての形式を可成りよく備へたものである、山に倚りて造られた故に正い配置は無論採ることが出

來得ない、例へば三門、は地勢上西向と成り、總門は從つて西方にあるが、本堂は南向きである、併し、今其配置の大体を記してみると、先づ西方に總門があり、是と一直線に三門がある南方には南門があり、北方には西向に裏門（黒門）があり、是と一直線に北の總門がある、三門を通つて石段の數十階を辿り上ると、南向きに本堂があり、其西方に阿彌陀堂があり、東方には經藏がある、本堂の東南方の高い地には鐘樓がある、本堂の北方には集會堂、其東北に大方丈、其東北に小方丈、集會堂の北方には大庫裡（昔時臺所として用ゐたのであるが、近年改築して雪香殿と稱してゐる、即ち、書院造りとしたのであつて、當初臺所門として使用した唐門造の車寄せは少し南方に移して、斯の大玄關としたのである）小庫裡等が建てられ、廣大な寺域中には十有餘の塔中を有してゐる、昔、德川初期の建築物であつて、主なるものは特別保護建造物とされてゐる。

勢至堂

本堂の東方數十階の石段上に在る本尊勢至菩薩を安置してゐる、單層入母屋本瓦葺七間四方の廻椽を有した堂である、建築年代は承元年中であつて、承元元年は西紀千二百〇七年であつて、我源實朝の時代である、明治三十二年四月特別保護建造物に指定されて、近年大修繕が行はれ、六葉釘隱しや勾欄擬寶珠等は美しいものとなつてゐるが、堂全体は感服出來ない。

智恩院勢至堂平面見取圖



妻飾り等は單純なもので、唯扠首竿を見せ、和樣肘木で貫を支へてゐる處の伍が見へてゐる

村は面を取つた角柱であつて、舟肘木に倚つて二軒疎垂木を支承してゐる、内部は二間の大肛梁所謂繋肛梁を用ひ、其上に和様の美しい一手先組物を載せて天井を支承してゐる、組物には兎斗の完全なものが應用されてゐる、一体兎斗は天平期から初めて用ひられたのであつて、唐招提寺金堂には既に用ひられてゐるが、完全に用ひられたのは藤原期頃に始つてゐると思ふ、斯の時代のものは、其形にも特徴を有つてゐる内陣の方は和様二手先組物を用ひ、唐桟繰形の處々に用ひられてゐるのを見る。

組物間は手束が配せられてゐる、平面は見取面にある様のもので、正方形であるが、其間仕切りは稍複雑したものであつて、鎌倉期の住宅建築の片影を幾分存してゐるのではなからうか天井も從つて種々であつて、内陣中央は鏡天井であるが、其横の間は掉縁天井であり、前及び後は板張りの天井であるが、一部に化粧屋根裏を見せてゐる、斯の部分は、曾て外に出てゐたので、現今肚梁上にある組物は、當初柱で支へられてゐたのではなからうかと岩井氏は論じてゐる、勿論明確な根據はないが、其他の部分に於ても改修を加へられたことは比較的大いようである、廂椽は五尺許の巾を有し、擬寶珠勾欄を有してゐるが、東側は缺如してゐる、西方は二丈餘の懸崖と成り、廂椽は此處に架けられてゐるが、東方も亦高い岩壁に接してゐる、東側の廂椽があれば通行に困難である、こういふ處から中世其廂椽を取つたのかも知れない、山を鑿り拓いて狭苦しく立てた斯の堂は屋蓋が莫迦に大く極めて不格好であつて、吾人は美いといふような感じを去つて、寧ろ一種の不快を感ずるのである。

本堂

御影堂又は大殿と稱してゐる、寛永十六年徳川家光の造立したもので、梁行十九間桁行二十四間半、單層入母屋の大伽藍であつて、明治四十三年大修繕の工を竣へ、同年八月特建の指定を受けてゐる、梁行十三間桁行二間の向拝を有してゐる、組物は三手先であつて、繁割二軒を

支承し、支輪小天井を有つてゐる、廻縁は幅二間であつて擬寶珠勾欄を設けてゐる、四方には唐棧戸を、隅々には櫺子窓を一間づゝ有つてゐる、内部に入ると、内陣は折上組入格天井であつて、唐様三手先の詰組である、肘木の鼻は象鼻になつてゐる、正面に大なる須彌壇を設け、圓光大師の座像を安置してゐる。

妻飾りは三つ花懸魚の他に脇懸魚があり、肛梁間には複雑な彫刻で充してゐる。

眼の覺める様な椽を背景として堂々天に聳を冲した斯の本堂の姿態は、徳川初期の作とし、而して、寧ろ傑作として許すことが出來よう織豊の稍落ち付きのない覇氣ある時代から去つて、靜寂な徳川泰平の時代となつた初期の意義あるやがての頽廢は既に此處に胚胎してゐたのであるが、此中にも尚侵し難い美の權威の可成りを留めてゐるのは斯の堂の誇りであるといへよう、殊に側面から眺め入つたときの安定な沈靜な心持ちはやがて雲水千百の研鑽の處ではないか、若も斯の堂の向拜を去り母屋を今少し小にするならば尚如何程の美觀を增すであらうか費用と勞力とを度外視して作り上げた日光廟が徳川初葉の墮落の原因となつたのであらうが、我智恩院建築には斯る際はざい位置に在りて尚可成の藝術的價値を存じてゐる。

細部に就て稽へてみると、天平から藤原を通じ著く雄大で且つ餘裕のあつた斗拱の木割が非常に貧弱と成り、斯うなつた結果は組物全体に非常に力のない感じを得爲に重大な軒を支へるべき組物に不安の感を强うしてゐる、吾人は如何に割引して眺めても、智恩院本堂軒廻に醍醐五重塔や唐招提寺金堂の夫れのような痛快なる强味を感ずることは到底出來得ないのである。

支輪の曲線の如きは、徳川期の特徴を遺憾なく具備しゐて、慶長年代の東寺金堂の支輪と甚だ似たものであるが、播摩の鶴林寺のものとは其處に異つた處を見出すのである、尾棰は唐様の鳥舌を有つてゐて、其木には五角形を成してゐる、そして、唐様尾棰の常として著く內側に切られてゐる、向拜に用ひられた本蟇股は股間

に自在畫的模樣の彫刻を狹んでゐるが、全くつまらない裝飾を爲してゐる。

勾欄親柱の擬寶珠は天正年間に作られた三條大橋の夫れと酷似した形を有し、慶流橋や智恩院阿彌陀堂の夫れのような明治時代の工匠の作つたものよりは遙に落ち付いたよい恰好を有つてゐる。

□退路と出路□

▲得意の時に當りては、須らく一條の退路を尋ぬ可し、然る後安樂に死せず。

▲失意の時に當りては須らく一條の出路を尋ぬべし、然る後憂患に生くる可し。

——徐大椿——



臺灣營林局の事業に就いて（終）

會員　谷民藏

□濁水溪の事業概說

宜蘭廳下濁水溪兩岸森林の世に傳へらるゝこと既に久し慨むらくは蕃族跳梁して人の境域に入るを阻み只僅かに險勇線上より遠望して其の片影を髣髴するに過ぎざりしが大正三年本島討蕃の大業成り「ガオガン」溪頭南澳の諸蕃族亦歸順して茲に初めて其の眞相を窺知し得るに至りたるを以て當局は大正三年十月先づ之が調査を行ひて林値の梗概を知りたる後事業の實行を企圖したり作業區域は濁水溪の兩岸に沿へる一帶の森林にして中央山脈北方の覇主南湖大山より西して大覇尖山に至る分水嶺を以て南方大甲溪頭と境域を接し南湖大山三星山を經て鳳紗山に至る連嶺と大覇尖山に起り棲蘭山拳頭母山江柴山に連る山脈との間に狹まれたる一帶の區域竝に此區域に隣接する「ガオガン」溪上流及大南澳溪上流の一部を含む全形西南より東北に長く凡そ十二里幅員平均五里にして廣袤大約六萬町歩に亘れり本森林の事業は大正四年十一月初めて之に著手し爾來營々として事業の進捗を圖り伐木に運材に貯木場の建設に各部の作業漸く進み本年十二月に於て逸早く數萬尺〆の木材は宜蘭街附近員山貯木場の構内に堆積せらるべき豫想なりとす。

□濁水溪の森林

當地方は氣候一般に多雨多濕にして其北端濁水溪畔に於ては標高僅に五百尺なるを以て本島北

部に於ける平原地方と大差なく平均溫度凡そ二十三度内外なるも漸く遡りて二千五百尺の附近に至れば毎年約一回薄氷を結び更に濁水溪兩岸の山顚に至れば概ね四千尺乃至六七千尺に達するが故に積雪樹枝を折ることありと云ふ而して五月より九月に至る間颱風の襲來して溪流の汎濫を見ること亦一般の例に洩れず十月より二月に至る期間は暴風雨著しきものなしと雖霖雨陰鬱甚しきものあり山脚天送碑に於て降雨日數二百日雨量三千粍に達し「ボンボン」山五千四百尺に至りては四千乃至五千粍を算す。

林況の一班を窺ふに山脈低地に於ける熱帶林の最上部より海拔一萬二千四百尺南湖大山の寒帶林に終る迄滿山殆んど斧鉞の跡を見ず概括して之を厚生林と稱することを得べし其無立木地に屬すべきものは僅かに溪畔の沖積層地内及之に接する山脚の一小部分若くは露岩崩落の跡あるに過ぎず思ふに此の區域は今日に至る迄其の大部は附近凶蕃の根據地にして古來支那民族の侵入するを許さず稀疎なる蕃族の獨占する所なりしが故に假令農耕の法粗放なりと雖其の口腹を充すに大面積の耕地を要せざりしのみならず其の林木を利用する程度は單に雨露を凌ぎ暖を採るの外多きを求むること無かりしより彼等の生活上重要なる狩獵地として略々完全なる大面積の厚生林を保存し來りたるものなるべし斯くて里庄に接せる低丘地より起り蓊鬱として源頭一望翠色斷つ處なきの偉觀は蓋し本島中稀に見るの大森林なりとす。

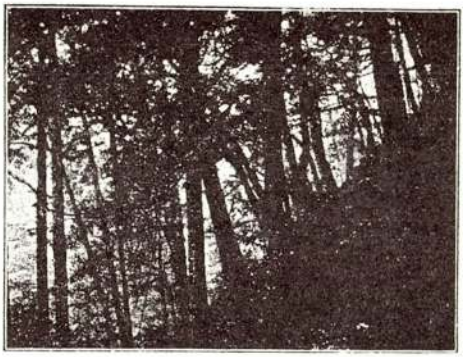
次に林木分布の狀況を概察するに左岸の森林は之を右岸に比すれば分布地帶稍々低きが如きも大体に於て山脚地方は熱帶の最上部若くは暖帶の最下部より起り「ヒメワバキ」「タブ」類「アラカシ」「オホバガシ」「クス」「ヤマガキ」等を主とし「トウ」「ヘゴ」を混生す二千五百尺より四千尺附近に至る間「タブ」「シヒ」の外更に「イチヰガシ」「ホソバガシ」「シマサルスベリ」「モクコク」「オガタマ」等を主とし就中「イチヰガシ」は此の地帶に於ける利用計劃の中心たるが如き觀を呈し多くは散生混淆をなせども時としては群生し



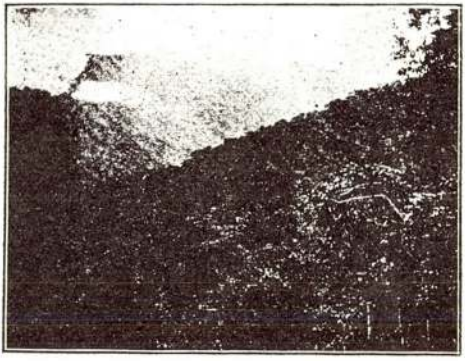
濁水溪森林にして扁柏林の一部



濁水溪附近の蕃人



濁水溪森林にして扁柏、栂混淆林の一部



濁水溪森林にして濶葉樹林の一部

て殆んど純林をなすものあり立直亭々として群木を抜けり四千尺以上に及びては漸次「ベニヒ」を混じ四千五百尺を超ふれば殆んど「ヒノキ」、「ベニヒ」の純林を形成し只僅に「ホソバガシ」、「ツクバネガシ」「モリガシ」等を點生するに過ぎず之より凡そ六千尺乃至六千五百尺迄の間は「ヒノキ」「ベンヒ」の最も優良なる林相を現出する部分にして利用上最も價値ある地帶なりとす斯くて六千五百尺以上に至り點々「タイワンツガ」の混生するを見るべく七千五百尺附近に於ては遂に「ツガ」を主木となし之に交ふるに「ニイタカタウヒ」及「ヒノキ」を以てするに至る今左に面積及蓄積の調査表を掲げ林況の概察に資せん。

區別	面積	針葉樹	濶葉樹	計
施業林	三九、三五〇町	二、〇〇〇、〇〇〇尺ノ	一八、九七〇、〇〇〇	二九、九七〇、〇〇〇
豫備林	二、四九〇	六、七二〇、〇〇〇	四、八〇〇、〇〇〇	二、四二〇、〇〇〇
計	六〇、七二〇	一七、七二〇、〇〇〇	三三、六九〇、〇〇〇	四一、四五〇、〇〇〇

即ち此の區域の總積は無慮四千百四十五萬尺〆にして就中針葉樹の蓄積も亦將に一千八百萬尺〆に垂んとす。

□濁水溪の林木

本森林地の林木性情等に就ては既に阿里山の項に於て述べたる處と大差なきを以て茲には其の特殊なる事項に就きて二三の記述をなすに止むべし。

「扁柏及紅松」阿里山に於げるものに比すれば樹高稍々低きも平均直徑は少しく之に優る外全く同樣なり只下部に生育して濶葉中に混淆するものは直徑凡そ四尺乃至五尺を普通とし純林に於けるものより大なれども又阿里山に於けるが如く抜群の巨木は稀なるが如し殊に扁柏は其材色一層鮮麗にして內地産のものに比し何等の甄別を認むること能はず。

(繼大杉)四千尺より七千五百尺の間に於て「ベニヒ」「ヒノキ」の混淆生育する區間に亘り點在す樹幹直長にして其の梢頭常に「ヒノキ」を抜くこと四五間に達し枝下長く枯枝を附著せす幹形圓滿にして樹冠能く整ひ眞に模範的に完全なる生長を遂げたり材は心材淡褐色を呈し香芬強く略ぼ福洲產廣葉杉に類す木理通直にして劈裂し

易く材質輕軟にして工作を施し易し。

「イチイガシ」二千五百尺より四千尺の間に於て散生混淆し又は群生して殆んど純林をなす所あり直徑普通二尺内外にして巨大なるものは五六尺に至り樹高十五間枝下八九間に達するものあり樹幹通直にして瑕疵少く樹冠群を拔くこと凡そ三四間にして四周の林木を壓倒し雄然直立するを常とす材質頗る壁重緻密にして心材は暗紅色邊材は淡黄紅色を呈し割裂し易し櫟類中の優良種に屬するを以て杷柄材、船具材、車輛材等として需用廣汎なり。

□作業計劃

施業林に屬する本森林の面積は凡そ二萬九千町歩にして其の蓄積殆んど三千萬尺〆に垂んとす此の地南湖大山の一帶及濁水溪上流の左岸並に大南澗溪上流地方は追て經濟上の進展に伴ひ其の開發を後年に期する爲め之を豫備林に編入せり今施業林に對する平年收獲を豫定すること左表の如し。

樹種	總蓄積	利用蓄積	更新期	年代材積
針葉樹	二、000、000、000	10、000、000	六〇年	二六、000歩止六分
濶葉樹	一八、九九〇、000	10、010、000	三〇年	五〇、000歩止四分
計	一九、九九〇、000	20、000、000		二六、0.0

即ち針葉樹丸太は一箇年約十萬尺〆を得る見込なり。

針葉樹の純林は概ね皆伐を主とし針濶混淆林及濶葉樹林は擇伐作業を採らんと欲す然れども針葉樹林中地況上皆伐法を許さゞる部分は擇伐法を取ることあるべく又濶葉樹林と雖山脚窖腹の區域は皆伐して樟類相思樹赤松等を以て更新するを利とせん要は前記の方針の下に選擇取捨して後繼森林の成立を期せんと欲するものなり而して針葉樹林の皆伐跡地は毎年凡そ七十町歩の標準を以て現に之を鄕土とせる扁柏及櫧大杉を植栽する見込なり。

□伐木造材及運材

既述の如く本森林の事業は大正四年十一月初めて著手する處にして爾來匆卒準備作業を終へ十二月初旬既に斧入れを行へり其の大正五年三月迄に伐木造材をなしたる材積は凡そ二萬一千尺

〆なりとす。

伐木造材及運材の方法は大体に於て八仙山と異なることなく杣夫及運材夫は之を木曾、紀和地方及九州方面より募集し來りて轉材及流材の方法等各地の長を採り折衷大成して專ら本作業地に適實ならしめんことを期す只八仙山に異なる處は彼れは木馬運材を行ふに對し之は軌道運材を採るの一事なりとす。

轉材により山腹凹地より更に溪谷に滑下せられたる木材は山腹を縫ふて開鑿せられたる軌道により濁水溪畔の上部に運ばれ其終點より更に溪畔に轉下されたる後約八里の間を管流して宜蘭街附近に於ける員山貯木場に搬出する豫定なり而して當地の流材季節も亦八仙山と同じく暴風雨の期節を避けて冬季十一月より翌年四月に至る交を擇ぶを要す。

軌道の延長は現在箇所に於て約五哩に達し尙ほ漸次作業箇所の推移に伴ふて延長照應する見込なり軌條は十二封度にして「ゲージ」三十吋を採り其の平均勾配は約三十分の一の見込なるを以て手押軌道としては蓋し理想的に近く運搬は比較的大なりとす。

□員山貯木池

員山貯木場は宜蘭廳下外員山庄にありて宜蘭街を西に距ること一里弱濁水溪の下流たる宜蘭川畔に沿ひ東港より宜蘭川を遡ること四里弱にあり大正五年二月の設定に係り構內面積凡そ十二町歩を包擁す當局出張所の廳舍及官舍も亦其構內に建設せらる。

濁水溪を流下したる木材は此の地點に於て每年假設せらるべき留場に入りたる後漸次陸揚堆積を行はるゝものにして其の貯材收容力は大約十萬尺〆の見込なり而して濁水溪森林第一次の出材は近く本年十二月に於て約五萬尺〆を本貯木場の構內に山積せられんとす。

本貯木場の設備は事業の經濟上更に漸を追て擴張補充すべきもの少からず而して宜蘭地方は思ふに本森林に對する木材消費地にあらず且つ宜蘭の平野は本島の東北部にありて沿海地帶の外三面山を以て圍まれ別に一廓をなすを以て出材

の大部は船舶により内地に對岸に或は進んで歐米の需用地に向け輸出せられざるを得ず勿論木材の經濟的弱點は其の形体の巨大にして他の物貨に比し運搬力の弱きにあるを以て將來に於ては當地に適應の製材工場を設け成可加工品として材界に一部の地歩を獲得せんことを期するものにして既に其の動力用汽機汽罐及鋸機の大部は嘗て農商務省に於て官營製材所廢止の際不用に歸せるものゝ內より保管轉換を受け準備貯藏しつゝあり。

本貯木場より宜蘭街を經て蘇澳港に至る陸路約二十哩にして宜蘭、蘇澳間は現に宜蘭軌道會社の經營せる輕便軌道あるも運搬力極めて貧弱にして當局木林の輸送に適せざるが故に將來軌道の大さを加へ或は之に簡易なる機關車を運行して以て木材の輸送に便ならしむる計劃なり蓋し蘇澳港は本島東部に於ける唯一の良港にして宜蘭平野の南端に位し沿岸定期船の出入あり港外南北兩方に突出せる小半島を控へ唯だ南東の風を除けば安全に碇泊することを得べし且つ南北半島の內面亦各一小灣を構成し其の北方にあるものを北方澳と云ひ又南方にあるものを南方澳と稱す何れも一小澳村にして各々蘇澳を距ること一里三者の位置恰も正三角形の角點を占むるを以て風位に依り若し直接蘇澳に上陸し能はざるときは北方澳に碇泊し或は稀に南方澳に寄るときは北方澳に碇泊し或は稀に南方澳に寄ると云ふ港內水深十尋乃至十三尋にして又本港の築港問題は官民の何れの側よりか近く事實として現出せらるべき形勢にありと云ふ。

其他貯木場外を流るゝ宜蘭川は東港口に下る延長四里弱舟楫の便あり東港は又地方戎克船の碇泊港にして其出入の頻繁なること寧ろ蘇澳港を凌ぐを以て此の便に藉りて沿岸又は對岸地方の輸出は却て低廉に迅速に行はるべきものとす。

□花蓮港森林

臺灣總督府にては一昨年以來花蓮港位置は蕃地にして八仙山の東南海岸に近く宜蘭森林（濁水溪と阿里山以東の中間に存在して之れが調査の一行は數十日間を費し深く蕃地に入り危を犯して漸く一大森林を發見して歸來せしと云ふ

が該森林は總て針葉樹林にて紅檜、栂、油杉等多く而かも千古斧鉞の入らざる所謂原生林にして阿里山の巨大木に劣らざるもの各所に繁茂し林層は更に鬱蒼し宏大人目の及ばざるものあり其面積は未だ詳かならずと雖も將來は一二の難所を開拓し交通の便を策せば大に至良なる大材を伐採するに至るべしと云ふ又斯界の爲め一大福音と稱すべきなり。（丁）

═ 人世必讀書 ═

所謂才なる者、固より聰明にあり、亦精力に在り、人充分の聰明を具ふると雖も、苟も精力及ばざるは、宜しく五分の事業を作すべし、庶くは恢々餘地あり其功成り易し、若し精力を顧みず、強て七分の事業を爲せば、必ず氣竭き神勞して事成難し、程子曰く、見る所期する所遠大ならざるべからず、然れども之を行ふ事、亦須らく力を量りて漸あるべし。



時報

▲道路會議官制　豫て發布の噂ありし道路會議官制は六月十一日付を以て左の通り發布し即日施行されたり

道路會議官制

第一條　道路會議ハ內務大臣ノ監督ニ屬シ其諮問ニ應シ道路ニ關シ重要ナル事項ヲ調査審議ス

道路會議ハ前項ノ事項ニ付內務大臣ニ建議スルコトヲ得

第二條　道路會議ハ議長一人及議員三十五人以下ヲ以テ之ヲ組織ス

前項定員ノ外必要ノ場合ニ於テハ臨時議員ヲ置クコトヲ得

條三條　議長ハ內務大臣ヲ以テ之ニ充ツ議員及臨時議員ハ關係各廳高等官及學識經驗アル者ノ中ヨリ內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ任命ス

第四條　議長ハ議事ヲ整理シ會務ヲ總理ス議長事故アルトキハ內務大臣ノ指名シタル議員其職務ヲ代理ス

第五條　道路會議ニ幹事ヲ置ク內務省高等官ノ中ヨリ內務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命ス幹事ハ議長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條　道路會議ニ書記ヲ置ク內務省判任官ノ中ヨリ內務大臣之ヲ命ス書記ハ上司ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條　明治四十四年勅令第六十一號ハ道路會議々員臨時議員ノ旅費支給ニ關シ之ヲ準用ス

▲新計畫の工業都市　滿鐵鞍山製鐵所は現に鞍山驛より一哩半立山驛より約二哩の處に高燥なる百五十萬坪の地を相して一基の熔鑛爐を中心に熱風爐、骸炭工場發電所等を設け、總延長三十五哩の運礦線と引込線とは、工場より鞍山驛に或は周圍八礦區の鐵山に結び付けられ、凡ての諸設備規模頗る大なるものなるが、這回更に壹百萬噸產出の計畫を立てられ、先づ面積四百萬坪の內二百五拾萬坪と他より壹百萬坪を買收し之を市街地に充てゝ、將來拾五萬の人口を包容するの計畫を爲し、市街は東西二區に分ちて、東を日本人町、西を支那人町とし、製鐵所從事員社宅を核子として之に伴ふ商業地區を建設するものなるが、市街樣式は六十間に百廿間の長方形を一ブロックとし各ブロックに必要なる道路網を縱橫に張り

道路は二十間幅、十五間幅、十二間幅八間幅、六間幅を幹線として、之に二間乃至三間の小路を結び付け、將來十二間幅以上の幹線には電車軌道を敷設する筈なりと、而して、新興の米國ゲーリー製鐵所のプランに倣ふて、住宅地附近にベースボールのコートを適所に設け、其他滿洲の曠野には稀らしき丘陵及び溪谷の散點せるを利用して公園又は遊園地を設くる等、鐵の一大工業都市は遠からず滿洲の野に出現さるべしと。

▲大阪驛擴張紛擾　豫て計畫されし大阪驛擴張の設計一たび發表せらるゝや其擴張の爲收用されむとする北區上福島北一二丁目の住民は斯の收用計畫を以て繁盛なる上福島商業地區の滅亡なりと做し、全町民の團體たる北盛會は、爾來猛烈なる反對運動を起し鐵道院、大阪府、及び大阪市に對して陳情を爲す等今尙增々其氣勢を揚げつゝあり、而して、全町民の所說は、大阪百年の計畫より梅田驛を北方新淀川沿岸に近く設置するを以て妥當とすべく、現在の地區を其主要分として擴張の已むなきならば、東西南北等に地區を收用されたしといふに在り、果して何邊に落付くべきや識るべからざるも現在大阪市膨脹の趨勢を以てせば、區々たる一小局部の犧牲を强要するか如き設計を避けて、新淀川沿岸に其方針を進むるの長計を要すとの說あり

▲東宮御所の御造營　東宮殿下の高輪御所は御手狹にて從來公式の御祝宴等は霞ケ關離宮に於て行はせられしが、今後總ての點に於て增々御不便を感ぜさせらるより當局にては過般來種々調査中にて、或は靑山御所を充てられ其一部を西洋館に改築するか又は別に西洋館を增築せらるゝか種々內議中の由なるが結局全所を御改築の上御移轉あらせらるゝことゝならむかと。

▲住宅購買組合　今回東京府の指導援助の下に標題の如き組合を設立され、既に豫定の敷地も得られ、壹百萬圓位の資金で一軒千圓計の住宅を約一千建築して會員に購買せしむる計畫なるが、斯の組合に加入するには一口五拾圓の出資で之を三年間に月賦で納め、之には一割の利息を附するものにして、斯の手續に依り會員に初めて家屋の購買權を得せしむるなり、其支拂方法は、例へば一千圓の家ならば最初三割即ち三百圓を積立として納めしめ、外に家賃九圓三拾八錢と地代稅金保險料五圓八拾錢合計拾五圓拾九錢を每月拾箇年間支拂はゞ家屋は全く自己の所有と成る仕組なり、但し每月拾五圓拾九錢を支拂ふも、最初三百圓の積立金に對して六歩の利子を附しあるが故に、結局拾參圓六拾八錢の家賃となる勘定なりで而も若し中途にて組合を脫退する場合は家屋を組合に返還し出資金及積立金は全部拂戾すと共に家賃も亦相當の方法にて割戾すべしと。

▲全國衞生博覽會　京都市聯合衞生組合の主催にて、七月十三日より八月三十一日に至る五十日間京都市岡崎公園第二號勸業館に於て全國衞生博覽會を開催すべく弘く全國に涉りて保健、防疫、治療、其他之等に關する直接又は間接の參考品を蒐集すべしとのことなるが、建築方面より出陳の衞生資料も少からざるべしと期待さる、蓋し都市保健問題の好參考資料たるべし。

▲工場寄宿舍の空氣　農商務省は六月上旬長野縣下にて工場寄宿舍の空氣試驗を行へるが、其結果の一として、炭酸瓦斯

含有量は危險率に入れるものありとのことなり、仝省鯉沼主任技師の談に據れば全國の製紙染織工場寄宿舍の工女一人宛疊數は最少二疊に三人、中には二疊拾人といふが如き悲慘な例もあり、結局一疊一人以下なるものが大半を占め居たり、今回の分析の結果に據れば、就寢三時間目に含有炭酸瓦斯量は二%以上にして、同樣なる試驗を自宅にて行ひし結果に據れば、六疊に四人寢て一%以下なりき、一%を超ゆれば空氣が著く汚濁し、久しきに渉らば竟に呼吸器を害し、六%に達するときは窒息死に到るべしと。

▲災害防止展覽會　文部省の主催にて六月初より東京本鄕御茶の水教育博物館に災害防止展覽會を開始せるが、災害に關する諸般の統計其他の資料災害防備に就ての各種機械、器具、施設等其蒐集する處數百點にして、之を天災、火災、交通機關に伴ふ災害、工場及鑛山に於ける災害、學校家庭軍隊等に關する災害に分ちて陳列し、以て災害防止の必要と其方法を示し在り、而して、其附屬事業として災害防止講演會及仝活動寫眞等を催し、地震、火災、洪水、電氣等に因る傷害其他各種の災害原因及び之が防止法に就て通俗約に其觀念を與ふることに努力を拂へり、其事業の珍らしきと、材料蒐集整頓の行き屆けることにより非常なる興味を惹けり、蓋し、近來頗る有益なる催しと謂ふ可し。

▲安全週間　豫て計畫ありしが如く、東京市に於て去る六月十五日より二十一日まで安全章を佩用し、少年團在鄕軍人會、青年會等の諸團體は、警察官並に憲兵隊後助の下に、車道、停留場、雜沓場所等危險地境に停立して、通行人に災害防止の觀念を深く印象せしむることに努め、其他女學校の學生抔も安全章の賣付け等に奔走し、軍人會抔も或は安全週間の大ビラを各所に貼付し、講演會を催す抔斯くて一齊大活動裡に最も好良なる成績を以て安全週間を了るべき筈なる由、而して更に我大阪市に於ても斯の種の催しを爲さむとの儀あるもの、如かりしが之を東京に於ける成績に見て一層充實せる方法の下に施行し市民に危害防止觀念を充分吹き込むよう致したきもの也。

♣　♣

▲井上名譽賛助員の逝去　日本建築協會名譽賛助員なる東京府知事從三位勳二等法學博士井上友一氏は十二日午前零時二十分逝去せられたり、同氏は曩に行政裁判所判事として令名あり、東京府尹として亦其治績の頗る擧がれるもの鮮からず又法學者としては我邦自治行政學者としての權威たると同時に、其謹嚴にして人格の人たることは等しく推重する處なりき、本會賛助員としても同氏に期待する處鮮からざりしが今や亡し、而して、政府は氏生前の勳功に依り位一級を進めて從二位に叙し、東京府は葬儀を府葬と爲すに決し、吊慰金五萬圓を贈れり、



會報

會誌

▲前號にも重要な原稿が多ふムいましたのは非常に欣幸とする處でありますが、印刷所の都合抔で發行日が二三日遲れましたとは特に御諒恕を乞ふ次第でムいます本號も續々寄稿がありまして誌上に一層の光彩を添へ得たるは感謝する處でムいます。

▲今回本誌に添へて、會員各位に當協會會員名簿を贈呈致します、是は多少其後の移動もあり又二三誤謬もありますから訂正の上發行の筈でムいましたが、時期等の關係もありまして取敢へず贈呈致した次第で、更に時機を見て完全なものを發行致す考でムいます。

交換雜誌

建築雜誌　第三三輯第三八八號（建築學會）
建築世界　第十三卷　第六號（建築世界社）
住宅　第四卷　第六號（住宅改良會）
鐵道協會雜誌　第二十卷　第六號（鐵道協會）
工業之友　第一四六號（工手學校）
工業之大日本　第十六卷　第六號（工業之大日本社）
鐵と鋼　第五輯　第六號（日本鋼鐵協會）
建築新報　社第一卷　第二號（建築新報社）
建築評論　第一卷　第二號（建築評論社）
土木建築時報　第十二卷　第五號

寄贈雜誌

工業評論　木材新聞
オートモビル　ペイント商報
早瀬塗料商報　大橋月報
造船鐵工時報　工商時論
通俗衛生

會合

第七部委員會（第六回）

日時　大正八年五月十九日午後六時半
九時半
場所　本協會事務所
出席者
瀨戸、須川、佐藤、（彰）、小笠原、森、設樂、田中（豐）、青田、小寺、

記事

前回に引續き、窓の大さ、窓障子、欄間障子、に就て決定し、小寺委員に以上決定せる寸法に據りて詳細圖の調製方を依囑し、次回の研究事項を決定、尙理事長より第七部委員會

の調査方針及び今日まで決定せる事項に付報告され度依頼ありたる旨の報告を爲し、田中君より提出の東京市中出來合品木材寸法を木材商同業組合長へ照會することに決定せり、

第七部委員會（第七回）

日　時　大正八年六月二日午後六時半―十時

場　所　本協會事務所

出席者

内藤、吉木、新海、村井、森、小寺、池谷、大原、舟橋、田中、（豐）、波江谷、瀬戸、

記　事

前回依頼せる窓建具圖面を小寺君より提出せられ、小寺君の意見に依り更に討議の結果窓の大さを訂正決議す、次で、入口建具、建具唐戸腰唐戸、欄間障子、引戸等に就て決定し更に次回は構造木材に就て研究することゝなれり。

理事會

日　時　大正八年六月三日午後五時半―九時半

場　所　大阪倶樂部

出席者

片岡、野村、宗、舟橋、松本、

記　事

五月の例會に於て動議成立せる春期大會懇親會開催の件を議題として協議せる結果、來る六月十四日午後四時半より箕面公園一方亭（元千秋館）に於て開催の事、及び、新帰朝者日高理事の海外視察談を聽くに協議纏れり。

其後日高君に交渉の結果十二日に開催のことに變更せり。

春期大會（懇親會）

前記の決議に基き、春期大會を催すべく爾來夫れ夫れ準備中なりしが、愈々左の通り擧行せり。

日　時　大正八年六月十二日午後五時半――十一時

場　所　箕面公園一方亭

出席者　池田、池谷、原料、新海、本多、土居原、岡本、小川、岡部、大原、小笠原、大林、河合、河盛、片岡、吉井、呼子、吉田（健）、吉田（直）、田中（豐）、田中（勘）、谷、宗、波江、長田、内藤、浦、能村、久保田、矢島、藪中、松田、舟橋、古川、小林、小寺、青田、安部、有川、阪井、佐藤（四）、德藤（彰）、佐々本、木子、木村、設樂、清水、日高、森、瀬戸（強）、須川、山崎（書）、江村、（編補）

以上四拾參名

記　事　午後四時半より開會の筈なりしも漸く五時半に到り開會、先づ片岡理事長開會の挨拶を爲して日高君の講演を紹介し、次で日高君登壇、別項の如き「渡米所感」なる趣旨の下に最も有益なる講演あり、六時廿分講演を了り　直ちに配膳を爲し、宗理事立つて一場の挨拶を爲すと共に開宴に移り、各自歡語談笑興湧くが如く竟に時の移るを知らざるもの、如く、實に近來の盛會にてありき。

贈吊電

一、別項時報中所載の通り本會名譽贊助員、東京府知事從三位勳二等法學博士井上友一氏薨去の報に接し哀悼の意を表し不取敢吊電を贈りたり

編輯たより

▲編輯を締切つた後、細民住居の提供を大規模に經營する爲、大阪市は二千萬圓許の金を低利資金として融通するとかの報告に接した、好箇な記事材料ではあるが、本號に收錄し得ないのは編輯子卿が魚を釣り落した感がある、併し次號に其消息なり意見なりを掲ぐる積りであります▲本誌所載H高氏の「渡米所感」渡邊博士の「軍備と文化」は、編輯締切の都合上御校閲を經ることが出來ませなかつた、篤く御謝り申上げます▲波江悌夫氏の「建築樣式の意義を論ず」なる續稿は本號に載する筈でしたが、事故の爲に本號の間に合ひませなんた、何れ次號より續載することにならうと存じます▲横濱市區改正局長より「横濱市罹災地家屋構造及給水狀態調査報告書」なるものを寄贈されましたが、是は今回の横濱市大火に就ての報告書であります。寔に好箇の資料でありますが編輯締切後のことでありましたから次號に載せましよう▲梅雨期も什うやらやまが見へましたが、斯の濕めたい押へ付けられるやうな時でも、我編輯同人は日本晴の希望と勇氣を以て我誌の爲に奮闘して居ります、折角斯の意氣を諒として會員各位も、所謂「笛吹けども彼れ躍らず」でなく、大に共鳴して頂き度い。

役員及職員

理事長　片岡安
理事　宗兵藏（主記）
　　野村一郎（編輯）
　　松本禹象（編輯）
　　日高胖（編輯）
　　舟橋喜一（主計）
編輯補　設樂貞雄
　　波江悌夫
　　佐藤四郎
書記　江村郊郎
　　小谷信藏
　　山崎萬壽夫

會員	一七八	會員（地方）	三六
名譽贊助員	六五	終身贊助員	三九
特別贊助員	七	普通贊助員	二三三
合計	五五八		

本誌及廣告料定價表

本誌			
冊數	定價	郵稅	
一冊	金參拾錢	貳錢	
十二冊	參圓六拾錢	貳拾四錢	

廣告料		
種別	金額	
半頁	八圓	
一頁	拾五圓	
特別頁	貳拾圓	
裏表紙表	貳拾五圓	

大正八年六月二十日印刷
大正八年六月廿五日發行　（每月壹回廿五日發行）

大阪市北區相生町一三四
電話（東一八八三番）

發行兼編輯人　伊藤幸太郎
　大阪市東區內淡路町一丁目三十一番地
印刷人
印刷所　大阪活版所
　大阪市東區今橋一丁目十一番地
發行所　日本建築協會
　電話本局二二四一番
　振替口座大阪三九、九七五

現行伯林府建築條例（抜萃）（下）



伯林府建築條例

（抜書）普通建築條令ハ四十四章ヲ以テ終ル）

第一編　建築上ニ對スル警察ノ要求並ニ制限

第二十六章　家畜小舍

家畜小舍ノ床ハ浸水セサル構造スベシ

家畜排泄物溜ハ小舍内又ハ十米突以外ノ距離ノ場所ヘ浸水セサル容器ニテ之ヲ作リ小舍ト溜トノ間ハ管等ニテ通セシメ同樣液体ノ浸出セザル樣ナスベシ

家畜小舍ノ窓ハ道路ニ面シテ之ヲ設クベカラズ止ムヲ得ザル場合ニ限リ之ヲ許ス

家畜小舍ノ圍壁ニアル窓ハ居住室又ハ長時間滯在ノ室ノ窓ヨリ三米突以上ノ間隔ヲ置カザルベカラズ

居住又ハ長時間滯在室ノ下部ハ家畜小舍ヲ設クル時ハ床構造壁ノ被覆材料、天井（床ト天井ノ間ニ空隙ヲ設ケ喚氣孔ヲ設クベシ）排水ノ完備ナル等其狀況ニ依リ之ヲ許可ス

地盤ヨリ家畜小舍床五十珊知以上低キモノハ獨立ノ建物ニシテ他ノ家屋ノ境界ニ窓入口等ヲ設ケサル場合ニ限リ之ヲ許可ス

内庭ヘ土中室ヲ設ケ之ニ家畜小舍ヲ設クルヲ禁ズ

以上ノ規定ハ鳥類ノ小舍ニ適用セズ

伯林建築條令

建築警察ニ於ケル檢査上要求スル建築材料ノ計算限量

1 建築材料（壹米突立方）ノ重量

土及粘土	一六〇〇瓦基
煉瓦壁	一六〇〇同
輕燒煉瓦壁	一三〇〇同
輕燒含穴煉瓦壁	一一〇〇同
砂岩石造壁	二四〇〇同
花崗石及大理石	二七〇〇同
松	六五〇同
柏	八〇〇同
鐵	七五〇〇同
ベトン	二〇〇〇同

2 建築諸部ノ自重及加重

住屋ニ於ケル梁床毎平方米二五〇基瓦	
右同斷（加重ヲ包括ス）	五〇〇同
工場及物置場内ノ梁床	二五〇同
右同斷（加重ヲ包ム）	七五〇同
穀倉ノ梁床（加重ヲ包ム）穀類ノ重量ニヨリ	八五〇乃至一〇〇〇同
住屋内輕燒煉瓦丸天井	三五〇同
右同斷（加重ヲ包ム）	六〇〇同
製造場内ノ丸天井（加重ヲ包ム）	一〇〇〇同

通路及車馬通行シ得ベキ通路下ノ丸天井(加重ヲ包ム)　一二五〇基瓦
ナマコ天井(加重ヲ包ム)加重ノ大小ニヨリ　五〇〇乃至一〇〇〇同
迫持階段　五〇〇同
右同斷(加重ヲ包ム)　一〇〇〇同
水平射影圖法ニヨリ測リシ金屬又ハ硝子屋根(傾斜度ニ應ジ雪及風ノ壓力ヲ包ム)　一二五乃至一五〇同
右同斷、石盤屋根)　二〇〇——二四〇同
右同斷(瓦屋根)二五〇——三〇〇同
右同斷(ポルツセメント屋根)　三五〇同
急勾配ノ「マンザルト」式屋根　四〇〇同

3 建築材ノ安全強力

煉鐵	壹平方珊知ニ付	張力	七五〇基瓦
同	同	壓力	九五〇同
同	同	剪斷力	六〇〇同
鑄鐵	同	張力	二五〇同
同	同	壓力	五〇〇同
同	同	剪斷力	二〇〇同
フルースアイゼン(鋼鐵イランク)		張力	八七五同
同	同	壓力	八七五同
同	同	剪斷力	記載ナシ
波形鐵板同		張力	五〇〇同
同	同	壓力	五〇〇同
鐵線		張力	一二〇〇同
柏及山毛欅		張力	一〇〇同
同	同	壓力	八〇〇同
松	同	張力	一〇〇同
同	同	壓力	六〇同
花崗石	同	壓力	四五同
砂岩石ハ硬度ニヨリ	同	壓力一五乃至三〇同	
石灰モルタル積石灰石ノ壁	同	壓力	五同
普通煉瓦壁	同	壓力	七同
セメントモルタル積煉瓦壁	同	壓力	二一同
同上モルタル上積業燒過煉瓦壁	同	壓力二二乃至一四同	
輕燒煉瓦壁	同	壓力	三乃至六基半
上等建築地	同	壓力	二同

千八百八十二年十一月五日布告(伯林)
屋上ニ設置セル旗桿ノ折斷ニ依リテ起ルベキ危險ヲ豫防スル爲メ避雷針ヲ備ヘタル鐵鍛製ノ旗桿ニ限リ屋上ニ建設スルヲ得ベシ避雷針ハ金屬ヲ使用シ該線ハ少クトモ旗竿ト同一ノ傳導力ヲ有シ屋内ノ水導管ト良好ナル接續ヲナスベシ
千八百八十七年四月一日布告(伯林)
建物ノ外部ニ漆喰塗裝飾ニ付細則左ノ如シ

之等ノ裝飾部ハ木製蛇腹又ハ總テ木製支柱栓木擔下地等ニ取付クル事ヲ得ズ取付ケハ丈夫ナル鐵材構造ニナスベシ軒蛇腹、屋根先キ出窓等ノ持送リ劍石其他多ク突出セル各種ノ裝飾ヲ取付ケントスルニハ堅牢ナル鍛鐵釘又ハ帶鐵ヲ用ヒ軒蛇腹等突出大ナルモハ持送リ形ノ堅牢ナル鐵ヲ使用スベシ
前記裝飾物取付ケ壁厚ハ二十五珊知以上ナラサルベカラズ
出窓等ノ下部ニ當リ大ナル裝飾ヲ取付ケントスルニハ木壁ニ積込而テボールト締ニナシ其端ハ堅牢ナル廣キ座鐵ヲ用ヒ裝飾物ヲ確實ニ保持セシムルヲ要ス

破損若クハ弛ミタル裝飾物ヲ補修シ又ハ新築スル場合ニアリテハ前記規定ニ從フベシ

第三十二條　工事取締規定

1 新築家屋ノ內部ニ於テ各階ノ木梁ハ排列後直チニ床張スベシ鐵造床、階段口及ビ其他ノ孔口ハ安全ニ之ヲ被覆圍障ヲ施シ又ハ之ニ接近スルヲ得ザラシムベシ

2 建築場ハ災害豫防ニ必要ナル限度ニ於テ夜間點燈ヲ備フベシ

3 現存建物ノ附近ニ工事ヲ施ス場合ニアリテハ該建物ヲ保全スルニ必要ナル準備（短距離ニ補助基礎ヲ設クルカ又ハ隣接セル建物ノ壁ニ支柱ヲ施シ又ハ副壁ヲ設クル等）ヲナスベシ

第三十三條　假出來ノ檢査

1 或工事ニ於テ壁鐵構造物耐火階段屋根小屋並ニ床梁取付ケヲ了ハリタルトキハ建築主ハ書面ヲ以テ假工事出來方ヲ建築警察署ニ申立ツヘシ

2 右檢査ノ場合ニ於テ建築主ハ自身出頭若クハ適當ノ代理人ヲ撰定スベシ而メ建築各部ハ檢査上安全ニ接近シ得ル樣ナスベシ又內部ノ梁鐵物使用部ハ悉ク之ヲ開放シ鐵構造部ハ測尺ニ必要ナル程度ニ於テ之ヲ開放シ置クヲ要ス

3 規定ノ檢査ヲ經タルトキハ建築警察署ハ工事概成ノ證明ヲ下附ス

4 警察檢査ノ際欠點アリタル場合ニアリテハ建築主ハ更ラニ本條ノ檢査ヲ申立ツベシ

5 各工事及各部ヲ各別ニ檢査申立ハ例外ノ場合ニ限リ之ヲ聽許スルヿヲ得

6 第三十九條ノ規定ニ從テ假出來證下附前ニ於テハ建物及建物各部ヲ使用スルヲ得ズ

第三十四條　漆喰工事

假出來證下附ノ場合ニ於テハ內外漆喰工事開始ノ日時ヲ指定ス引續キ住居ノ用ニ供スベキ建物ノ全部又ハ一部ハ假出來工事結了後六週以前ニ漆喰スルヿヲ得ズ

第三十五條　至要ナラサル建設物ノ認可

1 至要ナラザル工事殊ニ第九條ニ揭ゲタル納屋露店等並ニ藁便比及掃溜境界壁垣便所附建築小舍ニアリテハ第二十二條乃至第三十四條ノ規定ヲ適用スルヿナシ

2 但前項工事ノ判別ニ必要ナル圖案ハ認可請求書ニ添付スベシ又之等建設物ニアリテハ書面上ノ認可ヲ要スルニ過ギズ

第三十六條　建物ノ取毀ヲ

1 建物ノ取毀ハシニ關シテハ第三十一條及第三十二條ノ規定ヲ準用ス

2 取毀ハシ工事ハ警察署ニ書面届出ヲナシタル後初メテ開始スルヲ得ルモノトス

第三章　建物使用ニ關スル特別規定

第三十七條　永續住居ノ場室

永續住居ニ供スベカラザル場室ハ就中次ノ如シ

玄關、階段、廻廊、物置、便室家庭用浴室並ニ温室及ロール室、食物貯藏場及之ニ類シタル貯藏場廚室、植物室、轉球場。瀉鑵室及機械室（但瀉鑵及機械室ガ單ニ煖房、通風、煖火、昇降ノ用ニ供スルモノトノルトキ）葡萄酒ビール及ブランデー貯藏場及ビ單ニ商品ヲ積置シ又ハ物品ヲ貯藏スルノ用ニ供スベキ場室

永續住居用ノ場室ニ關シテハ次ノ規定ヲ適用ス

1 一箇ノ建物內ニハ如何ナル場合ニアリテモ永續住居用ノ層樓五階以上ヲ設クルコトヲ得ズ又之等建物ノ最上樓ノ床ハ人道若クハ庭面ヨリ十八米突以上高キコトヲ得ズ

2 永續住居用ノ場室ハ凡テ乾燥シ居ルヲ要ス而シテ充分ナル大サト適當ナル位置ヲ有スル窓ヲ通ジテ日光及空氣ヲ戶外ヨリ直接ニ採取シ得ザルベカラズ然レドモ場室ノ位置及供用目的ガ直接上部ノ光線ヲ要スル場合ニアリテハ天窓ヲ設クルコトヲ得但此場合ニアリテハ通風ニ充分ナルベキ準備ヲ要スルモノトス

3 右ノ外場室ハ（天井又ハ床ノ高サ各々異ナル場合ニアリテ平均ニテ內法ノ高サ少クトモ二、八〇米ヲ有シ何レノ場所ニアリテモ人道若クハ庭面ヨリ〇、五〇米以上低キコトヲ得ズ

附屋外壁ニ沿ヒテ日光及通風溝ヲ全通セシメタル場合ニアリテハ右〇、五〇米ヲ一米トナスコトヲ得日光及通風溝ノ幅ハ一米以上ニシテ隣接セル場室ノ床ヨリ〇、一五米以上ノ深サヲ有シ底面ハ排水ニ便ナルモノナルヲ要ス

4 庭園ニ接シテ庭面ヨリ二、五〇米以上ノ高サヲ有セザル天井ヲ備エタル場室ヲ永續的住居用ニ供セントスルニハ庭園ニ接スル同一地內ノ建物全体ノ高サガ其前面ノ庭園ノ廣サ（建築物ヲ鉛直ニ測リ）ヲ超エザル場合ニ限ル

5 全部又ハ一部ヲ永續住居用ニ供セル建物ニアリテハ壁中ニ絕緣物ヲ水平ニ塗込ミ且其基底ヲ不浸透性ノ石造トナシ地下ノ濕氣及床下空氣ノ上昇ヲ防グヲ要ス

之等場室ノ床ガ人道又ハ庭面ヨリ低キ場合ニアリテハ地盤ト直接セル圍壁ヲ設ケテ（前面ニ日光及通風溝ヲ設ケザルトキ）側面ヨリ濕氣ノ侵入ヲ防グベシ永續住居室ノ床ハ凡ベテ已知ノ地下水高ノ最高ナルモノヨリ〇、四十以上ニ設クベキモノトス

6 屋下室ハ1、2及3號ノ規定ニ該當シ且直接ニ最上樓ノ上ニアリテ其室及他ノ屋下室ヨリノ通路ガ耐火壁ヲ以テ圍繞セルモノナル場合ニ限リ之ヲ永續住居用トナスコトヲ得右ノ條件ヲ具備セル場合ニアリテハ永續住居用トシテ許シタル五階ノ上部ノ屋下床ニ家庭用洗濯場ヲ設クルコトヲ得ベシ此場合ニ於テハ其床ガ人道又ハ庭面ヨリ十八米以上ニアルヲ妨ゲズ

但此場合ニハ洗濯場ノ附近ニ便室ヲ設クルヲ要ス（第二十五條）

7 永續住居用ニシテ且經濟的ニ區劃使用スル建物ノ各部ハ二箇ノ階段又ハ一箇ノ不燃性階段ニ容易且安全ニ達セラルベキ防火通路ヲ備フルヲ要ス此場合ニ於テ警察署ハ治安警察上階段設備及其路ニ關シ別段ノ要求ヲナスノ權ヲ有ス

8 永續住居用建物ノ存在セル地面ニハ組合各人ガ容易ニ通達シ得ベク且規定ニ從テ充分ノ數ヲ有スル便室（第二十五條）並ニ屢屑及灰溜ノ相當大ナルモノヲ備フルヲ要ス又之等ノ建物ニ對シテハ雨樋及排水管ノ設備ヲ命ズルコトヲ得

第三十八條　帝國工業條令第十六條ニ揭ゲザル工業場群衆來會場積置場

1 建築警察署ハ左ノ建物及其各部ニ對シテ第一章規定以外ノ特別要求ヲナスヲ得

(イ)製作場又ハ強火ヲ使用シ或ハ燃燒シ易キ材料ノ加工或ハ建物ニ特別大重量若クハ振動ヲ與ヘ或ハ不潔物ヲ盛ンニ排出シ或ハ又著シク空氣ヲ不良ナラシムベキ工業場ヲ設クベキ建物又ハ其各部、右ニ屬スベキモノハ就中左ノ如シ

各種ノ白熱爐及熔鑛爐鍛冶場瓦燒場コールタ及油製造所、燒竈燻室、木細工所(指物所轆轤製造所桶製造所車輛製造所等)印刷所染物所等

(ロ)多量ノ燃性材料貯藏所(庫、積置場等)

(ハ)多人數會合用ニ供スルモノニシテ千八百八十九年十月三十一日及千八百九十一年四月三日付警察令ニ揭ゲザル建物及其各部

(ニ)本庭ノ一部ガ「ガラス」葺トナレル(第二條第四號)地面ニ對シテモ亦警察署ハ特別要求ヲナスヲ得

2 之等建物又ハ其各部ノ建築及構造ニ關シ特別要求ヲ受クベキ點ハ就中左ノ如シ

壁、天井、屋根、床、階段、焚場及煙突ノ強度及防火程度防火壁ノ數及構造、階段及出口ノ數、幅及其他ノ設備、燃性塵屑物並ニ不潔排泄物ノ貯藏及除却、新鮮ナル空氣ヲ正シク採取スルヤ否ヤ井及水溜ノ保有

又鐵製煖爐及圍ヒヲ設ケザル導管ノ使用ヲ禁ジ並ニ或場室ヲ煖ムルニハ場室ノ外部若クハ石造火受ノ存在スル範圍內ニ於テノミ之ヲ許スヲ得

3 住屋內ニ指物所又其他之ニ類セル火災危險ノ恐アル細工場ノ設置並ニ火災危險ノ恐アル物品積置場ノ設備ニ關シテハ其上部ニアル各住室ハ少クトモ工場ニ接セザル階段通路一箇ヲ有シ且不燃性天井ヲ以テ工場及積置場ト區劃スル樣ナサシムルヲ得

4 第一號ニ揭ゲタル建物及營造物內部ノ構造ヲ變更セントスルニハ警察署ノ認可ヲ受クベシ

第三十九條 使用

1 永續住居又ハ第三十八條ニ揭ゲタル目的ニ供スベキ建物及其附屬物ハ建築上ノ構造ヲ終リ建築警察署ノ檢査ヲ經テ使用許可証ヲ下附セラルベキ以前ニ於テ使用スルヲ得ズ

2 使用許可証ハ通常假出來証下附後六ケ月以前ニ之ヲ下附スルヲ得ズ

3 此他使用届出及其手續ニ關シテハ第三十三條假出來規定ヲ準用スベシ

第四章 總則

第四十條 現在建物ニ對スル前記規定ノ適用

1 已ニ現在セル營造物ノ變更及改築ニ關シテハ通常本建築警察令ヲ適用ス

2 現在ノ建物及其各部ニシテ從來永續住居用若クハ第三十八條ニ揭ゲタル種類ノ目的ニ供スルヲ得ザリシモノナルトキハ第三十七條乃至第三十九條ヲ適用ス

3 各別若クハ一括シテ或建物ノ著ルシキ變更ヲ現ハスベキ工事ニ關シテハ建築警察署ハ設計並ニ本令規定ニ反スル建物各部ヲシテ本令ニ該當セシムベキ條件ヲ以テ之ヲ許可スルヲ得

4 右ノ外本令規定ハ適當ノ建設物ニ對シ

テハ公安上有力ナル原因ニヨリ已ムヲ得ザル且猶豫スベカラザル場合ニノミ之ヲ適用スルモノトス

第四十一條　境界變更

建築地ノ境界ヲ變更シタル爲本令ノ規定ニ反スル關係ヲ引起シタル場合ニアリテハ該建物及其各部ハ之ヲ適當ニ改造シ若クハ其取除ヲ行フベシ

第四十二條　例外

1 各種公ノ建築物ニ關シテハ本令規定ノ例外ヲ設ケ尙ホ此他ニアリテモ建築警察署ハ前記規定ノ範圍内ニ於テ例外ヲ許スコトヲ得

2 管區委員ハ一般ニ許可ニ付キ管轄權ヲ有ス

第四十三條　施行規定

1 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ實施ス又同時ニ千八百八十七年一月十五日付伯林市管區建築警察令ヲ廢止ス但右千八百八十七年ノ條令ニ基キテナシタル布告ハ引續キ其効ヲ有ス、シエーンベルヒカ井ーセン等ノ建築制限ニ關スル千八百九十四年四月二十七日付警察令亦同ジ

2 千八百八十七年一月十五日付建築警察令ニ依リテ下附シタル建築証ハ第二十九條ニ依リテ期間前ニ無効トナラザルモノヽ外本令發布ノ日ヨリ五ケ月ヲ經ルトキハ其効ヲ失フ但此期間中ニ工事ヲ開始シタルモノ及ビ新築ニ此期間中ニ基礎ヲ据ヱ且地ノ表面マデ穴庫壁ヲ築キタルモノハ此限ニアラズ

第四十四條　罰則

前記規定ニ違反スル行爲ニシテ他ノ罰則殊ニ帝國刑法第三百六十七條第十二號乃至第十五號及第三百六十七條第三號乃至第四號ニ掲記セサルモノハ三十マルク以下ノ罰金ヲ課ス但無資產ニ對シテハ之ニ相當スル拘留ニ處ス右ノ外警察署ハ規定ノ狀態ヲ有セシムベキ權能ヲ有ス

伯林千八百九十七年八月十五日

警　察　長印

第二章　建物ノ警察的檢査及監督

第二十七條　新築警察署ノ認可

建築警察署ノ認可ヲ要スルモノ左ノ如シ

1 各種ノ新築營造物

2 已成營造物ニアリテハ石造壁又ハ仕切リ壁、天井、鐵製構造物、突出部、階段、明リ取通風口及昇降機ノ穴焚火場又ハ煙突ノ修繕又ハ變更

第二十八條　建築案

1 建築警察署ノ認可請求ノ際（第二十七條）提出スベキモノ左ノ如シ

（イ）建築圖、之ニハ全階ノ地繪圖並ニ必要ナル橫斷面及外形ヲ顯ハシ建築物全体並ニ其各部ノ構造及測定ト共ニ使用スベキ材料ノ種類及大小厚薄ヲ示シ且場室ノ使用目的ヲ掲クベシ

但各階ハ次ギノ如ク表示スベシ

（一）土中室

（二）地階

（三）第一第二（I、II）階等

（四）屋根層（階）

車道面及人道面ニ對スル建築物ノ高サハ斷面ヲ以テ明示スベシ又圖面各部ノ檢査ニ必要ナルモノニ限リ明細圖ヲ以テ說明シ且構造部ノ耐力ヲモ算定記入スベシ但シ强弱計算ノ提出ハ建築警察署ノ認可ヲ經テ後日ニ至リ提出スルヲ得ルモノトス

建築圖ハ通常百分ノ一明細圖ハ二十分一ノ尺度ヲ以テ調製スベシ

新築營造ノ場合並ニ已成建築物ノ外壁ノ取毀ハシ又ハ至要ノ變更ヲナサントスル場合若クハ此他ノ必要ナル場合ニアリテハ更ニ左ノ圖面ヲ提出スベシ

位置圖、之ハ尺度五百分ノ一以上ヲ以テ境界道路及隣地ト建築地トノ位置並ニ建築物ニ接スル線ヲ示シ且同一地内ノ他建物街路隣地境界隣地上ノ建物ト本建築物トノ距離ヲ詳記シ又警察署ノ望ミニ依リテハ認可セル測量家ヲシテ之ガ證明ヲナサシムルヲ要ス

2 建築スベキ土地ニハ家屋及地所登記簿ノ番號ヲ常ニ表示スベシ

3 新築ノ場合ニアリテハ建築案提出ノ際排水狀態モ屆出ツベシ

4 圖面ニハ色彩ヲ施シ一覽ニ便ナラシムベシ

5 建築案ハ凡ベテ三通ゾヽ調製シ（建築主及責任建築家署名ノ上）呈出スベシ

6 建築案ニ關スル此ノ他ノ規定ハ警察署之ヲ令スルヲ得（千八百九十七年八月十五日付布告參照（第九十頁））

第二十九條　建築證

1 建築圖面ガ警察署ニ於テ通過シタルトキハ建築主ハ先ニ提出シタル建築案ノ一通ニ認可奥書ヲ附シタルモノ及建築條件ヲ規定セル建築證ノ下附ヲ受クルモノトス

2 建築證及建築案ハ工事中ハ勿論取除工事ノ終了ニ至ルマデ（第三十三條及第三十九條）常ニ建築場ニ保存スベキモノトス

3 新築證ハ一ケ年後其効力ヲ失フ但此期間中ニ基礎ノ据エ付ケヲナシ且穴庫壁ガ地ノ表面ニ達スルマデ築造シタルモノニアリテハ此限リニアラズ右ノ外建築證ハ一ケ年ノ期間中ニ工事ヲ開始セルカ又ハ開始セル工事ニアリテモ一ケ年以上着實ニ繼續セザル場合ニアリテモ亦前記期間後其効ヲ失フ

第三十條　工事開始

工事ヲ開始セントスルトキハ建築證ノ日附及番號ヲ記載シ書面ヲ以テ豫メ其月日ヲ警察署ニ届出ヅベシ

第三十一條　足場及柵

1 足場及柵ヲ設ケ且之ヲ使用シタルトキハ書面ヲ以テ警察署ノ認可ヲ經且ツ此ノ認可條件ニ從ヒタル場合ニ限ル但警察署ヨリ其築設ヲ命ジタルトキハ申立ヲ要セズ

2 通行ニ妨ゲナク且工事ニ必要ナル場合ニ限リ足場及柵ヲ人道上ニ突出セシムルコトヲ得ベシ

3 右ノ外足場ノ構造及ビ使用ニ關シテハ其特別規定ニ從フベキモノトス

千八百九十九年十二月五日附訓令（伯林）

千八百九十八年七月一日付訓令ノ追加トシテ今後通常左ノ規定ヲ實施シ且條件トシテ建築認可書中ニ之ヲ記入スベシ

1 發火シ易キ物質ノ加工ヲ目的トスル製造所又ハ工業場並ニ夥シキ發火物ノ貯藏用ニ供スベキ營業場又ハ積置場ノ新築又ハ改築ノ場合ニアリテハ左項ニ從フ

（イ）階段ニ通ズル戸ニシテ千八百九十八年七月一日付訓令第四號ニ從ヒテ一般ニ許可セラルベキモノハ兩面ニ鐵葉ヲ張レル木戸ニシテ不燃性ノ閾及戸壁ヲ有シ漆壁又ハ鐵戸框ニ嵌入セラレ鐵框ヲ有シテ自働閉鎖ヲナシ得ベキモノナルヲ要ス

（ロ）各場室ノ窓ノ約三分ノ一ハ六十乃至八十珊知米ノ開キ口ヲ有スル扉アルヲ要ス

（ハ）階段室ハ煤煙排泄用トシテ下層室ヨリ開キ得ベキ設備ヲナスベシ

（ニ）場室内排氣用ノ戸及關廻廊及階段ニハ通行ノ障害ヲ來スベキモノヲ置クベカラズ

（ホ）電燈又ハ動力輸送ノ場合ニアリテハ使用減リノ都度信用シ得ベキ商店又ハ適當ノ專門家ニ乞ヒ其設備ガ獨逸國電氣技師組合ノ取締規則ニ相當セル旨ノ證明ヲ提出スベシ

右ノ外少クトモ年々同樣ノ方法ヲ以テ其設備ガ右取締規則ニ引續キ適當セルヤ否ヲ檢査スベシ而メ要求ニ依リ其成績表ヲ警察署ニ提出スベシ

2 群衆ノ來會ヲ目的トスル建物及其各部ニシテ千八百八十九年十月三十一日及千八百九十一年四月三日付警察令ニ含マザルモノ（製造所、寺院、學校、大病院等）ノ新築及改築ニアリテハ左記ニ從フ

（イ）排氣用ノ戸ハ外方ニ開キ其扉ガ階段室ニ入ラザル樣ニナスベシ開扉ガ廻廊ニ入ルヲ許ス場合ハ廻廊ガ廣クシテ之ガ爲メ通行ニ故障ヲ來サヾル時ニ限ル場室ノ使用中ノ切ノ戸ニハ角閂又ハ推閂ヲ備フベカラズ寧ロ一箇ノ捻手ヲ以テ內ヨリ容易ニ開クヿヲ得セシムルモノナルヲ要ス

戸支關廻廊及階段ニハ通行ヲ妨グベ

キ物ヲ置クベカラズ

（ロ）電燈及動力輸送ノ場合ニアリテハ前記1、第（ホ）號記載ノ規定ヲ適用ス

(伯林) 工業場、衆人集會場、積置場消防及治安警察規定

千八百九十七年八月十五日付伯林管區建築令第三十八條記載ノ建物及其各部ノ新築及改築ノ場合ニアリテハ今後通常左記規定ヲ適用シ且條件トシテ建築認可証中ニ記入ス

1 土中室ハ非常用階梯ヲ有シ若クハ前記第三十八條第二號ニ基キ特ニ階梯ノ備付ヲ命セラレタル場室ニ直接ノ連絡ヲ有スルヲ得ズ

2 土中室ノ入口ハ屋蓋ヲ貫キ庭又ハ街路ヨリ直通セシムベシ

3 土中室ノ大ナルモノニアリテハ多クトモ五百平方米毎ニ防火壁ヲ以テ區劃シ各區劃ニハ第二項所載ノ入口一箇ヲ設クベシ

4 發火シ易キ物質ノ加工ヲ目的トセル工業場及夥シキ發火物ノ貯藏ヲ目的トセル營業場又ハ積置場ハ建物ノ各部ヲ通ズル階段室ニ耐シテ成ルベク之ヲ閉鎖スル樣ナスベシ萬一閉鎖不能ノ場合ニアリテハ防火煙性ノ自働閉鎖戸ヲ設ケ災害ヲ豫防スベシ

5 建築警察令第三十八條第一號1、及2、項ニ於テハ警察署ハ其狀況ニ依リ第二階梯ノ設備ニ付キ關知スルヲナキモ此場合ニ於テ建築監督官ノ工事設計案ニ依リ第一退却路（非常廊下）ノ設備如何ヲ判定スベシ右ニ付キ問題トナルベキモノハ同一地内ノ地ノ建物又ハ建物ノ部分ヘノ連絡路出窓ヘノ通路同一地内ノ隣接セル屋上ヘノ非常口非常梯及其他比較的少貴ヲ要シ得ベキ單簡ナル設備之レナリ

6 前記第三十八條3ニ揭ゲタル建物及其各部ニ關スル場室入口ニ付キテノ要件ハ如何ナル場合ヲ問ハズ千八百八十九年十月三十一日及千八百九十一年四月三日付警察令ニ於テ此点ニ付キ定メタル條件ヲ超ユルヲ得ズ（同令七十一條ヲ特ニ參照セヨ）伯林千八百九十八年七月一日警察長

千八百八十七年四月二十八日

布告 伯林）

一軒建又ハ相互ノ連絡セル工場ニシテ三十平方米突ノ平面積ヲ有スルモノハ次ノ規定ヲ適用ス

1 住屋内ニ木工場並ニ之ニ附屬セル物置場ヲ設置シ得ル場合ハ之等場室ノ上部ニ存在セル住室總体ガ右場室ト全ク干係ナキ一箇以上ノ階段口ヲ有シ且耐火性ノ天井ヲ以テ此場室ト分離セラレタルトキニ限ル

2 工場附屬ノ階梯ハ耐火性ナルヲ要ス而シテ此階段ヨリ工場ニ通ズル戸ハ鐵製ニシテ外方ニ向テ自働開閉ヲナサシムベシ戸ハ木製ノ縁又ハ板ニ取付クルヲ許サズ

3 各工場ニハ特別膠室ヲ設ケ其圍壁ヲ石造トナシ天井ヲ弓形トナスベシ膠室ノ下ニアル天井並ニ床ハ總シテ不燃燒性材料ヲ以テ構造スベシ工場ト膠室トノ間ニハ一枚ノ鐵戸ヲ設クルヲ要ス此戸及膠室ノ竈間ニハ少クトモ半米突ノ距離ヲ置クベシ

所謂ライムカミーン（膠竈）ハ之ヲ許サズ

4 各工場ニハ特別屑置場一ケ所ヲ有スルヲ要ス該場ハ土中室又ハ平ラ地ニ之ヲ置キ石壁ヲ以テ他ノ場室ト區劃シ圓天井トナスベシ又該置場ニハ庭上ニ通ズル特別ノ入口ヲ設ケ此所ニ鐵又ハ鐵張戸ヲ備フルヲ要ス

第五章 建物間隔（ベルリン）

建物ノ相互間隔アルカ或ハ其一部隔リ居ルトキハ其周壁ノ距離二メートル五十以上ニナシ窓又ハ入口等何等ノ孔口等ヲ設クベカラズ

窓等ヲ設クル場合ハ六メートル以上ノ距離ヲ設クベシ

相對スル建物トハ七十五度ノ角度ヲ超ユルモノヲ云フ



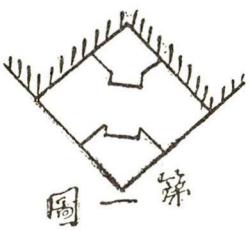
ベルン

第七十條　本條令發布ノ當時實存セル本建物ノ後面ニ於ケル明リ窓ニ對スル隣者ハ二十五呎以内ノ距離ニ建築ヲナスヲ得ズ之ニ反シテ當時實存セル内庭及中間建物ノ後方面ノ明リ窓ニ面シテハ十二呎ノ距離ノミニテ建築ヲ施スコヲ得ベシ

相對スル窓ナキ時ハ各持主ハ其境界線上ニ建築スルコヲ得但光線及空氣ハ自己ノ土地上ニテ之ヲ取ルベシ

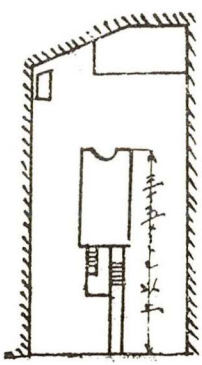
（伯林第一章）家屋ト道路トノ關係

○公道ニ接續シ家屋ヲ建設スルモノハ其前面道路ト併行ニ建築スベシ但シ道路境界ヨリ六メートルヲ隔ツルトキハ此限ニ非ズ又道路ノ交叉スル場所ハ隅欠ヲナスヲ得（第一圖）



○道路面ヨリ奥行三十五メートル以上ノ距離アル建造物ハ巾二メートル三十センチ高二メートル八十センチ以上ノ通路ヲ設ケ道路トノ交通ニ供スベシ

○地階ニ於ケル各室ト道路又ハ通路マデノ距離ハ「二十メートル」以内トナスカ又内庭ヲ設ケアル場合ハ各室ヨリ内庭マデ「二十メートル」以内タルコト而シテ何レモ廊下又ハ通路ヲ通リ外出ナシ得ル樣設備スベシ



○通路ノ巾トハ總テノ突出物ノ尖端ヨリ測尺ス

廣告目次

ハ、原安商會　一六
ニ、日本コルク株式會社　二〇
日本石綿盤株式會社　三三
ホ、ホーン株式會社大阪支店　二九
ヘ、米國貿易會社　三二
東京電氣株式會社　(前)一
オ、大阪鐵筋混凝土工務所　二四
大阪煖房商會　裏表紙表
大阪窯業株式會社　二八
大野式特許品營業所　裏表紙裏
ヨ、横河橋梁製作所　一八
タ、高石商會　一九
高田商會　一七
ナ、土木建築内外材料合資會社　(前)二
ム、村井工業所　一二
ウ、宇野澤組スティンド硝子製作所　三四
ノ、野澤幸三郎　二四
ヤ、山本窯業商店　三四
マ、松尾和助商店　三六
山本商會　三五
ケ、建築事務所案内　四—七
建築請負業者案内　八—一二
コ、コルク工業合資會社　二五
エ、榮進社　二一
ア、淺野スレート株式會社　二二
淺海商店　二三
キ、銀座建築用品店　一四—一五
共同建材製作所　三一
メ、明正社　二七
材石材商案内　一三
ス、須賀商會　六
巢鴨製作所　三〇